

書評_202008



現代戦争論-超「超限戦」~これが 21 世紀の戦いだ~(ワニブックス|PLUS|新書 298)

渡部 悦和 / 佐々木 孝博 著

ワニブックス

情報戦、サイバー戦、宇宙戦、電磁波戦…。目的のためには手段を選ばない「超限戦」を展開する中国とロシア。われわれ民主主義国家はどう対処すべきか？ 元陸将と元海将補が、邪道の戦い方に対抗するための方策を語る。

2020:7./ 421p

978-4-8470-6167-7

本体 ¥1,200+税



産経新聞 2020/08/01



超限戦~21世紀の「新しい戦争」~(角川新書 K-301)

喬良 / 王湘穗 著

KADOKAWA

戦争の方式は既に大きく変わっている。中国現役軍人(当時)による全く新しい戦争論。中国だけでなく、米国、日本で話題を呼んだ戦略研究書の復刊。

2020:1./ 322p

978-4-04-082240-2

本体 ¥1,200+税



産経新聞 2020/08/01



東京、コロナ禍。

柏書房

コロナウイルスの感染拡大によって激変した首都・東京。張り詰めた緊張感や異様さ、そしてそこに生きる市井の人びとの戸惑いや希望をフラットな視野で映し出す、コロナ時代の始まりをとらえた写真集。

2020:7./ 159p

978-4-7601-5261-2

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/08/01、読売新聞 2020/08/23



おいしくて泣くとき

森沢明夫 著

角川春樹事務所

貧困家庭の子どもたちに無料で「こども飯」を提供する「大衆食堂かざま」。その店のオーナーの息子、中学生の心也は、こども飯を食べにくる幼馴染の夕花が気になっていて…。『ランティエ』連載を単行本化。

2020:6./ 339p

978-4-7584-1350-3

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/08/02

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBNも併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は2020年7月時点での税抜価格です。



ヤクシマザルを追って～ゴリラ学者と歩く南限のニホンザル観察図鑑～

山極 寿一 著
野草社

動物園のサルとも本土のニホンザルとも違う、とてもユニークなヤクシマザル。その姿と、サルたちの目を通して見た屋久島の自然のおもしろさをたくさんの絵とともに伝える。書き込み式の観察ノートも収録。

2020/6./ 50p
978-4-7877-2082-5
本体 ¥1,300+税



産経新聞 2020/08/02



丸山圭子の作詞作曲・自由自在～ラクラク曲が書ける 10 のステップ～

丸山 圭子 著
言視舎

作曲に必要な基礎知識から、作曲の自由な発想力、作詞の世界観の広げ方まで、作詞作曲のプロセスを 10 のステップにしてまとめ、具体的なアドバイスやエクササイズとともに解説する。動画が視聴できる QR コード付き。

2020/7./ 111p
978-4-86565-183-6
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/08/02



疫病 2020

門田 隆将 著
産経新聞出版

100 年に 1 度と言われるウイルス禍の日本、中国、世界。新型コロナウイルス発生からの事象を細かく追い、検証し、本質を抉るノンフィクション。『正論』掲載の佐藤正久との対談も再録。

2020/6./ 382p
978-4-8191-1387-8
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/08/02



「街小説」読みくらべ

都甲 幸治 著
リットーミュージック

名作を「街縛り」で読んで、文豪と一緒に仮想街歩き! 室生犀星と古井由吉の金沢、村上春樹と坪内逍遙の早稲田など、25 の小説に詰まった 8 つの都市の魅力に迫る。立東舎 web サイト連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2020/7./ 255p
978-4-8456-3498-9
本体 ¥2,200+税



産経新聞 2020/08/02



地上最強の男～世界ヘビー級チャンピオン列伝～

百田 尚樹 著
新潮社

ボクシング黎明期からモハメド・アリに至る、26 人のヘビー級王者たち。彼らはその圧倒的な強さとカリスマ性で、世界の趨勢をも動かす存在だった。唯一無二の男たちの栄光と悲哀を余すことなく綴る。『文蔵』連載に加筆修正。

2020/6./ 510p
978-4-10-336415-3
本体 ¥1,900+税



産経新聞 2020/08/02



肉とすっぽん～日本ソウルミート紀行～

平松 洋子 著
文藝春秋

うまい肉が生まれる現場にはソウルがある! 害獣を地域の恵みに変えた島根県美郷町モデル、馬肉文化を守り抜いた熊本の挑戦...それぞれの土地で培われた「知恵と技」を紹介。“食の未来図”をまるごと味わうノンフィクション。

2020/7./ 266p
978-4-16-391223-3
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/08/02、東京・中日新聞 2020/08/16



類語分類感覚表現辞典

中村 明 著
東京堂出版

「感覚」を五感や状態等で 12 系統に分類。類語表現辞典的に熟語や慣用表現を分け、語釈と文学作品から、多数の優れた類例を紹介する。表現ワンポイント解説も掲載し、作家がどう表現し、言葉を使い分けたかも明確にする。

2020/6./ 23p,380p
978-4-490-10919-1
本体 ¥3,600+税



産経新聞 2020/08/02、読売新聞 2020/08/23



一人称単数

村上 春樹 著
文藝春秋

世界は流れていく。物語が光景をとどめる。表題作ほか「石のまくらに」「チャーリー・パーカー・プレイズ・ボサノヴァ」など 8 作を収録した短篇小説集。『文學界』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

2020/7./ 235p
978-4-16-391239-4
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/08/02、毎日新聞 2020/08/08、日本経済新聞 2020/08/29



食品添加物はなぜ嫌われるのか～食品情報を「正しく」読み解くリテラシー～ (DOJIN 選書 83)

畝山 智香子 著
化学同人

食品添加物悪玉論、オーガニックの安全神話…。食をめぐるさまざまな情報は、どう見極めたらよいか。印象やイメージに惑わされることなく、科学的知見に基づいて適切に判断するためのポイントをわかりやすく解説する。

2020/6./ 252p
978-4-7598-1683-9
本体 ¥1,900+税



産経新聞 2020/08/08



賢者たちの街

エイモア・トールズ 著
早川書房

1937 年の大晦日。25 歳のケイティはジャズバーで若き銀行家ティンカー・グレイと出会う。偶然の出会い、つましく暮らしていた読書好きのケイティを、ニューヨークの上流社会の旅に導くことになる…。

2020/6./ 484p
978-4-15-209939-6
本体 ¥3,300+税



産経新聞 2020/08/09



絶望を希望に変える経済学～社会の重大問題をどう解決するか～

アビジット・V・バナジー／エステル・デュフロ 著
日本経済新聞出版社

貿易戦争、社会格差、移民、環境破壊…。現代の危機において、まともな「よい経済学」は何ができるのか? 2019 年ノーベル経済学賞受賞者が、よりよい世界にするために、経済学にできることを真っ正面から問いかける。

2020/5./ 523p
978-4-532-35853-2
本体 ¥2,400+税



産経新聞 2020/08/09



たかが殺人じゃないか～昭和 24 年の推理小説～

辻 真先 著
東京創元社

昭和 24 年、ミステリ作家を目指している風早勝利は、名古屋市内の新制高校 3 年生になった。そして暑い夏休みの最中、2 つの不可解な事件に遭遇し…。17 歳の少年と那珂一兵が解き明かす、哀しき真実とは。

2020/5./ 350p
978-4-488-02810-7
本体 ¥2,200+税



産経新聞 2020/08/09



パンデミックと漢方～日本の伝統創薬～

渡辺 望 著
勉誠出版

日本の伝統医学であり、さまざまな即効性があり、多くの病を治してきた漢方。新薬アビガンも漢方研究から生まれた。21 世紀の日本の創薬力を、漢方薬の歴史から明らかにする。

2020/6./ 38p,148p

978-4-585-24012-9

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/08/09



字がきれい!はいいことづくし～文字力向上のための ESSAY と LESSON～

川南 富美恵 著
評言社

あえて直筆を求められる願書や履歴書の類は言うに及ばず、日々の暮らしの中でのメモや一筆箋に手書きの文字を添えることで、他者からの評価が上がるだけでなく、自分自身にも良い変化が現れるのです。いくつになっても、今から「きれいな字」への一歩を踏み出してください。

2020/7./ 127p

978-4-8282-0712-4

本体 ¥1,300+税



産経新聞 2020/08/09



首里の馬

高山 羽根子 著
新潮社

中学生の頃から沖縄の郷土資料館の資料整理を手伝う未名子は、世界の果ての遠く隔たった場所にいる人たちにオンライン通話でクイズを出題するオペレーター。ある台風の夜、庭に迷いこんできたのは…。『新潮』掲載を単行本化。

2020/7./ 158p

978-4-10-353381-8

本体 ¥1,250+税



産経新聞 2020/08/09、朝日新聞 2020/08/16、朝日新聞 2020/08/29



ケラリーノ・サンドロヴィッチ自選戯曲集<2> 昭和三部作篇

ケラリーノ・サンドロヴィッチ 著
早川書房

日本演劇界のトップランナー、ケラリーノ・サンドロヴィッチの自選戯曲集。2 は、世界大恐慌・日本の敗戦・東京五輪をモチーフにつむぎあげた、奇怪で滑稽な群像劇 3 本を収録。本体は背表紙なし糸綴じ。

2020/6./ 379p

978-4-15-209942-6

本体 ¥3,800+税



産経新聞 2020/08/09、日本経済新聞 2020/08/22



ケラリーノ・サンドロヴィッチ自選戯曲集<1> ナイロン 100°C篇

ケラリーノ・サンドロヴィッチ 著
早川書房

日本演劇界のトップランナー、ケラリーノ・サンドロヴィッチの自選戯曲集。1 は、劇団ナイロン 100°C で 2008?2018 年に上演された「2 番目、或いは 3 番目」「社長吸血記」など全 5 本を収録。本体は背表紙なし糸綴じ。

2020/6./ 555p

978-4-15-209941-9

本体 ¥4,600+税



産経新聞 2020/08/09、日本経済新聞 2020/08/22



そこにはいない男たちについて

井上荒野 著
角川春樹事務所

愛する夫を喪った女と、夫が大嫌いになった女。おいしい料理教室を舞台にした、ふたりの“妻”の孤独と冒険の物語。『ランティエ』連載を加筆し書籍化。

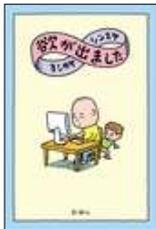
2020/7./ 201p

978-4-7584-1353-4

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/08/15



欲が出ました

ヨシタケ シンスケ 著
新潮社

人間って「プチ欲」が出た時、何とも言えない顔をする。ついつい考えすぎちゃう絵本作家が、「ネコにほめてもらいたい」「架空の島で休暇を取りたい」といったさまざまな「欲」をスケッチと共に書きとめる。

2020:7./ 151p
978-4-10-352452-6
本体 ¥1,000+税



産経新聞 2020/08/15



天使のいる廃墟

プリオ・ホセ・オルドバス 著
東京創元社

人生を諦めた人にしか用がないと言われる廃墟パライソ・アルト。そこに住む「天使」は不思議な来訪者たちの話に耳を傾け、“向こう側”への旅立ちを見送り…。スペイン発、詩情に満ちた、不思議であたたかな物語。

2020:6./ 142p
978-4-488-01104-8
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/08/16



奇跡の住宅～旧渡辺甚吉邸と室内装飾～(LIXIL BOOKLET)

LIXIL出版

岐阜の名家・渡辺家の14代当主・甚吉の私邸として1934年(昭和9)に建てられた、旧渡辺甚吉邸。今和次郎による室内装飾など、当時の日本における最高水準の経験・知見が投入された奇跡の住宅を写真を交えて紹介する。

2020:6./ 71p
978-4-86480-530-8
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/08/16



食べることと出すこと(シリーズケアをひらく)

頭木 弘樹 著
医学書院

食事と排泄という「当たり前」が当たり前でなくなったとき、世界はどう変わったのか。潰瘍性大腸炎に襲われた著者の闘病記。切実さの狭間に漂う不思議なユーモアが、何が「ケア」かを教えてくれる。テキストデータ引換券付き。

2020:8./ 316p
978-4-260-04288-8
本体 ¥2,000+税



産経新聞 2020/08/16



国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ～藤井宏昭外交回想録～

細谷雄一／白鳥潤一郎／山本みずき 編
藤井 宏昭／細谷 雄一／白鳥 潤一郎 著
吉田書店

新日米安保条約調印式、日中国交正常化、石油危機、昭和天皇大喪の礼、日英関係…。駐英大使、官房長、北米局長などの要職を歴任し、多くの歴史的転換点に立ちあつた外交官が、戦後日本の歩みを振り返る。

2020:5./ 363p
978-4-905497-86-8
本体 ¥3,000+税



産経新聞 2020/08/16、産経新聞 2020/08/16



ことばにできない宇宙のふしぎ

エラ・フランシス・サンダース、前田 まゆみ 著
創元社

ベストセラー「翻訳できない世界のことば」の作者が贈る、小さな美しい科学絵本。世界を司る宇宙の原理や法則、自然の中にある不思議について、イメージ豊かなイラストと共に、詩情豊かな文章で綴る。

2019:7./ 159p
978-4-422-44017-0
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/08/22



ヒロシのソロキャンプ～自分で見つけるキャンプの流儀～

ヒロシ 著
学研プラス

ソロキャンパー芸人・ヒロシの全キャンプギアを公開。さらに、キャンプ場選び、サイト設営、水の調達や炊飯といった、キャンプの実践を解説する。YouTube 撮影術や愛車も紹介。

2020/8./ 118p
978-4-05-801192-8

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2020/08/22



お父さんはユーチューバー

浜口 倫太郎 著
双葉社

宮古島のゲストハウス「ゆいまーる」のひとり娘で、絵を描くことが大好きな小学5年生の海香。ある日、父親の勇吾が「俺はユーチューバーになる!」と宣言し…。宮古島の自然とゲストハウスに集う人々を通じて描く家族小説。

2020/7./ 266p
978-4-575-24251-5

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2020/08/23



青山二郎～物は一見 人は一口～(ミネルヴァ日本評伝選)

田野 勲 著
ミネルヴァ書房

十代から多額の小遣いを貰い、骨董品を買い漁り、飲む打つ買うの放蕩に耽った青山二郎。柳宗悦、魯山人、小林秀雄、中原中也、白洲正子らとの交流は、美を追い求めた求道者としての生涯にいかに関わったのか、その全貌に迫る。

2020/7./ 10p,361p,5p
978-4-623-09007-5

本体 ¥4,000+税



産経新聞 2020/08/23



フェミニズムはもういない、と彼女は言うけれど～ポストフェミニズムと「女らしさ」のゆくえ～

高橋 幸 著
晃洋書房

「フェミニズム離れ」という意味でのポストフェミニズムに焦点を絞り、ポストフェミニズムと呼ぶことのできる主張内容や社会的態度とは具体的にどのようなものなのかを詳しく検討。現代の「女らしさ」のあり方を明らかにする。

2020/6./
18p,205p,10p
978-4-7710-3380-1

本体 ¥2,000+税



産経新聞 2020/08/23



音吉伝～知られざる幕末の救世主～

篠田 泰之 著
新葉館出版

世界に日本型民主主義を示した初の国際人、ジョン・M・オトソンこと山本音吉は、一漂流民からモリソン号事件を経て、幕末の救世主となった。数々の歴史的イベントに関わり、49歳で異国の地で果てた、その数奇な生涯に迫る。

2020/7./ 605p
978-4-8237-1024-7

本体 ¥2,600+税



産経新聞 2020/08/23



李登輝秘録

河崎 眞澄 著
産経新聞出版

独裁政権下にあった戦後の台湾を民主国家に昇華させた李登輝の軌跡をたどり、その生涯を通じて台湾と日本を考えることで、中国や米国など関係国も含む地域の近現代史を浮き彫りにする。『産経新聞』連載を加筆修正し単行本化。

2020/7./ 309p
978-4-8191-1388-5

本体 ¥1,700+税



産経新聞 2020/08/23



アメリカは昭和天皇をどう見たか～戦争とジャーナリズムの交差点～(幻冬舎ルネッサンス新書 た-17-1)

田中 俊雄 著

幻冬舎メディアコンサルティング

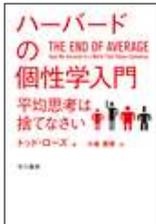
反日感情が高まる戦争前夜のアメリカで、昭和天皇はどのように報じられていたのか。活字ジャーナリズムの最先鋒『タイム』『フォーチュン』『ライフ』の主要米国誌を徹底分析し、斬新な視点で海の向こうの天皇観を考察する。

2020/8./ 169p
978-4-344-92902-9

本体 ¥800+税



産経新聞 2020/08/23



ハーバードの個性学入門～平均思考は捨てなさい～(ハヤカワ文庫 NF 537)

トッド・ローズ、小坂 恵理 著

早川書房

平均思考がいかに障害となるかを歴史的経緯と研究、具体的な事例をもって説く。また平均思考を排して成功した実際の学校や企業の例を通じ、個性を存分に発揮することで人生で優位に立つヒントとなる3つの原理を紹介する。

2019/3./ 322p

978-4-15-050537-0

本体 ¥920+税



産経新聞 2020/08/29



はずれ者が進化をつくる～生き物をめぐる個性の秘密～(ちくまプリマー新書 353)

稲垣 栄洋 著

筑摩書房

「平均的な生き物」なんて存在しない。個性の数は無限大。植物学者・稲垣栄洋が、唯一無二の生命をつなぐために、生き物たちがとってきたオンリーワンの生存戦略を紹介し、個性の秘密を解き明かす。

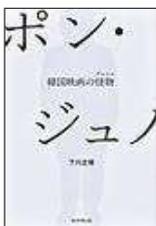
2020/6./ 189p

978-4-480-68379-3

本体 ¥800+税



産経新聞 2020/08/29



ポン・ジュノ～韓国映画の怪物～

下川正晴 著

毎日新聞出版

映画「パラサイト」で数々の栄冠を勝ち取ったポン・ジュノ。「オタク」はいかにして名監督になりえたのか。作品、生い立ちをはじめ、小説家の祖父・朴泰遠や父から受け継いだDNA、現代韓国エンタメ事情まで徹底解剖する。

2020/6./ 218p

978-4-620-32633-7

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/08/30



さらば、神よ～科学こそが道を作る～

リチャード・ドーキンズ 著

早川書房

神さまはあまりにたくさんいて、とても気ままで、実際のところどんな仕事をしているのかもよく分からない。世界を前進させてきたのは神ではなく、いつも科学だっただろう？ 脱宗教と科学への信頼の書。

2020/7./ 327p

978-4-15-209957-0

本体 ¥2,300+税



産経新聞 2020/08/30



風に溺れる

青羽 悠 著

PHP研究所

仕事も恋愛も惰性の日々を過ごしているOLの遙は、ある日、YouTubeで「バズって」いる無名のアーティストの曲を見つける。だが、彼は1年前に亡くなっていて…。ひとりの天才に翻弄された6人の人生を描いた青春小説。

2020/7./ 327p

978-4-569-84723-8

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/08/30



兵站～重要なのに軽んじられる宿命～

福山 隆 著
扶桑社

兵站とは何か? なぜ重要なのか? 作戦上どう扱われるのか? なぜ主たる敗因になりがちなのか? 兵站を担当したことのある元陸将が、インパール作戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争など、過去の戦役を例にわかりやすく解説する。

産経新聞 2020/08/30

2020:7./ 310p
978-4-594-08567-4
本体 ¥2,000+税



シャツとダンス～「アパレルの革命児」が起こした奇跡～

玉置 美智子 著
文藝春秋

年間 70 万着を売り上げ、NY、上海に出店し、海外でも支持を集めている「鎌倉シャツ」。なぜ NY で成功できたのか? なぜ“低価格高品質”を実現できたのか? 創業者・貞末良雄の人生とビジネスの極意を伝える。

産経新聞 2020/08/30

2020:8./ 302p
978-4-16-391243-1
本体 ¥1,500+税



ハリウッド式映画制作の流儀～最後のコラボレーター＝観客に届くまで～

リンダ・シーガー 著
フィルムアート社

アaron・ソーキン(脚本家)、スティーヴン・スピルバーグ(監督)、メルル・ストリープ(俳優)...。名匠たちの言葉から、映画制作の知識と喜びが学べる書。脚本がスクリーンにかかるまでのコラボレーションの過程がわかる。

産経新聞 2020/08/30

2020:7./ 341p
978-4-8459-2001-3
本体 ¥2,200+税



サロメ(光文社古典新訳文庫 KA W 1-2)

ワイルド 著
光文社

継父ヘロデ王の御前で舞ってみせた王女サロメが褒美に求めたものは、囚われの美しき預言者ヨカナンの首だった...。少女の無垢で残酷な激情と悲劇的結末を鮮烈に描いた戯曲作品。

朝日新聞 2020/08/01

2012:4./ 225p
978-4-334-75248-4
本体 ¥780+税



古関裕而～流行作曲家と激動の昭和～(中公新書 2569)

刑部 芳則 著
中央公論新社

日中戦争中、軍歌「露営の歌」で一世を風靡し、戦後は「長崎の鐘」「オリンピック・マーチ」といった、流行歌やスポーツ音楽など数々の名曲を残した作曲家・古関裕而。戦争から復興まで、昭和史を音楽で彩った彼の生涯を辿る。

朝日新聞 2020/08/01

2019:11./ 4p,294p
978-4-12-102569-2
本体 ¥880+税



君はるか～古関裕而と金子の恋～

古関 正裕 著
集英社インターナショナル

昭和日本を代表する国民的作曲家・古関裕而と妻・金子。ふたりは文通のみで情熱的な恋をし、ひとたび会うなり結婚し...。両親が残した往復書簡を元に、長男が綴った美しい愛の物語。貴重な写真が満載の略年譜も収録。

朝日新聞 2020/08/01

2020:2./ 239p
978-4-7976-7376-0
本体 ¥1,600+税





白嶺の金剛夜叉～山岳写真家白簾史朗～

井ノ部 康之 著
山と溪谷社

山岳写真界の草分けであり、日本を代表する山岳写真家・白簾史朗の生涯を描く。『山と溪谷』連載の「スーパー・ロングインタビュー 白簾史朗語りつくす」をもとに、丹念な追加取材をしてまとめた評伝。

2020:5./ 326p
978-4-635-17203-5
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2020/08/01



古関裕而の昭和史～国民を背負った作曲家～(文春新書 1256)

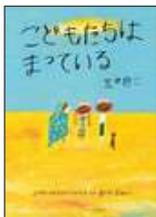
辻田 真佐憲 著
文藝春秋

日本人の欲望に応え続けた昭和のヒットメーカー・古関裕而。彼はいかなる人物だったのか、その作品は昭和史にいかなる役割を果たしたのか。古関裕而の生涯と激動の昭和を気鋭のメディア研究者が描きつくす。

2020:3./ 302p
978-4-16-661256-7
本体 ¥950+税



朝日新聞 2020/08/01



子どもたちはまっている(亜紀書房えほんシリーズ<あき箱> 3)

荒井 良二 著
亜紀書房

いつもの風景、季節の移ろい、突然の雨、特別な一日。繰り返す日々のなかで、子どもたちは、いつもなにかを待っている。船が通るのを、貨物列車を、雨上がりを、夜明けを…。荒井良二が長新太に捧げる絵本。

2020:6./ 1 冊(ページ付なし)
978-4-7505-1598-4
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/08/01



源平妖乱 信州吸血城～書下ろし長編時代小説～(祥伝社文庫 た40-2)

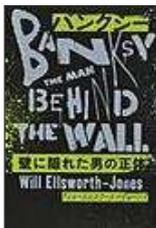
武内 涼 著
祥伝社

平安末期の京都に巢食う血を吸う鬼<殺生鬼>を一掃した<影御先>は、組織再編のため信濃に集結する。だが、吸血の主・黒滝の尼の妖術で壊滅し、霊宝を奪われてしまう。影御先の源義経と巴は、生き残った仲間と血戦を挑む。

2020:5./ 449p
978-4-396-34634-8
本体 ¥860+税



朝日新聞 2020/08/01



バンクシー～壁に隠れた男の正体～

ウィル・エルスワース=ジョーンズ 著
PARCO出版

アウトローからアーティストへ昇りつめたバンクシー。身を隠しながら、自分自身の物語を守り続けて活動する彼の軌跡を追う。緻密な取材で人物像を浮き彫りにした貴重なルポルタージュ。

2020:6./ 481p
978-4-86506-334-9
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2020/08/01



コスモス いくつもの世界(NATIONAL GEOGRAPHIC)

アン・ドルーヤン 著
日経ナショナルジオグラフィック社

これまで語られることのなかった、宇宙の真実を果敢に求めた人たちの物語を、美しいビジュアルとともに伝える。彼らの行跡や発見を通じて、私たちがいずれ目にするかもしれない輝かしい未来を描く。

2020:5./ 406p
978-4-86313-483-6
本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2020/08/01



ミッキー・マウス歴史～ウォルトから世界へ～

アンドレアス・デジャ／マイケル・ラブリー 著

静山社

2019年5月?2020年1月に開催されたウォルト・ディズニー・ファミリー博物館回顧展「ウォルトから世界へ」の公式ガイド。展示されたスケッチ、セル画、グッズをオールカラーで紹介。

朝日新聞 2020/08/01

2020.6./ 165p

978-4-86389-569-0

本体 ¥5,800+税



大学で学ぶゾンビ学～人はなぜゾンビに惹かれるのか～(扶桑社新書 330)

岡本 健 著

扶桑社

ゾンビの何が人を惹きつけるのか? ゾンビを研究して何がわかるのか? 映画、マンガ、アニメ、ドラマ、小説、ゲーム、ハロウィン、町おこしなどあらゆる角度からゾンビを分析。ゾンビを例にして「研究」の手法を提示する。

朝日新聞 2020/08/01

2020.5./ 303p

978-4-594-08324-3

本体 ¥940+税



時間

エヴァ・ホフマン 著

みすず書房

人間にすべての意味を与えるのは時間である。時間に対する万能感と人間的な時間への軽視に警鐘を鳴らし、AI の時代に人間はどう生きるべきかを問いかける。ホロコースト第2世代の作家が描く根源的かつアクチュアルな書。

朝日新聞 2020/08/01

2020.6./ 185p,12p

978-4-622-08909-4

本体 ¥4,000+税



先端医療と向き合う～生老病死をめぐる問いかけ～(平凡社新書 945)

礒島 次郎 著

平凡社

生殖補助医療、遺伝子検査、ゲノム編集、再生医療、安楽死など、現在進行形で様々な倫理的問題が生まれている。「自分のこと」として向き合えるよう、基本的な事柄を網羅し、議論の基盤や政策立案などを提言する。

朝日新聞 2020/08/01

2020.6./ 207p

978-4-582-85945-4

本体 ¥800+税



日本の少子化対策はなぜ失敗したのか?～結婚・出産が回避される本当の原因～(光文社新書 1067)

山田 昌弘 著

光文社

世界で「反面教師化」する日本の少子化対策。家族社会学者である著者が、日本の少子化対策が失敗した原因を分析・総括するとともに、日本特有の状況に沿った対策は可能なのかをさぐる。

朝日新聞 2020/08/01

2020.5./ 195p

978-4-334-04468-8

本体 ¥780+税



食卓の経営塾～DEAN&DELUCA 心に響くビジネスの育て方～

横川正紀 著

ハーパーコリンズ・ジャパン

ニューヨーク発のグローサリーストアが、なぜ文化も食の好みも異なる日本で受け入れられたのか。ディーン&デルーカの日本躍進を導いた著者が、そのユニークな経営哲学の全てを伝える。

朝日新聞 2020/08/01

2020.6./ 197p

978-4-596-55156-6

本体 ¥1,600+税





街場の親子論～父と娘の困難なものがたり～(中公新書ラクレ 690)

内田 樹／内田 るん 著
中央公論新社

名作家・内田樹とその娘である内田るんとの往復書簡集。わが子への怯え、親への嫌悪など、誰もが感じたことのある「親子の困難」の原因を解きほぐし、解決のヒントを提示する。

2020.6./ 285p
978-4-12-150690-0
本体 ¥900+税



朝日新聞 2020/08/01



トムソーヤーを育てる水族館

安部 義孝 著
新日本出版社

子どもたちに見せたい魚を求めて渡り歩いた「七つの海」、魅力的な水族館作りへの創意工夫…。面白がる気持ちを大切に歩んできた「アクアマリンふくしま」の館長が贈る、愉快で楽しい物語。チャレンジ精神に溢れた話が満載。

2020.6./ 223p
978-4-406-06480-4
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/08/01



文豪宮本武蔵(実業之日本社文庫 た6-5)

田中 啓文 著
実業之日本社

大坂の陣で気を失い、明治時代の東京で目覚めた宮本武蔵。人力車の車夫になり、夏目漱石、正岡子規らの文士と知り合った武蔵は、つい“小説家志望”と口を滑らせ…。『Web ジェイ・ノベル』掲載に書き下ろしを加えて文庫化。

2020.6./ 301p
978-4-408-55596-6
本体 ¥700+税



朝日新聞 2020/08/01



「超」働き方改革～四次元の「分ける」戦略～(ちくま新書 1502)

太田 肇 著
筑摩書房

長時間労働から、男女格差、パワハラや生産性の低下まで、日本企業の根深い問題を「分ける」戦略で解決！ 仕事、職場、キャリア、認知の 4 つの次元から、組織から個人を分け、その上で統合する方策を示す。

2020.7./ 206p
978-4-480-07325-9
本体 ¥780+税



朝日新聞 2020/08/01



女の園の星<1>(フィールコミックス)

和山 やま 著
祥伝社

「声を出して笑った」の声、続出!!! 漫画賞総ナメ『夢中さ、きみに。』の和山やま初連載！ な～んてことない日常が、なぜこんなにも笑えて愛おしいんでしょう!? どんな時もあなたを笑わせる未体験マンガ、お確かめあれ！

2020.7./ 168p
978-4-396-76797-6
本体 ¥680+税



朝日新聞 2020/08/01



壁はいらない(こころのバリアフリー)、って言われても。

今中 博之 著
河出書房新社

心の壁を壊すことは正しいことで、そうすべきだと思いませんか？ 壁には「壊すべき壁」と「自分を守ってくれる壁」の 2 つがあります。あなたを守る壁を壊さないための思考法を紹介します。熊谷晋一郎との対談も収録。

2020.7./ 220p
978-4-309-02900-9
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/08/01



花ノ目万兵衛門外へ～山田風太郎傑作選 江戸篇～(河出文庫 や 4-13)

縄田 一男 編
山田 風太郎 著
河出書房新社

大名からあつい信頼を得ながらも、壮絶な事件の果てに非業な最期を迎える同心を描いた表題作をはじめ、本能寺の変の第一報が敵方に入っていた世界を描く「明智太閤」など、鬼才・山田風太郎の傑作短篇を収録。

朝日新聞 2020/08/01

2020:7./ 255p
978-4-309-41757-8
本体 ¥900+税



トンネル誕生

山崎 エリナ 著
グッドブックス

貫通に向けた強靱なパワー、その時々に見せる美しい光景-。トンネル建設の全工程を激写した写真集。トンネルが新しく出来上がっていくさまや、作業員・技術者たちの逞しい姿、現場監督らの表情を写し撮る。

朝日新聞 2020/08/01

2020:6./ 95p
978-4-907461-26-3
本体 ¥2,200+税



パワースピーチ入門(角川新書 K-326)

橋爪 大三郎 著
KADOKAWA

人びとを鼓舞する良いスピーチ、落胆させる駄目なスピーチの違いとは? 当代随一の社会学者が、福澤諭吉、チャーチルからクオモ NY 州知事まで、世界と日本の事例を読み解き、人の心を動かし導く言葉の技法を明らかにする。

朝日新聞 2020/08/01

2020:7./ 301p
978-4-04-082381-2
本体 ¥900+税



近代人の自由と古代人の自由・征服の精神と篡奪～他一篇～(岩波文庫 32-525-2)

コンスタン 著
岩波書店

小説「アドルフ」で知られるコンスタンの政治論集。古代と近代の自由の違いを明確にした講演、強権的支配を批判して、ナポレオン後のリベラルな政治体制の確立を訴えた著作などを収録する。

朝日新聞 2020/08/01

2020:5./ 391p
978-4-00-325252-9
本体 ¥1,010+税



変われ!東京～自由で、ゆるくて、閉じない都市～(集英社新書 1028)

隈 研吾/清野 由美 著
集英社

建築家・隈研吾とジャーナリスト・清野由美が、東京を歩き、語る都市論。シェアハウス、トレーラーの移動店舗、木造バラックの再生など「小さな場所」の可能性を探り、コロナ後の都市生活者の生き方に新しい方向を示す。

朝日新聞 2020/08/01

2020:7./ 253p
978-4-08-721128-3
本体 ¥860+税



破局

遠野 遥 著
河出書房新社

私を阻むものは、私自身にほかならない-。ラグビー、筋トレ、恋とセックス。ふたりの女を行き来する、いびつなキャンパスライフ。『文藝』掲載を単行本化。

朝日新聞 2020/08/01、朝日新聞 2020/08/16

2020:7./ 141p
978-4-309-02905-4
本体 ¥1,400+税





言葉の守り人

ホルヘ・ミゲル・ココム・ペッチ 著
国書刊行会

「言葉の守り人」になるために「ぼく」は修行に出かける。森の中で不思議な体験をしながら、世界と言葉のもつ秘密を少しずつ教わっていき…。神話の森を舞台に少年が受ける通過儀礼と成長を描いた、呪術的マヤ・ファンタジー。

2020/6./ 219p
978-4-336-06566-7
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2020/08/01、東京・中日新聞 2020/08/16、毎日新聞 2020/08/29



少年と犬

馳 星周 著
文藝春秋

家族のために犯罪に手を染めた男が拾った犬。守り神になったその犬はある意志を秘めていた。人生の無常と犬の神秘性を描いた全 6 編を収録。『オール讀物』掲載を単行本化。

2020/5./ 308p
978-4-16-391204-2
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/08/01、読売新聞 2020/08/02



デカメロン

ボッカッチョ、平川 祐弘 著
河出書房新社

ペストが猖獗を極めた 14 世紀イタリア。恐怖が蔓延するフィレンツェから郊外に逃れた若い男女 10 人が、おもしろおかしい話で迫りくる死の影を追い払おうと、交互に語り合う 100 の物語。物語文学の最高傑作の新訳。

2012/10./ 769p
978-4-309-20604-2
本体 ¥6,600+税



朝日新聞 2020/08/08



冬の夜ひとりの旅人が(白水 U ブックス 207)

イタロ・カルヴィーノ 著
白水社

あなたはイタロ・カルヴィーノの新しい小説を読み始めようとしている。書き出しだけで中断され続ける小説を追いかけて世界をめぐる<男性読者>と<女性読者>の冒険。文学の魔術師による究極の読書小説。

2016/10./ 360p
978-4-560-07207-3
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/08/08



シン・ニホン～AI×データ時代における日本の再生と人材育成～

安宅 和人 著
ニューズピック

現在の世の中の変化をどう見たらいいのか？ 企業はどうしたらいいのか？ 国としての AI 戦略、知財戦略はどうあるべきか？ ファクト(事実)に基づき日本の現状を分析し、新たなる時代を展望する。

2020/2./ 437p
978-4-910063-04-1
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2020/08/08



アーティスティックスポーツ研究序説～フィギュアスケートを基軸とした創造と享受の文化論～

町田 樹 著
白水社

フィギュアスケートや新体操などに象徴される「アーティスティックスポーツ」という身体運動文化を、経営・経済学、法学、社会学、芸術学などを横断して探究する。

2020/6./ 413p
978-4-560-09765-6
本体 ¥5,000+税



朝日新聞 2020/08/08



「山奥ニート」やっています。

石井 あらた 著
光文社

娯楽も買い物もネットで事足りる。それなら、都会でひきこもっても、山奥でひきこもってもおなじだ。限界集落の廃校で、「なるべく働かず生きていく」を実現したニートがつづる5年目の記録。

2020/5./ 317p
978-4-334-95165-8

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/08/08



おらおらでひとりいぐも(河出文庫 わ 7-1)

若竹 千佐子 著
河出書房新社

「この先一人でどやって暮らす。こまったあどうすんべえ」捨てた故郷、疎遠な息子と娘、亡き夫への愛。震えるような悲しみの果てに、74歳の桃子さんが辿り着いた、圧倒的自由と賑やかな孤独とは。

2020/6./ 191p
978-4-309-41754-7

本体 ¥630+税



朝日新聞 2020/08/08



詩歌の待ち伏せ(ちくま文庫 き 24-9)

北村 薫 編
筑摩書房

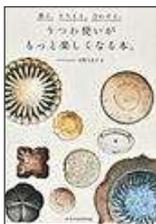
本の達人・北村薫が古今東西、有名無名を問わず、日々の生活の中で出会った詩歌について語る。作品、作家への愛着や思いがけない出会いを、鋭敏な感性や深い想像力とともに丁寧に穏やかに綴る。

2020/7./ 577p
978-4-480-43680-1

本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2020/08/08



うつわ使いがもっと楽しくなる本。～選ぶ。そろえる。合わせる。～

安野 久美子 著
エクスマレッジ

うつわをもっと気軽に使えるようになるための本。どのようなうつわを選び、用いればいいのか、ポイントやアイデアをわかりやすく紹介。個性溢れる作家もののうつわ、インスタグラマーによるうつわコーデも掲載する。

2020/7./ 128p
978-4-7678-2786-5

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2020/08/08



地球にちりばめられて

多和田 葉子 著
講談社

留学中に故郷の島国が消滅してしまった女性 Hiruko は、ヨーロッパ大陸で生き抜くため、独自の言語をつくり出す。彼女は言語学を研究する青年とともに、自分と同じ母語を話す者を捜す旅に出て…。『群像』連載を単行本化。

2018/4./ 309p
978-4-06-221022-5

本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2020/08/08



独ソ戦～絶滅戦争の惨禍～(岩波新書 新赤版 1785)

大木 毅 著
岩波書店

これは絶滅戦争なのだ。ヒトラーが断言したとき、ドイツとソ連との血で血を洗う皆殺しの闘争が始まった。想像を絶する独ソ戦の惨禍。歴史修正主義の歪曲を正し、現代の野蛮とも呼ぶべき戦争の本質をえぐり出す。

2019/7./ 20p,248p
978-4-00-431785-2

本体 ¥860+税



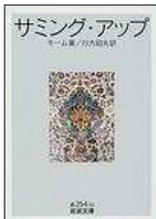
朝日新聞 2020/08/08



知的生産の技術(岩波新書)

梅棹忠夫 著
岩波書店
朝日新聞 2020/08/08

1969:7./ 218p
978-4-00-415093-0
本体 ¥840+税



サミング・アップ(岩波文庫)

モーム 著
岩波書店
朝日新聞 2020/08/08

2007:2.
978-4-00-372501-6
本体 ¥970+税



星に仄めかされて

多和田 葉子 著
講談社
留学中に「母国の島国」が消滅してしまった女性、Hiruko がつくり出した独自の言語<パンスカ>は、見知らぬ人々を結びつけ…。「地球にちりばめられて」に続く、国境を越えたサーガ第2部。『群像』連載を単行本化。

2020:5./ 342p
978-4-06-519029-6
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/08/08



インターネット(岩波新書 新赤版 416)

村井純 著
岩波書店
インターネットとは何か。これまでのパソコン通信とは全く異なる思想にもとづいた、人間活動の新しいインフラストラクチャーとしてのインターネットの本質を、日本での第一人者が熱く説く。

1995:11./ 206p
978-4-00-430416-6
本体 ¥720+税



朝日新聞 2020/08/08



零の発見～数学の生い立ち～ 改版(岩波新書 赤版 R-13)

吉田 洋一 著
岩波書店
朝日新聞 2020/08/08

1979:4./ 181p
978-4-00-400013-6
本体 ¥760+税



不良

北野 武 著
集英社
ときは 1960 年代。中学の入学式で出会った少年・キーちゃんが、茂の運命を決めた…。無鉄砲で儂い 10 代の少年たちを、時代と土地の匂いそのままに描き出す、青春バイオレンス小説。書き下ろし「3-4X7 月」も収録。

2020:6./ 154p
978-4-08-771717-4
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/08/08



対訳 ランボオ詩集 フランス詩人選(1)(岩波文庫 赤 552-2)

中地 義和 著
岩波書店

10代半ばで詩を書きはじめ、20歳で詩を捨てたランボオ。放浪と切り離せない、伝説と謎に包まれた詩人の「地獄の一季節」全文を含む主要作品をフランス語と訳文で正確に対照し、注解では難解な作品の核心に迫る。

2020/7/ 413p
978-4-00-325522-3
本体 ¥1,020+税



朝日新聞 2020/08/08



これやこの～サンキュータツオ随筆集～

サンキュータツオ 著
KADOKAWA

名作や名演は、それを作った人が亡くなってしまっても、その作品と心は世の人々の間で生き続ける。幼少時代から現代までの「別れ」を綴った随筆集。『水道橋博士のメルマ旬報』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

2020/6/ 261p
978-4-04-400550-4
本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2020/08/08



感染症と文明～共生への道～(岩波新書 新赤版 1314)

山本 太郎 著
岩波書店

感染症との闘いは人類に勝利をもたらすのか。防疫による封じ込めは大きな悲劇の準備にすぎないのか。共生の道はあるのか。感染症と人類の関係を文明の発祥にさかのぼって考察し、社会が作り上げてきた流行の諸相を描き出す。

2011/6/ 4,205,5p
978-4-00-431314-4
本体 ¥720+税



朝日新聞 2020/08/08



沖縄ことば咲い渡り<さくら>

外間 守善／仲程 昌徳／波照間 永吉 著
ボーダーインク

沖縄のことばを深く識り愛した碩学が、おもろさうしから島々の民謡、琉歌や俳句・短歌まで、味わい深い「うた」と「ことば」を選んだアンソロジー。池澤夏樹の解説も収録。1991年『沖縄タイムス』連載を単行本化。

2020/7/ 323p
978-4-89982-383-4
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2020/08/08、朝日新聞 2020/08/16



沖縄ことば咲い渡り<あお>

外間 守善／仲程 昌徳／波照間 永吉 著
ボーダーインク

沖縄のことばを深く識り愛した碩学が、おもろさうしから島々の民謡、琉歌や俳句・短歌まで、味わい深い「うた」と「ことば」を選んだアンソロジー。小沢司の解説も収録。1992年『沖縄タイムス』連載を単行本化。

2020/7/ 323p
978-4-89982-384-1
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2020/08/08、朝日新聞 2020/08/16



沖縄ことば咲い渡り<みどり>

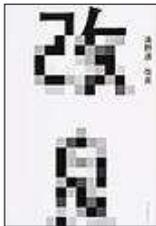
外間 守善／仲程 昌徳／波照間 永吉 著
ボーダーインク

沖縄のことばを深く識り愛した碩学が、おもろさうしから島々の民謡、琉歌や俳句・短歌まで、味わい深い「うた」と「ことば」を選んだアンソロジー。宇田智子の解説も収録。1993年『沖縄タイムス』連載を単行本化。

2020/7/ 321p
978-4-89982-385-8
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2020/08/08、朝日新聞 2020/08/16



改良
遠野 遙 著
河出書房新社

女になりたいのではない、「私」でありたい。美しさを他人に認められたい。ゆるやかな絶望を生きる男が唯一抱いたその望みが、性をめぐる理不尽な暴力とともに、絶望の頂へと導いてゆく…。『文藝』掲載を書籍化。

朝日新聞 2020/08/16

2019:11./ 113p
978-4-309-02846-0
本体 ¥1,300+税



お遍路ズッコケー人旅〜うっかりスペイン、七年半の記録〜
波 環 著
青弓社

大震災のプチ避難で長距離を歩いた経験から一念発起、「四国お遍路を歩く!」に挑戦! さらにスペインの聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラにもチャレンジ! ひたすら歩いた7年半の涙と笑いの記録。

朝日新聞 2020/08/16

2020:4./ 178p
978-4-7872-9254-4
本体 ¥1,600+税



アートであそぼ〜おえかきレッスンわくわくワーク〜
マリオン・デュシャーズ 著
グラフィック社

落書き気分を楽しみながら、本格的なアートを体験できる書き込み式のワークブック。モナリザを笑わせたり、ゴッホのヒマワリを塗ったり……。描いて、塗って、切り取って、子ども達が夢中になる、とびきり楽しいおえかきワークがたくさん!

朝日新聞 2020/08/16

2020:4./ 223p
978-4-7661-3412-4
本体 ¥1,800+税



牛疫〜兵器化され、根絶されたウイルス〜
アマンド・ケイ・マクヴェティ/城山英明 著
みすず書房

そのウイルスを制御する力を得たとき、ある人々は根絶を夢想し連帯を訴え、ある人々はそれを兵器に変えた。人類が根絶に成功した2種のウイルスのうちの1つ、牛疫との150年にわたる戦いの物語。

朝日新聞 2020/08/16

2020:5./ 8p,269p,57p
978-4-622-08887-5
本体 ¥4,000+税



昭和天皇の横顔(文春学芸ライブラリー 歴史 39)
佐野 恵作/梶田 明宏 著
文藝春秋

昭和20年8月14日、昭和天皇の「終戦の詔書」の浄書を担当し、その夜の混乱を体験した宮内省職員が退官後記した、終戦前後の昭和天皇と宮中の貴重な記録。昭和天皇の人柄を令和の現在に伝える。

朝日新聞 2020/08/16

2020:6./ 223p
978-4-16-813087-8
本体 ¥1,300+税



いのちの停車場
南 杏子 著
幻冬舎

東京の救命救急センターで働いていた62歳の医師・咲和子は、故郷の金沢に戻り訪問診療医になり、現場での様々な涙や喜びを通して在宅医療を学んでいく。一方、家庭では、自宅で死を待つだけとなった父から安楽死を望まれ…。

朝日新聞 2020/08/16

2020:5./ 337p
978-4-344-03604-8
本体 ¥1,600+税





コリアの法と社会

尹 龍澤／青木 清／大内憲昭／岡 克彦／國分典子／中川敏宏／三村光弘 著
日本評論社

近くて遠い国「北朝鮮」と「韓国」は、どのような国を目指しているのか。「法の変遷」「国のかたち」「経済のしくみ」「国際関係」などの視点から朝鮮半島の諸問題の所在、その内実および社会的な背景を解き明かす。

朝日新聞 2020/08/16

2020/6./ 10p,337p
978-4-535-52270-1
本体 ¥3,000+税



赤坂ひかるの愛と拳闘(文春文庫 な 52-3)

中村 航 著
文藝春秋

夢はここから、チャンピオンを出すこと。ボクシング元日本ライトフライ級王者・畠山と、北海道で彼を育てた女性トレーナー・赤坂ひかるの愛と拳闘! 実話を元にした奇跡の物語。

朝日新聞 2020/08/16

2020/7./ 377p
978-4-16-791524-7
本体 ¥830+税



三島由紀夫 石原慎太郎 全対話(中公文庫 み 9-17)

三島 由紀夫／石原 慎太郎 著
中央公論新社

戦後日本を象徴する2大スタア作家、三島由紀夫と石原慎太郎の競演。1956年の「新人の季節」から69年の「守るべきものの価値」まで、全集未収録の6編を含む全9編の対話を集成。石原のロングインタビューなども収録。

朝日新聞 2020/08/16

2020/7./ 266p
978-4-12-206912-1
本体 ¥860+税



ペンギンが教えてくれた物理のはなし(河出文庫 わ 8-1)

渡辺 佑基 著
河出書房新社

ペンギン、アザラシ、アホウドリなど、観察が難しい野生動物の体に記録機器を取り付ける研究手法「バイオロギング」。その研究成果を紹介し、背景にある物理法則から進化的な意義を明らかにする。

朝日新聞 2020/08/16

2020/7./ 288p
978-4-309-41760-8
本体 ¥880+税



スマホ料金はなぜ高いのか(新潮新書 868)

山田 明 著
新潮社

高止まりしたままの日本の通信料金。「4割値下げ」を阻むのは? 大手3社による寡占市場、歪んだ料金体系と収益構造、官民の馴れ合い体質...。通信業界の不都合な真実を、業界のエキスパートが徹底解説する。

朝日新聞 2020/08/16

2020/7./ 190p
978-4-10-610868-6
本体 ¥720+税



戦争と郵便～戦後75年・手紙が語る戦争の記憶～

郵趣サービ社

手紙は時代を語るタイムカプセル。日清戦争から太平洋戦争まで戦争の時代を振り返り、そこで郵便になにが託されたかを、実際の通信文で辿る。軍事郵便を中心に、戦争に関わりを持つことになった一般の郵便も取り上げる。

朝日新聞 2020/08/16

2020/7./ 95p
978-4-88963-843-1
本体 ¥1,600+税





帝国軍人～公文書、私文書、オーラルヒストリーからみる～(角川新書 K-325)

戸高 一成／大木 毅 著

KADOKAWA

大和ミュージアム館長と「独ソ戦」著者が、陸海軍の秘蔵話から、戦前と戦後の連続性と断絶性、日本軍の文書改竄問題、そして証言者なき時代にどう史資料と向き合うかまでを語りつくす。

朝日新聞 2020/08/16

2020/7./ 294p

978-4-04-082334-8

本体 ¥900+税



共喰い(集英社文庫 た 82-1)

田中 慎弥 著

集英社

川辺の町で起こる、逃げ場のない血と性の濃密な物語を描いた表題作と、死にゆく者と育ってゆく者が織りなす太古からの日々の営みを丁寧に描いた「第三紀層の魚」、瀬戸内寂聴との対談を収録。

朝日新聞 2020/08/16

2013/1./ 205p

978-4-08-745023-1

本体 ¥500+税



邦人奪還～自衛隊特殊部隊が動くとき～

伊藤 祐靖 著

新潮社

騒乱に乗じミサイル発射を企む北の軍部に対し、米国はピンポイント爆撃へと動きだす。だが、その標的近くには、日本拉致被害者が…。政府の動きから作戦行動の詳細までをシミュレーションしたドキュメント・ノベル。

朝日新聞 2020/08/16

2020/6./ 254p

978-4-10-351992-8

本体 ¥1,600+税



反知性主義～アメリカが生んだ「熱病」の正体～(新潮選書)

森本 あんり 著

新潮社

民主主義の破壊者か。あるいは平等主義の伝道者か。いま世界で最も危険なイデオロギーの根源、「反知性主義」の恐るべきパワーと意外な効用を、米国のキリスト教と自己啓発の歴史から描く。

朝日新聞 2020/08/16

2015/2./ 282p

978-4-10-603764-1

本体 ¥1,300+税



スターリン時代の記憶～ソ連解体後ロシアの歴史認識論争～

立石 洋子 著

慶應義塾大学出版会

独ソ戦や、スターリン体制による市民への大規模な抑圧は、ロシアの人びとの記憶に何を遺したのか。体制転換後の新生ロシアにおけるソ連時代の歴史認識論争の実像を、歴史教育や歴史教科書をめぐる論争から明らかにする。

朝日新聞 2020/08/16、朝日新聞 2020/08/22

2020/6./ 5p,306p,48p

978-4-7664-2681-6

本体 ¥4,500+税



<うた>起源考

藤井 貞和 著

青土社

神話や伝承から、祝詞、「万葉集」や「源氏物語」などの古典、さらにはアイヌや琉球のうたうた、漢詩、俳句、現代短歌まで。「うた」の発生をみつめ、「ことば」とは何かに迫る。第一人者による記念碑的著作。

朝日新聞 2020/08/16、朝日新聞 2020/08/29

2020/6./ 462p,10p

978-4-7917-7282-7

本体 ¥4,200+税





大河の一滴(幻冬舎文庫)

五木 寛之 著
幻冬舎
朝日新聞 2020/08/22

1999:3./ 328p
978-4-87728-704-7
本体 ¥476+税



怖れ～心の嵐を乗り越える深い智慧～

ティク・ナット・ハン、島田 啓介 著
サンガ

フランスを拠点に世界で活躍する、ベトナムの禅僧ティク・ナット・ハンによる、現代人の心を覆う「怖れ」に向けた処方箋。「怖れ」を乗り越えるためにどうすればよいかを説き、怖れを変容させる実践を紹介する。

2015:12./ 255p
978-4-86564-033-5
本体 ¥1,400+税

朝日新聞 2020/08/22



シュタイナー教育 100年～80カ国の人々を魅了する教育の宝庫～

広瀬俊雄／遠藤孝夫／池内耕作／広瀬綾子 編
昭和堂

絵を描く活動や音楽をとり入れた活気に満ちた授業。点数評価からではなく学ぶ楽しさからの学習。驚きや感激を生む直接体験の重視、存分に保障された教師の自由...。アメリカでの実践とともに、シュタイナー教育の真髄を伝える。

2020:8./
11p,260p,10p
978-4-8122-1931-7
本体 ¥2,500+税

朝日新聞 2020/08/22



三体<2上> 黑暗森林

劉 慈欣 著
早川書房

人類に絶望した天体物理学者・葉文潔が宇宙に向けて発信したメッセージは、三つの太陽を持つ異星文明・三体世界に届いた。新天地を求める三体文明は、千隻を超える侵略艦隊を組織し、地球へと送り出し...

2020:6./ 335p
978-4-15-209948-8
本体 ¥1,700+税

朝日新聞 2020/08/22



三体<2下> 黑暗森林

劉 慈欣 著
早川書房

刻一刻と太陽系に迫りつつある、三体世界の巨大艦隊。地球文明をはるかに超える技術を持つ侵略者に対抗する最後の希望は、4人の面壁者だった。かれらは自らの専門分野の知識を駆使し、命がけの頭脳戦に身を投じるが...

2020:6./ 348p
978-4-15-209949-5
本体 ¥1,700+税

朝日新聞 2020/08/22



政治改革再考～変貌を遂げた国家の軌跡～(新潮選書)

待鳥 聡史 著
新潮社

選挙制度、行政、日銀・大蔵省、司法制度、地方分権...。1990年代以降、日本の統治システムは改革の名のもと、静かに、しかし激しく変貌を遂げてきた。現在の政治を作り出した壮大な理念とその帰結を読み解く。

2020:5./ 314p,5p
978-4-10-603854-9
本体 ¥1,400+税

朝日新聞 2020/08/22



基地の消長～1968-1973～

川名 晋史 著
勁草書房

1960年代後半から70年代初頭にかけて米軍の基地再編政策はなぜ、いかにして決定されたのか。米国の一次資料を紐解き、米国側の意思決定過程を分析。国防総省と軍部の認識を明らかにする。

2020:6./
12p,231p,49p
978-4-326-30290-1
本体 ¥3,500+税



朝日新聞 2020/08/22



すべて内なるものは

エドウィージ・ダンティカ 著
作品社

異郷に暮らしながら、故国を想いつづける人びとの、愛と喪失の物語。「ドーサ 外されたひとり」「ポルトープランスの特別な結婚」「熱気球」「審査なくして」など、全8編を収録する。

2020:6./ 277p
978-4-86182-815-7
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2020/08/22



心友～素顔の井上ひさし～

小川 莊六 著
作品社

大学時代のエピソード、2人の観た映画のこと、旅の思い出…。大学ではじめて出会ってから54年間、常に交流を絶やさなかった「心友」が、普段着の井上ひさしについて綴る。

2020:6./ 280p
978-4-86182-811-9
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2020/08/22



「健康」から生活をまもる～最新医学と12の迷信～

大脇 幸志郎 著
生活の医療

不真面目さこそが必要とされる現在。「タバコ、酒」「ゲーム障害、アスペルガー症候群」「認知症」「がん検診」「ガイドライン」などをテーマに、健康にまつわる迷信から生活を守る話題を綴る。

2020:6./ 223p,7p
978-4-9909176-7-8
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/08/22



送り火(文春文庫 た104-1)

高橋 弘希 著
文藝春秋

東京から山間の町に引越した中学3年生の歩。級友とも、うまくやってきたはずだった。あの夏、河へ火を流す日までは…。自然は沈黙し、少年たちは血の遊戯に熱狂する! 単行本未収録2篇も収録。

2020:8./ 166p
978-4-16-791542-1
本体 ¥620+税



朝日新聞 2020/08/22



日本宗教史<1> 日本宗教史を問い直す

吉田 一彦/上島 享 編
吉川弘文館

日本宗教史という視座から日本の社会や文化、そして世界の中での日本の位置を考究。1は、古代から近代まで、神の祭祀や仏法伝来、宗教活動の展開と宗教統制、政治との関係などを概観。日本の豊かな宗教史像をとらえ直す。

2020:9./ 9p,326p
978-4-642-01741-1
本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2020/08/22

**父(集英社文庫 つ 11-21)**辻仁成 著
集英社

パリで生れたばくは、ママを失った後、パパと二人で生きてきた。大人になったばくは、恋人と共に、パパたちの物語と自らの未来に向き合っていく…。家族と愛をめぐる運命的な長編小説。

2020/7./ 227p
978-4-08-744134-5
本体 ¥560+税

朝日新聞 2020/08/22

**あいまいな会話はなぜ成立するのか(岩波科学ライブラリー 295)**時本 真吾 著
岩波書店

なぜ言葉になっていない意図を推測できるのか。なぜ推測はほどほどでおさまるのか。なぜ遠回しな表現をするのか。3つの不思議を念頭に、哲学・言語学・心理学の代表的理論から、現代の脳科学に基づく成果まで紹介する。

2020/6./ 3p,120p,2p
978-4-00-029695-3
本体 ¥1,200+税

朝日新聞 2020/08/22

**ヒナギクのお茶の場合/海に落とした名前(講談社文芸文庫 た AC6)**多和田 葉子 著
講談社

「女には無理」と断られた照明係の仕事を、重いコードを毎日百回引きずって獲得したパンクな舞台美術家と作家の交流を描く「ヒナギクのお茶の場合」など、言葉とユーモアで境を超える全米図書賞作家の傑作9篇を収録。

2020/8./ 359p
978-4-06-519513-0
本体 ¥1,800+税

朝日新聞 2020/08/22

**穏やかな死に医療はいらない(朝日新書 389)**萬田 緑平 著
朝日新聞出版

点滴、酸素吸入、胃ろう、抗がん剤…。無駄な延命治療をやめることで、人は眠るように穏やかに、人間らしく死ぬことができる。外科医を辞めた在宅緩和ケア医が、終末期と死の現場について伝えながら、幸せな死に方を提案する。

2013/2./ 233p
978-4-02-273489-1
本体 ¥760+税

朝日新聞 2020/08/22

**チーム・オベリベリ**乃南 アサ 著
講談社

横浜の女学校に学ぶ鈴木カネ。兄の銃太郎は北海道開拓について考え、渡辺勝、依田勉三と「晩成社」を興した。女学校を卒業したカネは渡辺勝と結婚、オベリベリとよばれた帯広へ行くことを決意し…。『群像』連載を改稿。

2020/7./ 667p
978-4-06-520114-5
本体 ¥2,300+税

朝日新聞 2020/08/22、日本経済新聞 2020/08/22、東京・中日新聞 2020/08/23

**アノスミア～わたしが嗅覚を失ってからとり戻すまでの物語～**モリー・バーンバウム、ニキ リンコ 著
勁草書房

においを感じない。何のにおいかわからない…。シェフを志望しながら交通事故で「アノスミア(嗅覚脱失)」という障害を負った著者が、神経科学者や香料開発者への取材を重ね、未解明な「におい」の面白さを描く。

2013/9./ 4p,338p
978-4-326-75051-1
本体 ¥2,400+税

朝日新聞 2020/08/29



オリエンタルピアノ

ゼイナ・アブラシエド 著
河出書房新社

フランス語とアラビア語、東と西の文化、祖父と孫娘。50年代バイルートと現代のパリを交差して語る、波瀾万丈な家族の物語。天職に一生をかける人間の強さと儚さを洗練された線画で表現したバンドデシネ。ワイドページあり。

朝日新聞 2020/08/29

2016:10./ 197p
978-4-309-27771-4
本体 ¥2,400+税



二十一世紀民藝

赤木 明登 著
美術出版社

民藝百年を迎えるにあたり、二十世紀と二十一世紀という百年の時間は、民藝理論を正しく咀嚼し、時代との齟齬を埋めてきたらどうか。民藝が一度見失った、民藝の本質を追求する。『住む。』連載をもとに書籍化。

朝日新聞 2020/08/29

2018:3./ 247p
978-4-568-14372-0
本体 ¥2,400+税



稲荷神社のキツネさん

町田 真知子 著
光文社

さえないサラリーマン・井上正助は、旅行で訪れた京都の稲荷神社で不思議な白狐に出会い…。祖父にツイていたキツネさんの“シゴキ”でお金持ちに!? お稲荷さんが気になっている人必読のコミック。キツネの教えも収録。

朝日新聞 2020/08/29

2020:3./ 164p
978-4-334-95148-1
本体 ¥1,100+税



考えるナメクジ～人間をしのぐ驚異の脳機能～

松尾 亮太 著
さくら舎

論理思考も学習もでき、壊れると勝手に再生する、ナメクジの1.5ミリ角の脳。ナメクジ博士が、ナメクジとはどんな生き物なのかを解説し、人間をはるかにしのぐナメクジの「脳力」などを紹介する。

朝日新聞 2020/08/29

2020:5./ 188p
978-4-86581-245-9
本体 ¥1,500+税



希望、きこえる?～ルワンダのラジオに子どもの歌が流れた日～

榮谷 明子 著
汐文社

ラジオを通じて、ルワンダ全国の子どもたちに、優しい言葉や楽しい歌を届けたい。ルワンダで初めての子ども向けラジオ番組を作ろうと決意したユニセフの職員の著者が、夢をかなえるまでを綴る。

朝日新聞 2020/08/29

2020:6./ 147p
978-4-8113-2745-7
本体 ¥1,500+税



さがす

長倉 洋海 著
アリス館

ぼくって、いったい何なのだろう? ぼくがのびのびと生きられる場所ってあるのかな…。「自分の場所」をさがして世界のあちこちを訪ねる中で出会った子どもたちや風景を写真で紹介する。見返しに写真あり。

朝日新聞 2020/08/29

2020:5./ 38p
978-4-7520-0937-5
本体 ¥1,400+税





パンデミック～世界をゆるがした新型コロナウイルス～ (ele-king books)

スラヴォイ・ジジェク 著
Pヴァイン

COVID-19 以後の世界に訪れる「野蛮」状態という危機。それを回避する唯一の道とは何なのか? “最も危険な哲学者”による緊急提言。コロナ禍を「コミュニズム」への契機として昇華する可能性を探る。

2020/7./ 127p
978-4-909483-58-4
本体 ¥1,850+税



朝日新聞 2020/08/29



日本武道の武術性とは何か～サピエンスと生き抜く力～

志々田 文明／大保木 輝雄 著
青弓社

武道に内在する戦いに勝ち自分を守る技術としての「武術性」に焦点を当て、武術性といまどう向き合うかを、剣道、柔道などを事例に検証。武道・武術の思想を人間/サピエンスの「生き抜く力」と評価する。

2020/6./ 323p
978-4-7872-3472-8
本体 ¥3,600+税



朝日新聞 2020/08/29



民家を知る旅～日本の民家見どころ案内～

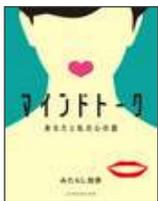
一般社団法人 日本民俗建築学会 編
彰国社

民家の構造や生活、民家が創出する景観など、民家を理解するための多様な切り口を示し、平易に解説。また、北海道から沖縄まで、特色ある民家が所在する地を約100例取りあげ、見どころを紹介する。カラー写真も多数収録。

2020/5./ 271p
978-4-395-32151-3
本体 ¥4,500+税



朝日新聞 2020/08/29



マインドトーク～あなたと私の心の話～

みたらし 加奈 著
Hagazussa Books

たくさんのことに悩み、ぶつかって、砕けて、今日まで生きてきた。同性のパートナーがいる臨床心理士が、半生を振り返りながらつづる心の話。社会的なこと、「自分自身をケアしていくこと」についても触れる。

2020/6./ 287p
978-4-910034-01-0
本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2020/08/29



吠える～その他の詩～

アレン・ギンズバーグ 著
スイッチ・パブリッシング

息苦しさや支配する 1950 年代アメリカにおいて、詩人は反抗と自由をうたい、聴衆は電撃的に反応した…。カウンターカルチャーの嚆矢となり、後世に決定的な影響を与えた詩集を新訳。

2020/6./ 94p
978-4-88418-538-1
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/08/29



<メイド・イン・ジャパン>の食文化史～What is MADE IN JAPAN?～

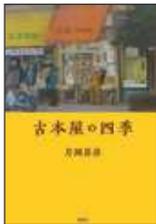
畑中 三応子 著
春秋社

舶来モノに目がなかった日本人が「国産」を重視する時代。一体何が起きているのか? 地産地消ブームから貿易政策まで、メイド・イン・ジャパンの食の本当のところを徹底検証。『ウェブ春秋 はるとあき』連載に加筆し書籍化。

2020/7./ 234p
978-4-393-75125-1
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2020/08/29



古本屋の四季

片岡喜彦 著
皓星社

定年ののち神戸に「古書片岡」を開いて10年。狭い店内の奥まった番台に、13時から1日4時間座って営業し…。番台から眺めてきた、本と人と心の光景を綴る。書評誌『足跡』、『古書片岡通信』をもとに単行本化。

朝日新聞 2020/08/29

2020/7./ 276p
978-4-7744-0725-8
本体 ¥1,800+税



わっしょい〜深川八幡水かけ祭り〜

やじま ますみ 著
ポプラ社

江戸三大祭りのひとつに数えられる深川八幡祭り、別名「水かけ祭り」を少年の視点から描いた絵本。人びとの喜び、助け合い、伝統、絆、そして江戸の粋を臨場感たっぷりに伝える。巻末にお祭りにまつわる情報を図解で掲載する。

朝日新聞 2020/08/29

2020/7./ [40p]
978-4-591-15491-5
本体 ¥1,600+税



アーレント読本

日本アーレント研究会／三浦 隆宏／木村 史人／渡名喜 庸哲／百木 漠 編
法政大学出版局

女性哲学者の思索の全貌-。ユダヤ人女性として、亡命知識人として、20世紀の全体主義の惨禍を生きたハンナ・アーレント。ベテランから若手まで総勢50名の執筆者が主要なテーマ群を掘り下げる。各著作の解題、略年譜付き。

朝日新聞 2020/08/29

2020/7./
18p,396p,16p
978-4-588-15109-5
本体 ¥3,200+税



壊れた世界の者たちよ(ハーパーBOOKS M・ウ3・5)

ドン・ウィンズロウ 著
ハーパーコリンズ・ジャパン

ニューオーリンズ市警最強の麻薬班を率いるジミーは、ある手入れの報復に弟を惨殺され復讐の鬼と化する。壊れた魂の暴走を描いた表題作ほか全6篇を収録。アメリカの「今」を活写した、犯罪小説の巨匠による傑作中篇集。

朝日新聞 2020/08/29

2020/7./ 733p
978-4-596-54139-0
本体 ¥1,291+税



ビブリア古書堂の事件手帖II〜扉子と空白の時〜(メディアワークス文庫 み4-9)

三上 延 著
KADOKAWA

ビブリア古書堂に舞い込んだ新たな相談事。それは、この世に存在していないはずの本-横溝正史の幻の作品が何者かに盗まれたという奇妙なものだった。一冊の古書に託す想いは、戦前から令和へと時を超え…。

朝日新聞 2020/08/29

2020/7./ 281p
978-4-04-913083-6
本体 ¥630+税



医療記者のダイエット〜最新科学を武器に40キロやせた〜

朽木 誠一郎 著
KADOKAWA

成功するダイエットに必要なのは、意志の強弱によらずやせていくような環境をつくること。変えるべきは、生活です。重度肥満だった医療記者が、合計40キロのダイエットに成功するまでを日記形式で振り返ります。

朝日新聞 2020/08/29

2020/6./ 223p
978-4-04-108876-0
本体 ¥1,400+税





給食の歴史(岩波新書 新赤版 1748)

藤原 辰史 著
岩波書店

学校の給食は、子どもの味覚に対する権力行使ともいえる側面と、未来へ命をつなぎ新しい教育を模索する側面とを持つ。貧困、災害、運動、教育、世界という 5 つの視角から知られざる歴史に迫り、今後の可能性を探る。

2018:11./
13p,268p,17p
978-4-00-431748-7

本体 ¥880+税



朝日新聞 2020/08/29



ぼくの「自学ノート」

梅田 明日佳 著
小学館

新聞記事の切り抜きを貼り、感想や調べたことを書き込む「自学ノート」を、小 3 の春から作り続けている高校生がいる。少年の今を見つめ、少年の未来を拓いてくれる 23 冊の「自学ノート」を紹介する。

2020:7./ 222p
978-4-09-388769-4

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/08/29



歩くパワースポットと呼ばれた僕の大切にしている運氣アップの習慣

湘南乃風 SHOCK EYE 著
講談社

何事もポジティブに変換、神社を探求する、運はつかみにいかない...。「歩くパワースポット」が実践している、大切な運氣アップの習慣を紹介。待ち受け画像がダウンロードできる QR コード、袋とじサイン入り開運カード付き。

2020:3./ 166p
978-4-06-519442-3

本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2020/08/29



芝浜の天女～高座のホームズ～(中公文庫 あ 79-7)

愛川 晶 著
中央公論新社

美しく、質素で健気な若妻の笑顔の裏に隠された秘密とは? 落語が大人気だった昭和 50 年代。女に金に、そして芸の道を悩める噺家たちが、探偵・林家正蔵(のちの彦六)の住む長屋へとやってきて...。落語ミステリー。

2020:7./ 285p
978-4-12-206903-9

本体 ¥800+税



朝日新聞 2020/08/29、読売新聞 2020/08/30



アリ語で寝言を言いました(扶桑社新書 335)

村上 貴弘 著
扶桑社

おしゃべりするアリ、農業をするアリ、一生巢の“扉”役のアリ、一生天井からぶら下がっている“貯蓄”役のアリ...。究極の役割分担社会に進化した驚愕のアリの世界を、熱帯の森を這いずり回る「アリ先生」が紹介する。

2020:7./ 246p
978-4-594-08546-9

本体 ¥900+税



朝日新聞 2020/08/29、読売新聞 2020/08/30



西暦二〇三〇年における協同組合～コロナ時代と社会的連帯経済への道～ (ダルマ舎叢書 3)

柏井 宏之、樋口 兼次、平山 昇 編
柏井 宏之／樋口 兼次／平山 昇 著
社会評論社

全世界的コロナクライシス状況下で、様々な協同組合の活動が注目され、その社会的役割が期待されている。<協同組合>というプリズムを通して、近未来の新たな社会像を構想するためのブレインストーミング。

東京・中日新聞 2020/08/02

2020.6./ 350p
978-4-7845-1369-7
本体 ¥2,500+税



ロレンスになれなかった男～空手でアラブを制した岡本秀樹の生涯～

小倉 孝保 著
KADOKAWA

中東で秘密警察や政府要人に空手を指導。外国製品の闇ルート販売とカジノ経営に乗り出すが、国際情勢に翻弄され計画は暗礁に乗り上げる。すべてを失った男がたどり着いた場所とは。アラブに空手を普及させた男の人生を描く。

東京・中日新聞 2020/08/02

2020.6./ 285p
978-4-04-109160-9
本体 ¥2,200+税



生かさず、殺さず

久坂部 羊 著
朝日新聞出版

認知症専門病棟の医師・三杉のもとに、元同僚で鳴かず飛ばずの小説家・坂崎が現われ、三杉の過去をモデルに「認知症小説」の問題作を書こうと迫り…。現役医師が描いた医療サスペンス。『週刊朝日』連載を加筆し書籍化。

東京・中日新聞 2020/08/02、産経新聞 2020/08/09

2020.6./ 307p
978-4-02-251688-6
本体 ¥1,700+税



避けられた戦争～一九二〇年代・日本の選択～(ちくま新書 1499)

油井 大三郎 著
筑摩書房

なぜ日本は国際協調を捨て、戦争への道を歩んだのか。日米関係を中心に長年研究を積み重ねてきた碩学が、一九二〇年代日本にとって本当は存在していた「戦争を避ける道」の可能性を掘り起こす。

東京・中日新聞 2020/08/02、朝日新聞 2020/08/08、毎日新聞 2020/08/15

2020.6./ 318p
978-4-480-07321-1
本体 ¥940+税



京都に女王と呼ばれた作家がいた～山村美紗とふたりの男～

花房 観音 著
西日本出版社

歴史と情念、ミステリアスな京都の横顔は、山村美紗の小説とドラマ化された作品からきていると言っても過言ではない。京都に住み、京都の女を描き続ける花房観音が、京都に住み、京都を描き続けた作家・山村美紗の生涯に迫る。

東京・中日新聞 2020/08/08

2020.7./ 227p
978-4-908443-52-7
本体 ¥1,500+税



重森三玲～庭を見る心得～(STANDARD BOOKS)

重森 三玲 著
平凡社

日本中の庭園を実測調査し、大著「日本庭園史大系」を編纂した一方、東福寺方丈庭園などの名庭を作り上げた「永遠のモダン」の求道者が、庭を作る楽しみ、観る楽しみを語る。重森三玲をもっと知るためのブックガイドも掲載。

東京・中日新聞 2020/08/09

2020.4./ 219p
978-4-582-53176-3
本体 ¥1,400+税





長谷川利行の絵～芸術家と時代～

大塚信一 著
作品社

日本が戦争に向かっていった暗く、不安に満ちた時代に、明るく美しい絵を描いた殆ど唯一の芸術家は、どのように生まれたのか？ “日本のゴッホ”長谷川利行の本質に、従来の「伝説」を排して迫る評伝。

2020/5./ 229p,6p
978-4-86182-781-5
本体 ¥2,200+税



東京・中日新聞 2020/08/09、朝日新聞 2020/08/29



その日の予定～事実にもとづく物語～

エリック・ヴューヤール 著
岩波書店

いちばん大きなカタストロフは、しばしば小さな足音で近づいてくる。第二次世界大戦前夜、ナチスによるオーストリア併合に至る舞台裏を、歴史の断片から描き出す。歴史書には記載されない事実に基づく物語。

2020/6./ 9p,153p
978-4-00-022972-2
本体 ¥2,100+税



東京・中日新聞 2020/08/09、読売新聞 2020/08/23



本の雑誌の坪内祐三

坪内 祐三 著
本の雑誌社

1991年から2020年までに坪内祐三が『本の雑誌』『別冊本の雑誌』に寄稿した原稿を集成。亀和田武、目黒考二らとの座談会、対談、角川春樹のロングインタビュー等も掲載する。

2020/6./ 397p
978-4-86011-443-5
本体 ¥2,700+税



東京・中日新聞 2020/08/16



アイヌの権利とは何か～新法・象徴空間・東京五輪と先住民族～

テッサ・モーリス＝スズキ 編
市川 守弘 著
かもがわ出版

先住民族と認める「アイヌ新法」施行、アイヌの文化拠点「象徴空間(ウポポイ)」完成、その中で置き忘れられるアイヌの誇りと願い。本当の共生社会への道筋を、アイヌと世界各地の先住民族の今を通して考える。

2020/7./ 197p
978-4-7803-1100-6
本体 ¥2,000+税



東京・中日新聞 2020/08/16



「ビートルズと日本」週刊誌の記録～週刊誌にしか書けなかった白熱のビートルズ来日騒動、そのすべて～<来日編>

大村 亨 著
シンコーミュージック・エンタテイメント

1966年6月、ザ・ビートルズ来日！総合誌や芸能誌、女性誌など週刊誌の記事を紹介し、白熱のビートルズ来日騒動を徹底検証。来日前から来日中、来日後までの動向を網羅した、驚異のビートルズ研究本、第3弾。

2020/6./ 421p
978-4-401-64942-6
本体 ¥2,800+税



東京・中日新聞 2020/08/23



ほんとうのリーダーの みつけかた

梨木 香歩 著
岩波書店

みんなと同じでなくてはいけないという圧力が強くなっているなかで、いちばん耳を傾けるべき存在とは。困難な時代を生き延びるために、今考えたいことをまとめる。2015年4月の講演録と『図書』掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2020/08/23

2020:7./ 7p,70p
978-4-00-061415-3
本体 ¥1,200+税



未来を変えるロボット図鑑

ルーシー・ロジャーズ、ローラ・ブラー、喜多 直子 著
創元社

家庭用から産業用まで世界の最新ロボット 36 体を大きなカラー写真や解説図を使ってくわしく紹介。さまざまな場所やシーンで活躍するロボットの驚きの性能や特徴がわかる。

東京・中日新聞 2020/08/29

2019:9./ 160p
978-4-422-50001-0
本体 ¥2,400+税



BLの教科書

堀 あきこ／守 如子 編
有斐閣

男性同士の親密な関係や恋愛、性愛をテーマとした女性向けジャンル「BL(ボーイズラブ)」研究の入門書。50年の歴史を持つジャンルの、多様な研究枠組みを含んだ学問領域としてのBL研究を紹介する。

東京・中日新聞 2020/08/30

2020:7./ 17p,287p
978-4-641-17454-2
本体 ¥2,400+税



私は真実が知りたい〜夫が遺書で告発「森友」改ざんはなぜ?〜

赤木 雅子／相澤 冬樹 著
文藝春秋

森友事件の渦中で、総理夫人らの名を隠蔽するため行われた公文書改ざん。懊悩の末に死を選んだ近畿財務局職員・赤木俊夫の妻による「手記」と、事件を追う記者による「同時進行ドキュメント」で、「森友」改ざんの真相に迫る。

東京・中日新聞 2020/08/30

2020:7./ 245p
978-4-16-391253-0
本体 ¥1,500+税



ブルシット・ジョブ〜クソどうでもいい仕事の理論〜

デヴィッド・グレーバー 著
岩波書店

なぜ社会の役に立つ仕事ほど低賃金なのか。私たちの世界をむしばむブルシット・ジョブ(クソどうでもいい仕事)の実態と弊害とメカニズムを、証言・人文知等を駆使しながら解明、理論化。仕事のほんとうの「価値」を再考する。

東京・中日新聞 2020/08/30

2020:7./ 7p,426p,7p
978-4-00-061413-9
本体 ¥3,700+税



HANABI

冨木 一馬 著
光村推古書院

夏の夜の気配、冬の張りつめた空気までを感じることのできる、情緒漂う花火の数々。デジタルカメラやスマートフォンで撮影できる今、あえてフィルムで花火を撮り続ける写真家、冨木一馬の花火写真集。

読売新聞 2020/08/02

2017:7./ 94p
978-4-8381-0565-6
本体 ¥2,400+税





夜の絶景写真<花火編> 誰でもドラマチックな花火写真が撮れるようになる

泉谷 玄作 著
インプレス

一瞬で消え去る花火のはかなくも美しい瞬間を写真に残すための基本的な撮影方法から、花火がある情景を魅力的に撮るコツ、華麗に花火を仕上げる RAW 現像&レタッチ術までを解説する。著者選りすぐりの花火スポットも紹介。

2017:7./ 159p
978-4-295-00194-2
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2020/08/02



日本の「原風景」を読む〜危機の時代に〜

原 剛 著
藤原書店

日本と日本人が航路のない漂流に陥って久しい今、日本各地の「原風景」を訪ね、価値観の根源を問い直す。ナショナリズムを超えた第四の風景論への挑戦。『毎日新聞』連載「新日本の風景」を大幅に修正し、書き下ろしを加える。

2020:4./ 319p
978-4-86578-264-6
本体 ¥2,700+税



読売新聞 2020/08/02



新種の発見〜見つけ、名づけ、系統づける動物分類学〜(中公新書 2589)

岡西 政典 著
中央公論新社

地球上にはまだ数百万種以上もの未知種があるとされ、誰もが新種に出会う可能性がある。新種を見抜く方法から公認されるための論文発表の苦労を綴り、動物分類学へ招待する。巻末付録に科学論文執筆のための記載論文例も収録。

2020:4./ 4p,252p
978-4-12-102589-0
本体 ¥860+税



読売新聞 2020/08/02



世界文学論(徹夜の塊 3)

沼野 充義 著
作品社

世界文学の読み方、外国文学の受容や影響、詩、20世紀中欧の作家など、これまで様々な機会に書いてきた「世界文学論」に関わりのある文章をまとめる。「亡命文学論」「ユートピア文学論」に続く「徹夜の塊」三部作、完結篇。

2020:4./ 717p,28p
978-4-86182-801-0
本体 ¥5,200+税



読売新聞 2020/08/02



音楽が本になるとき〜聴くこと・読むこと・語らうこと〜

木村 元 著
木立の文庫

「音楽の本」を人文書のひとつと位置づけた編集者が語るリベラルアーツの時間、そしてリベラルな共同体のつくり方。メルマガ『ARTES フレンズ&サポーター通信』連載エッセイを中心に単行本化。

2020:5./ 12p,168p
978-4-909862-10-5
本体 ¥2,200+税



読売新聞 2020/08/02



二枚腰のすすめ〜鷺田清一の人生案内〜(教養みらい選書 006)

鷺田 清一 著
世界思想社

彼女ができず寂しい。暗い性格をどうにかしたい。ぐうたら夫に腹が立つ…。哲学者・鷺田清一がさまざまな悩みに答える『読売新聞』掲載の「人生案内」から 71 篇を厳選し、書き下ろしを加えて単行本化。

2020:6./ 3p,199p
978-4-7907-1742-3
本体 ¥1,700+税



読売新聞 2020/08/02

**デンジャラス(中公文庫 き 41-2)**桐野 夏生 著
中央公論新社

君臨する男。寵愛される女たち。文豪・谷崎潤一郎が築き上げた理想の<家族帝国>と、そこで繰り上げられる妖しい四角関係。桐野夏生が、燃えさかる作家の「業」を描く。

2020/6./ 330p
978-4-12-206896-4
本体 ¥660+税

読売新聞 2020/08/02

**ケアの形而上学**森村修 著
大修館書店

愛猫の看取り、父親の認知症、先輩の孤独死、友人に教えられたアート作品…。著者が関わる人々や環境がもたらした事例を出発点に、哲学者の著作を引きながら考察。ケアについて形而上学的な意味づけを試みる。

2020/6./ 287p
978-4-469-26895-9
本体 ¥2,200+税

読売新聞 2020/08/02

**家計簿と統計～数字から見える日本の消費生活～**佐藤 朋彦 著
慶應義塾大学出版会

千差万別の家計簿も、集めてみると時代の傾向が浮き彫りになる。日本の生活スタイルの変化から統計数字を読むコツ、ネット上での様々な数値の探し方まで、楽しく読みながら自分の生活に数字をどう活かすかも学べる。

2020/7./ 222p
978-4-7664-2689-2
本体 ¥1,600+税

読売新聞 2020/08/02

**パパは脳研究者～子どもを育てる脳科学～(扶桑社新書 337)**池谷 裕二 著
扶桑社

子どもの脳って育てられるの？脳研究者・池谷裕二が、娘の4歳までの成長を、脳の発達と機能の原理から分析し、子育てのコツとして惜しみなく紹介する。「新書版のための追記」を加えて新書化。

2020/7./ 381p
978-4-594-08536-0
本体 ¥1,000+税

読売新聞 2020/08/02

**ドクターM～医療ミステリーアンソロジー～(朝日文庫 か 46-5)**関根亨 編
朝日新聞出版

歯科医による死体治療、?を見破る超能力内科医、脳チップによる人格再編処置。医療現場で起きる事件や不思議な出来事を、様々な角度から紐解いていく。8人の人気作家が描く、医療にまつわるミステリーアンソロジー。

2020/7./ 577p
978-4-02-264961-4
本体 ¥920+税

読売新聞 2020/08/02

**2020年6月30日にまたここで会おう～瀧本哲史伝説の東大講義～(星海社新書 160)**瀧本 哲史 著
星海社

君たちは自分の力で、世の中を変えていけ！2019年に病のため夭逝した瀧本哲史。ずっと若者世代である「君たち」に向けてメッセージを送り続けてきた彼の思想を凝縮した「伝説の東大講義」を一冊にまとめる。

2020/4./ 219p
978-4-06-519428-7
本体 ¥980+税

読売新聞 2020/08/02



白菊～伝説の花火師・嘉瀬誠次が捧げた鎮魂の花～

山崎 まゆみ 著
小学館

なぜ、長岡の大花火は、見ているだけで涙を誘われるのか。疑問を解く鍵は花火師・嘉瀬誠次が亡き戦友への想いを込めてつくった花火「白菊」にあった…。『伝説の花火師』の生涯をたどり、感動の真実に迫るノンフィクション。

2014:7./ 251p
978-4-09-388376-4
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/02



ぼくとニケ

片川 優子 著
講談社

5年生で突然登校拒否になった幼なじみの仁菜が、薄汚れた子猫を拾い、ぼくの家へ連れてきた。自分の家で飼えない仁菜にかわり、ぼくと家族がお世話することになり…。獣医師が描く、子猫のニケとぼくの大切な話。

2018:11./ 221p
978-4-06-513512-9
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2020/08/02



英国流旅の作法～グランド・ツアーから庭園文化まで～(講談社学術文庫 2619)

中島 俊郎 著
講談社

教養を求めてイタリアへ。感性を磨きに田園へ。なぜ英国人は、これほどまでに旅に焦がれ続けたのか。18?19世紀に実践されたツーリズムに焦点を当て、英国人の旅への飽くなき情熱と、その理想郷の意味を考察する。

2020:7./ 293p
978-4-06-520051-3
本体 ¥1,180+税



読売新聞 2020/08/02



サキの忘れ物

津村 記久子 著
新潮社

ある日、千春はアルバイト先の喫茶店で客が忘れていった一冊の本を手にする。それは千春がはじめて読み通した本となり…。たやすく日々を宿る僥倖のような、まなざしあたたかな短篇9編を収録。『文藝』ほか掲載を書籍化。

2020:6./ 216p
978-4-10-331982-5
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2020/08/02、産経新聞 2020/08/23



外交官の文章～もう一つの近代日本比較文化史～

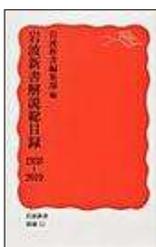
芳賀 徹 著
筑摩書房

攘夷・開国から日清・日露の戦役を経て開戦まで。久米邦武、陸奥宗光、小村寿太郎、吉田茂など、国運を一身に背負い、「言葉による戦争」を最前線で担った人々の記録と回想を読み解く。『外交フォーラム』連載を元に単行本化。

2020:6./ 433p,8p
978-4-480-86119-1
本体 ¥3,200+税



読売新聞 2020/08/02、産経新聞 2020/08/30



岩波新書解説総目録～1938-2019～(岩波新書 新赤版 別冊12)

岩波新書編集部 著
岩波書店

1938年の創刊以来、3400点あまり刊行されてきた岩波新書の歩みをたどる総目録。2019年12月までに刊行された全書目の書名・著訳編者名を刊行順に網羅し、その内容解説文を掲載する。

2020:6./ 628p,88p
978-4-00-439012-1
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2020/08/02、朝日新聞 2020/08/08



物語の海を泳いで

角田 光代 著
小学館

角田光代の本をめぐるエッセイ集。少女時代に読んだ本から、漫画、小説、エッセイ、ノンフィクションまで、心に残るあの本この本を熱烈に紹介する。著者の多彩な読書遍歴を存分に味わえる、とびきりの読書案内。

2020.8./ 284p
978-4-09-388770-0
本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/08/02、日本経済新聞 2020/08/08



星の牧場

庄野 英二、長 新太 著
理論社

戦争で記憶をなくし牧場に帰ってきたモミイチは、聞こえないはずの軍馬ツキスミのひづめの音を聞く。その音をたどっていくと山奥のお花畑に音楽を奏でるジプシーたちがいて…。幻想的な名作。再刊。

2003.10./ 294p
978-4-652-00522-4
本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/08/09



月島物語ふたたび

四方田 犬彦 著
工作舎

東京湾に浮かぶ島、月島で長屋生活を送りながら、この土地で生起した幾多の「物語」を綴った傑作エッセイが甦る!中野翠、川田順造との対談に加え、書き下ろしエッセイ、陣内秀信との対談を新規収録した決定版。

2007.1./ 400p
978-4-87502-399-9
本体 ¥2,500+税



読売新聞 2020/08/09



複眼の映像〜私と黒沢明〜(文春文庫)

橋本 忍 著
文芸春秋

「生きものの記録」以後はどうも冴えない作品ばかりー。『羅生門』『生きる』『七人の侍』の共同脚本家が見た映画人、黒澤明の真実。

2010.3./ 405p
978-4-16-777354-0
本体 ¥860+税



読売新聞 2020/08/09



図説世界史を変えた50の動物

エリック・シャリーン、甲斐 理恵子 著
原書房

紀元前4000年から戦争で使われてきた馬、中国とヨーロッパの交易のきっかけとなったカイコ…。世界の発展に大きく貢献し、生活様式に大きな影響をあたえてきた50の動物の興味深い物語を、美しい図版とともに紹介する。

2012.9./ 223p
978-4-562-04800-7
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2020/08/09



空の拳

角田 光代 著
日本経済新聞出版社

たまたまジムにまぎれこんだ男が、金にもならず、命すら奪われかねない過酷なボクシングの世界にのめり込む。まばゆい光の下で突き上げられた拳はいったい何を?むのか。スポーツ小説。『日本経済新聞』夕刊の連載を単行本化。

2012.10./ 485p
978-4-532-17115-5
本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/08/09



牛を屠る(双葉文庫 さ-28-03)

佐川 光晴 著
双葉社

10 年半、ひたすらナイフを研ぎ、牛の皮を?く中で見いだした「働くこと」の大いなる実感と悦びとは-。作家専業となる以前、埼玉の屠畜場に勤めていた日々を綴る。平松洋子との対談も収録。折り込みの作業場イラスト付き。

2014.7./ 170p
978-4-575-71417-3
本体 ¥528+税



読売新聞 2020/08/09



でーれーガールズ~FANTASTIC GIRLS,OKAYAMA,1980~(祥伝社文庫 は13-1)

原田 マハ 著
祥伝社

1980 年、岡山。夢見がちなマンガ少女・鮎子と、気が強いけどどこか陰のある美少女・武美は出会う。かけがえのない友だちのでーれー(=ものすごい)熱い絆を描く。2015 年 2 月公開映画の原作。

2014.10./ 253p
978-4-396-34070-4
本体 ¥580+税



読売新聞 2020/08/09



あずきとぎ(京極夏彦の妖怪えほん 怖)

京極 夏彦、町田 尚子、東 雅夫 編
京極 夏彦、町田 尚子 著
岩崎書店

しよきしよきしよき。川で変な音を聞いたぼく。おじいちゃんは、あずきとぎというおぼけがあずきを洗う音だと言う。おぼけなんかいないさ。次の日も川に行くと、あの音が聞こえ…。怖い妖怪と出会う絵本。

2015.3./ 1 冊(ページ付なし)
978-4-265-07973-5
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/09



猪変

中国新聞取材班 編
本の雑誌社

収穫前夜の田畑にイノシシが迫る! 人獣接近した暮らしのなかで、共生するにはどうすればいいのか。瀬戸内海、中国山地からポーランド、フランスまで、共生の道を探るルポルタージュ。『中国新聞』連載を元に単行本化。

2015.2./ 239p
978-4-86011-266-0
本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/08/09



自分ひとりの部屋(平凡社ライブラリー 831)

ヴァージニア・ウルフ 著
平凡社

<女性と小説>というテーマで講演を頼まれた語り手は、収入も自分の部屋もなかった、もの書く女性たちに思いをはせる-。講演をもとに、物語の形をとりながら女性の文学の歴史と未来への期待を紡いだフェミニズム批評の新訳。

2015.8./ 269p
978-4-582-76831-2
本体 ¥1,200+税



読売新聞 2020/08/09



コドモノセカイ

岸本 佐知子 著
河出書房新社

親友は、ブタの貯金箱。私の弟は、私の腰から生えている。僕の家は宇宙人に侵略された、絶対に…。あの頃わたしたちは、孤独で、弱くて、ひねくれている、とても<変>だった。名翻訳者が見つけた現代“子供”文学 12 編。

2015.10./ 215p
978-4-309-20687-5
本体 ¥1,900+税



読売新聞 2020/08/09



拳の先(文春文庫 か 32-15)

角田 光代 著
文藝春秋

文芸編集者の那波田空也は、ボクシング選手・タイガー立花の日々を見つめ続けるうち、不吉な予感を覚える。才能とは。逃げるとは。リングという圧倒的空間に熱狂と感動を描ききる長編小説。

2018:10./ 643p
978-4-16-791154-6
本体 ¥1,140+税



読売新聞 2020/08/09



ワールド・トレイルズ〜世界は歩いてみたい「道」にあふれている〜

ゲシュタルテン 編
橋本 タ子 著
グラフィック社

断崖絶壁の海岸線、11世紀から続く聖地巡礼ルート…。世界中のトレッキング・ファンを魅了してやまない伝説の 32 コースを、美しい写真とともに紹介。絶景ポイント、ベストシーズン、ルートマップなど、旅の情報も満載。

2019:4./ 254p
978-4-7661-3232-8
本体 ¥2,900+税



読売新聞 2020/08/09



キリン解剖記

郡司 芽久 著
ナツメ社

キリンが亡くなりました。クリスマスも正月も、訃報で予定をキャンセルし…。これまでに 30 頭のキリンを解剖し、「8 番目の“首の骨”」を見つけた著者が、キリンとの出会い、探求、発見の日々を綴る。

2019:7./ 215p
978-4-8163-6679-6
本体 ¥1,200+税



読売新聞 2020/08/09



暇なかないわ大切なことを考えるのに忙しくて〜ル=グウィンのエッセイ〜

アーシュラ・K・ル=グウィン 著
河出書房新社

ファンタジーの法則から、ユートピアとディストピア、ホメロス論、植物の感受性、愛猫パード、朝食の半熟卵まで。「ゲド戦記」など数多の傑作を遺した巨匠・ル=グウィンの、繊細かつ大胆で機知に富んだエッセイ集。

2020:1./ 281p
978-4-309-20790-2
本体 ¥2,400+税



読売新聞 2020/08/09



秘蔵カラー写真で味わう 60 年前の東京・日本<続>(光文社新書 1041)

J.ウォーリー・ヒギンズ 著
光文社

元祖「カラー撮り鉄」ヒギンズが愛した「昭和 30 年代の日本」の風景。新たに見つかった蔵出しプライベート・フィルムからの傑作も加え、鉄道写真多めの選りすぐり 544 枚を、当時の思い出話とともに公開する。

2019:12./ 510p
978-4-334-04450-3
本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/08/09



アンドロメダ病原体-変異-<上>

マイクル・クライトン/ダニエル・H・ウィルソン 著
早川書房

正体不明の病原体を封じ込め、人類絶滅の危機を乗り越えてから 50 年。その再来を監視する永続的な警戒システムは、アマゾンの密林奥に異常を検出。それはあの「病原体」と同じ科学的特徴を持っていて…。遺族公認の公式続篇。

2020:5./ 269p
978-4-15-209936-5
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/08/09



アンドロメダ病原体-変異-<下>

マイクル・クライトン/ダニエル・H・ウィルソン 著
早川書房

アマゾン奥地で無数のホエザルの死体を検分し、未接触部族の襲撃から逃れた調査隊のメンバーは、ついに怪現象の発見現場に到達する。そこには、見たこともない形状と性質を持つ漆黒の大構造物が…。遺族公認の公式続篇。

2020:5./ 270p
978-4-15-209937-2
本体 ¥1,800+税

読売新聞 2020/08/09



集中力(EI シリーズ)

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 編
ダイヤモンド社

SNS、デジタルガジェット…。日常に溢れる「雑音」から身を守るには? 集中力を培うテクニックとともに、自分の人生を取り戻す方法を、『ハーバード・ビジネス・レビュー』掲載の論考から厳選して紹介する。

2020:6./ 151p
978-4-478-10795-9
本体 ¥1,400+税

読売新聞 2020/08/09



ボクシング日和(ハルキ文庫 か 8-3)

角田光代 著
角川春樹事務所

ボクシングは、こんなにもドラマに満ちている! 後樂園ホールで、大阪で、マカオで。戦う男たちに叫び、涙し、祈る著者のボクシング観戦記。選手プロフィールつき。

2020:7./ 180p
978-4-7584-4349-4
本体 ¥540+税

読売新聞 2020/08/09



漱石先生(中公文庫 て 8-3)

寺田 寅彦 著
中央公論新社

先生と話して居れば小春哉-。自他共に認める夏目漱石の「別格の弟子」寺田寅彦が、第五高等学校での教師と生徒としての出会いから、その素顔と作品、周辺に集う人々までを、親愛と哀惜の情をこめて語る。

2020:7./ 252p
978-4-12-206908-4
本体 ¥900+税

読売新聞 2020/08/09



月島物語(集英社文庫)

四方田 犬彦 著
集英社

読売新聞 2020/08/09

1999:5./ 346p
978-4-08-747052-9
本体 ¥571+税



ファントム・ピークス(角川文庫 き 32-1)

北林 一光 著
角川書店

長野県安曇野。半年前に失踪した妻の頭蓋骨が見つかる。しかしあれほど用心深かった妻がなぜ山で遭難? 数日後妻と同じような若い女性の行方不明事件が起きる。それは恐るべき、惨劇の始まりだった。

2010:12./ 333p
978-4-04-394402-6
本体 ¥680+税

読売新聞 2020/08/09



スローカーブを、もう一球 改版(角川文庫 や 10-1)

山際 淳司 著
角川書店

1度だけ打ったホームラン、9回裏の封じ込め。駆け引きと疲労の中、ドラマは突然始まり、時間は濃密に急回転する。勝つ者がいれば、負ける者がいる。限界を超えようとするアスリートを活写したスポーツ・ノンフィクション。

読売新聞 2020/08/09

2012:6./ 285p
978-4-04-100327-5
本体 ¥560+税



しろいろの街の、その骨の体温の(朝日文庫 む 14-1)

村田 沙耶香 著
朝日新聞出版

季節が変わるごとにたくさんの転校生がやってくるニュータウンで、クラスの立場も性格も、正反対の女の子と男の子が出会う。女の子から少女へと変化する姿を丹念に描く。

読売新聞 2020/08/09

2015:7./ 319p
978-4-02-264784-9
本体 ¥700+税



数学する身体(新潮文庫 も-42-1)

森田 真生 著
新潮社

思考の道具として身体から生まれた数学。身体を離れ、高度な抽象化の果てにある可能性とは? 数学を通して「人間」に迫る、若き異能の躍動するデビュー作。

読売新聞 2020/08/09

2018:5./ 227p
978-4-10-121366-8
本体 ¥520+税



ノン・サラブレッド(集英社文庫 し 32-6)

島田 明宏 著
集英社

明治時代の名馬ミラ。その子孫は活躍するも、血統書がなく、非サラブレッドと分類された。舞台は現代に移り、競馬記者小林のもとに、ミラの血統書の存在をほめかす電話が…。競馬歴史ミステリー。

読売新聞 2020/08/09

2020:7./ 377p
978-4-08-744140-6
本体 ¥740+税



101年目の孤独～希望の場所を求めて～(岩波現代文庫 文芸 326)

高橋 源一郎 著
岩波書店

「弱さ」とは何か。生きるという営みの中に何が起きているのか。文学と社会、ことばと行動の関わりを深く考え続けてきた著者による、はじめてのルポルタージュ。「長いあどがき」付き。

読売新聞 2020/08/09

2020:7./ 8p,195p
978-4-00-602326-3
本体 ¥920+税



二分間の冒険(偕成社文庫)

岡田 淳 著
偕成社

たった二分間で冒険?信じられないかもしれませんが。でもこれは、六年生の悟に本当に起こったこと。体育館を抜け出して、ふしぎな黒猫に出会った時から、悟の長い長い二分間の大冒険が始まります。

読売新聞 2020/08/09

1991:6./ 259p
978-4-03-651880-7
本体 ¥800+税





第一阿房列車(新潮文庫)

内田 百閒 著
新潮社
読売新聞 2020/08/09

2003:4./ 317p
978-4-10-135633-4
本体 ¥590+税



伝奇集(岩波文庫 赤 792-1)

ボルヘス, J. L. (ホルヘ・レイス) 著
岩波書店

われわれ人間の生とは、他者の夢見ている幻に過ぎないのではないかと疑う「円環の廃墟」、宇宙の隠喩である図書館の物語「バベルの図書館」など、東西古今の神話や哲学を題材として精緻に織りなされた魅惑の短篇集。

1993:11./ 282p
978-4-00-327921-2
本体 ¥780+税



読売新聞 2020/08/09



自註鹿鳴集(岩波文庫)

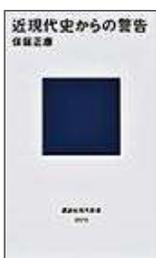
会津 八一 著
岩波書店

本書は、美術史家・書家にして歌人八一の全生涯を凝縮した自己表現の書であり、古都逍遥の格好の手引きともなる。

1998:2./ 302p
978-4-00-311541-1
本体 ¥660+税



読売新聞 2020/08/09



近現代史からの警告(講談社現代新書 2572)

保阪 正康 著
講談社

私たちは近現代史から何を学ぶべきか? 明治国家、天皇と軍事権力、大正末期など7つの視点から、日本近現代史の真髄を捉え、歴史の大局観を養う。書き下ろし「新型コロナウイルスはファシズムを呼ぶか」も収録。

2020:6./ 245p
978-4-06-519936-7
本体 ¥900+税



読売新聞 2020/08/09



夢でもいいから

亀和田 武 著
光文社

尾崎豊、三谷幸喜、川上麻衣子、上祐史浩、内田裕也...。もう一度会いたい人や、もう二度と会えない人。忘れられない人たちと過ごした濃密なひとときを綴るエッセイ集。『小説宝石』掲載を加筆し書籍化。

2020:6./ 237p
978-4-334-91353-3
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/08/09、読売新聞 2020/08/23



ユルスナールの靴~須賀敦子コレクション~(白水 U ブックス)

須賀 敦子 著
白水社

「きっちり足に合った靴さえあれば、じぶんはどこまでも歩いていけるはずだ」との思いにとらわれていた著者は、やがてユルスナール巡礼の旅に出る。河出書房新社96年刊の再刊。

2001:11./ 254p
978-4-560-07356-8
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2020/08/15



ミラノ霧の風景～須賀敦子コレクション～(白水 U ブックス)

須賀 敦子 著
白水社

記憶の中のミラノには、今もあの霧が静かに流れている?。イタリアで暮らした遠い日々を追想し、人、町、文学とのふれあいと言葉にならぬため息をつづる追憶のエッセイ。講談社エッセイ賞、女流文学賞受賞。90年刊の再刊。

2001:12./ 222p
978-4-560-07357-5
本体 ¥870+税



読売新聞 2020/08/15



盆土産と十七の短篇(中公文庫 み 5-2)

三浦 哲郎 著
中央公論新社

えびフライ、と呟いてみた-。忘れ得ぬ一行で始まる「盆土産」ほか、「金色の朝」などの名短篇と、人生の哀歓を描いた佳篇による精選集。中学・高校の国語教科書に収録された作品を中心に選び、独自に編集したもの。

2020:6./ 250p
978-4-12-206901-5
本体 ¥860+税



読売新聞 2020/08/15



特攻と日本軍兵士～大学生から「特殊兵器」搭乗員になった兄弟の証言と伝言～

広岩 近広/岩井 忠正/岩井 忠熊 著
毎日新聞出版

誰のために、何のために、おれは死ぬのだ-。大学生にして特攻隊員だった「歴史の証言者」からの聞き書き。日本近代史の中で個人の体験をとらえ直し、特攻作戦の本質に迫る。『毎日新聞』長期連載「平和をたずねて」の集大成。

2020:8./ 243p
978-4-620-32642-9
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2020/08/15



日本金融の誤解と誤算～通説を疑い検証する～

伊藤 修/植林 茂/鶴飼 博史/長田 健 編
勁草書房

大きな変貌を遂げつつある日本の金融。これまで通説と理解されてきたものを再検証なしに受け入れてもよいのか。データと事実関係に依拠した虚心坦懐な分析作業に基づいて、金融における通説を見直す。

2020:7./ 12p,250p
978-4-326-50472-5
本体 ¥3,500+税



読売新聞 2020/08/15



軍旗はためく下に 増補新版(中公文庫 ゆ 2-23)

結城 昌治 著
中央公論新社

陸軍刑法上、死刑と定められた罪。敵前逃亡・奔敵、従軍免脱、司令官逃避、敵前党与逃亡、上官殺害...。太平洋戦争末期、戦地で裁かれ処刑された兵士たちの非情の真相を描く。自作再読エッセイも収録。

2020:7./ 288p
978-4-12-206913-8
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2020/08/15



芸術のルール～倉本修画文集～

倉本 修 著
七月堂

群を抜く泥濘の中を抜け、あなたは□型・○型・△型のヒントを孕む「芸術のルール」を発見するだろう-。青の中の青、空を飛ぶ戦争、子どもの風景...。黙示し隠る<画と文>の作品集。『イリュースII』連載をもとに単行本化。

2020:5./ 87p
978-4-87944-405-9
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/08/15



やってくる(シリーズケアをひらく)

郡司ペギオ 幸夫 著
医学書院

外部からやってくるものによって、現実はどうにか成り立っている。だから日常こそスペクタクルで、体を張って実現すべきものなんだ! ケアという「小さき行為」の奥底に眠る過激な思想を読み解く。テキストデータ引換券付き。

2020/8./ 302p
978-4-260-04273-4
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2020/08/15



榎家の人びと<第1部>(新潮文庫 き-4-57)

北 杜夫 著
新潮社

読売新聞 2020/08/15

2011/7./ 366p
978-4-10-113157-3
本体 ¥590+税



榎家の人びと<第3部>(新潮文庫 き-4-59)

北 杜夫 著
新潮社

読売新聞 2020/08/15

2011/7./ 382p
978-4-10-113159-7
本体 ¥630+税



榎家の人びと<第2部>(新潮文庫 き-4-58)

北 杜夫 著
新潮社

読売新聞 2020/08/15

2011/7./ 404p
978-4-10-113158-0
本体 ¥670+税



アウア・エイジ

岡本 学 著
講談社

大学教師の私に届いた、学生時代にバイトをしていた映画館からの招待状。映画館の壁に貼られたままの写真に、20年前の記憶がよみがえり…。『群像』掲載を単行本化。

2020/7./ 140p
978-4-06-520839-7
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2020/08/15

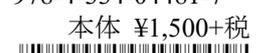


AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争(光文社新書 1074)

庭田 杏珠、渡邊 英徳 著
光文社

戦前・戦後の貴重な白黒写真 355 枚を、最新の AI 技術と当事者への取材や資料をもとに人の手で彩色。カラー化した写真から、当時の暮らしを紹介する。

2020/7./ 1 冊(ページ付なし)
978-4-334-04481-7
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/15、朝日新聞 2020/08/16



霧の彼方須賀敦子

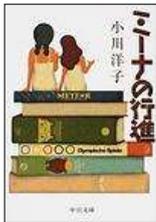
若松 英輔 著
集英社

生涯にわたり信仰と文学の「コトバ」に共感し、晩年に稀有な作品を遺した須賀敦子。その魅力の源泉とは。さまざまな出会いによって導かれた、「たましい」の旅を描く評伝。『すばる』連載に加筆・修正し単行本化。

2020/6./ 471p,6p
978-4-08-771671-9
本体 ¥2,700+税



読売新聞 2020/08/15、日本経済新聞 2020/08/29



ミーナの行進(中公文庫)

小川 洋子 著
中央公論新社
読売新聞 2020/08/23

2009:6./ 348p
978-4-12-205158-4
本体 ¥686+税



めぐる季節の物語(アラスカの詩)

星野 道夫 著
新日本出版社
オーロラ、早春のかげろうの中のカリブーの大群、燃えるような紅葉…。アラスカの自然と人びとの暮らしを記録し続けた星野道夫の著作の中から、季節について綴った文章を集め、美しい写真とともに収める。

2010:10./ 126p
978-4-406-05390-7
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/23



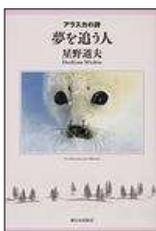
極北に生きる人びと(アラスカの詩)

星野 道夫 著
新日本出版社
クジラの民、白夜、ある家族の旅、思い出の結婚式…。アラスカの自然と人びとの暮らしを記録し続けた星野道夫の著作の中から、「生」について綴った文章を集め、美しい写真とともに収める。

2010:12./ 128p
978-4-406-05417-1
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/23



夢を追う人

新日本出版社
未踏の大自然は、じつはたくさんの人々が通りすぎ、さまざまな物語に満ちていた…。アラスカの自然と人びとの暮らしを記録し続けた星野道夫の著作の中から、「夢」について綴った文章を集め、美しい写真とともに収める。

2011:1./ 128p
978-4-406-05421-8
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/23



真景累ヶ淵～どこまでも落ちてゆく男を容赦なく描いた恐怖物語～(ストーリーで楽しむ日本の古典 20)

金原 瑞人、佐竹 美保 著
岩崎書店
貧乏旗本・深見新左衛門と盲目の鍼医で金貸しの宗悦の悪縁が織りなす、色と金と悪縁につかれた人間の悲劇と喜劇…。幽霊物語「真景累ヶ淵」の内容をやさしく伝える。古典の入門書に最適。

2017:2./ 191p
978-4-265-05010-9
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/23



無人駅で君を待っている

いぬじゅん 著
スタート出版
浜名湖を臨む静かな無人駅。そこにあるベンチには、不思議な伝説があった。オレンジ色の夕焼けの中、ベンチに座り、「会いたい」と強く願えば、やさしい奇跡が訪れて…。切なくも温かい5つの「再会」の物語。

2019:8./ 309p
978-4-8137-9034-1
本体 ¥1,300+税



読売新聞 2020/08/23



配膳さんという仕事～なぜ京都はもてなし上手なのか～

笠井 一子 著
平凡社

宴会、儀式などの進行を万事裏方でとり仕切る、京都にだけ存在する男性だけの職業、「配膳さん」。「配膳」という仕事を通して、京都という町が育んできた「もてなし」の精神、その美的感覚と技術を生き生きと伝える。

2020:4./ 213p
978-4-582-83827-5
本体 ¥2,200+税



読売新聞 2020/08/23



仕事に効く教養としての「世界史」(祥伝社文庫 て3-1)

出口治明 著
祥伝社

歴史はなぜ中国で発達したのか。神はなぜ生まれ、どうして宗教はできたのか。交易の重要性、アメリカとフランスの特異性、アヘン戦争…。ビジネスをしている人に役に立つ、世界と日本を理解する世界史 10 の視点を解説する。

2020:6./ 402p
978-4-396-31756-0
本体 ¥890+税



読売新聞 2020/08/23



怖い間取り～事故物件怪談～<2>

松原 タニシ 著
二見書房

殺人・自殺・火災…。 “事故物件住みます芸人”が、これまで生活してきた事故物件での体験や、実際に事故物件に住んでいる人に取材した話、事故物件の旅の話などを、間取り付きで紹介する。

2020:8./ 317p
978-4-576-20097-2
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2020/08/23



人事の古代史～律令官人制からみた古代日本～(ちくま新書 1497)

十川 陽一 著
筑摩書房

古代日本において、国家を運営する仕組みであった「律令官人制」。その実態とはどのようなものだったのか？ 主に中央官制を中心として、官人たちに関わる諸制度や社会の動きを概観しながら、日本の古代国家について考察する。

2020:6./ 270p
978-4-480-07311-2
本体 ¥860+税



読売新聞 2020/08/23



羊飼い猫の日記～アイルランドの四季と暮らし～

スザンナ・クラプトン 著
ハーパーコリンズ・ジャパン

ある日、羊飼いに拾われてブラックシープ農場で暮らすことになった野良猫のボデイシヤス。やがて立派な“羊飼い猫”になったボデイシヤスが、ご主人の羊飼い、そして動物の仲間たちとの四季折々の日々を綴る。

2020:6./ 268p
978-4-596-55157-3
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/08/23



あがない

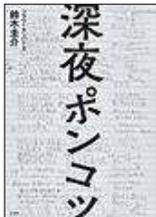
倉数 茂 著
河出書房新社

解体作業員の祐。ある青年との出会いが、抗不安薬依存に陥った過去を引き連れ、彼の平穏を脅かし…。表題作のほか、「不実な水」を収録する。『文藝』掲載を単行本化。

2020:6./ 211p
978-4-309-02893-4
本体 ¥1,900+税



読売新聞 2020/08/23

**深夜ポンコツ**鈴木 圭介 著
左右社

ロックバンド「フラワーカンパニーズ」のボーカル・鈴木圭介が、代表曲「深夜高速」誕生の頃、結成からメジャーデビューまでを綴る。ひとりインタビュー、童話「月と太陽」、尾崎世界観や角田光代との対談なども収録。

2020/5./ 252p
978-4-86528-275-7
本体 ¥1,727+税

読売新聞 2020/08/23

**お局美智〜経理女子の特命調査〜(文春文庫 あ83-1)**明日乃 著
文藝春秋

地方の建設会社に勤める佐久間美智。普段はごく普通の経理課 OL だが、彼女は社内にはびこる不正やスキャンダルを未然に防ぐため、社員の会話を盗聴する任務を会長から負わされていた。電子書籍を文庫化。

2020/8./ 293p
978-4-16-791546-9
本体 ¥740+税

読売新聞 2020/08/23

**南風(みなみ)吹く(光文社文庫 も23-2)**森谷明子 著
光文社

瀬戸内海に浮かぶ島の高校に通う航太は、ひょんなことから俳句甲子園出場を目指す日向子のメンバー探しを手伝うことになる。必要な人数の 5 人が揃い、動き始めたある日、航太の祖母が倒れてしまい…。青春エンタテインメント。

2020/7./ 460p
978-4-334-79051-6
本体 ¥800+税

読売新聞 2020/08/23

**まなざしのか〜ヒューマンドキュメントの人々〜**渡辺 考 著
かもがわ出版

カズオ・イシグロ、檀一雄、教皇フランシスコ、中村哲…。TV ディレクター30年の著者が、ドキュメンタリー作成の過程で邂逅した人々のまなざしに宿った力と背後に広がる世界を綴ったエッセイ。『月刊保団連』掲載を書籍化。

2020/8./ 203p
978-4-7803-1106-8
本体 ¥1,700+税

読売新聞 2020/08/23

**140字の文豪たち**川島 幸希 著
秀明出版会

「ら抜き言葉」は太宰治も使っていた、萩原朔太郎の詩に宮沢賢治は…。文豪たちの知られざる言葉とエピソードを、史実にもとづいて紹介する。近代文学研究者で古書コレクターによる「初版道」名義の文学ツイートを書籍化。

2020/7./ 213p 図版
16p
978-4-915855-37-5
本体 ¥909+税

読売新聞 2020/08/23

**九年前の祈り(講談社文庫 お121-2)**小野 正嗣 著
講談社

35 歳になるシングルマザーのさなえは、幼い息子をつれて、海辺の小さな集落に戻ってきた。息子を持って余しながら、さなえが懐かしく思い出したのは、9 年前の「みっちゃん姉」の言葉だった…。表題作など全 4 作を収録する。

2017/12./ 248p
978-4-06-293827-3
本体 ¥620+税

読売新聞 2020/08/23



消えたママ友(MF comic essay)

野原 広子 著
KADOKAWA

仲良しだったはずのママ友、有紀ちゃんが子どもを置いて突然消えた。平凡な日常を襲った事件をきっかけに、ママ友たちがじわじわと自分の闇に気づき…。コミックエッセイ。『レタスクラブ』連載に描き下ろしを加えて書籍化。

2020/6./ 171p
978-4-04-064317-5
本体 ¥1,100+税



読売新聞 2020/08/23



怪談～不思議なことの物語と研究～ 改版(岩波文庫)

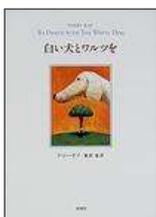
ラフカディオ・ハーン 著
岩波書店

日本を終生愛してやまなかったハーン(1850-1904)が我が国古来の文献や民間伝承に取材して創作した短篇集。有名な『耳なし芳一のはなし』『雪おんな』など17篇の他に『虫の研究』3篇を収めた。

1965/9./ 205p
978-4-00-322441-0
本体 ¥660+税



読売新聞 2020/08/23



白い犬とワルツを

テリー・ケイ 著
新潮社

57年間連れ添った妻を失っても生き抜こうとするサム。そんな彼を心配する子供たち。サムにしか見えなかった白い犬はやがて…。95年初版のベストセラーの新装版。

2001/11./ 217p
978-4-10-530702-8
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2020/08/23



女神 改版(新潮文庫)

三島 由紀夫 著
新潮社

読売新聞 2020/08/23

2002/11./ 346p
978-4-10-105025-6
本体 ¥590+税



ぼぎわんが、来る(角川ホラー文庫 Hさ4-1)

澤村 伊智 著
KADOKAWA

それが来たら、絶対に答えたり、入れたらあかんて-。田原秀樹のもとに来訪者があつた。取り次いだ後輩の伝言に戦慄する。それは生誕を目前にした娘の名前だった…。怪談・都市伝説・民俗学など、様々な要素を孕んだホラー。

2018/2./ 375p
978-4-04-106429-0
本体 ¥680+税



読売新聞 2020/08/23



しりばの家(角川ホラー文庫 さ4-4)

澤村伊智 著
KADOKAWA

幼馴染の平岩の家に招かれた果歩。不気味な音、部屋の隅に散る砂。怪異の存在を訴える果歩に、平岩は異常はないと断言する。一方、その家に関わったせいで、「ザリザリ」という砂が脳を侵食する感覚に悩まされる男が現れ…。

2020/1./ 340p
978-4-04-108543-1
本体 ¥680+税



読売新聞 2020/08/23



小さな恋のものがたり～叙情まんが～<第 44 集> その後のチッチ

みつはし ちかこ 著
学研

43 集で片恋にひとつの区切りをつけた、主人公のチッチ。その後のチッチの日常を描いた、心温まる抒情まんが。

読売新聞 2020/08/23

2018:10./ 164p
978-4-05-406665-6
本体 ¥600+税



対極

鬼田 隆治 著
小学館

合法的に暴れるために SAT に志願した“悪童”中田、異例の抜擢を経て SIT 係長になった“エリート”谷垣。立場も性格も信条もまるで異なる 2 人は衝突を繰り返しながらも、謎のテロ集団と対峙し…。ポリス×ピカレスク小説。

読売新聞 2020/08/23

2020:8./ 285p
978-4-09-386582-1
本体 ¥1,600+税



13億人のトイレ～下から見た経済大国インド～(角川新書 K-328)

佐藤 大介 著
KADOKAWA

インドはトイレなき経済大国だった!? 家にトイレはないけれど、携帯電話ならある。トイレに行くのも命がけ…。海外特派員が、経済データという「上から」ではなく、トイレ事情という「下から」インドに迫る。

読売新聞 2020/08/23

2020:8./ 230p
978-4-04-082361-4
本体 ¥900+税



おごそかな渴き 改版(新潮文庫)

山本 周五郎 著
新潮社

読売新聞 2020/08/23

2003:5./ 491p
978-4-10-113415-4
本体 ¥710+税



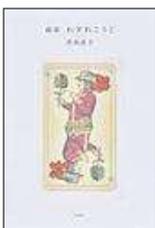
残穢(新潮文庫 お-37-9)

小野 不由美 著
新潮社

畳を擦る音が聞こえ、いるはずのない赤ん坊の泣き声が…。この家はどこか可怪しい。何の変哲もないマンションで起きる怪奇現象を調べるうち、浮き上がってきた「土地」を巡るある因縁とは? 2016 年 1 月公開映画の原作。

読売新聞 2020/08/23

2015:8./ 359p
978-4-10-124029-9
本体 ¥630+税



組曲わすれこうじ

黒田 夏子 著
新潮社

節句のひながた、ミニチュアの動物や椅子、骰子、黒い円盤…。幼年の心に刻まれた、愛おしいものたちの記憶。長い歳月をかけて織りあげた、芥川賞受賞後初の小説集。『新潮』掲載を中心に単行本化。

読売新聞 2020/08/23

2020:5./ 197p
978-4-10-353311-5
本体 ¥1,900+税





雨月物語(岩波文庫 30-220-3)

上田 秋成、長島 弘明 著
岩波書店

荒ぶる先帝の怨霊、命を賭した義兄弟の契り、男にとりついた蛇性の女の執念…。中国や日本の古典を様々に取り入れ、美しくも妖気ただよう作品に仕上げた上田秋成の珠玉の短篇集に、平明な注と解説、あらすじを付した新版。

2018:2./ 258p
978-4-00-302203-0
本体 ¥780+税



読売新聞 2020/08/23



熊嵐(新潮文庫)

吉村 昭 著
新潮社

大正4年12月、北海道天塩山麓の開拓村に現われた1頭の熊が、わずか2日間に6人の男女を殺害した。自然の猛威の前で、なす術のない人間たちと、ただ一人沈着に熊と対決する老練な猟師の姿を描く。

1982:11./ 226p
978-4-10-111713-3
本体 ¥520+税



読売新聞 2020/08/23



ずうのめ人形(角川ホラー文庫 Hさ4-2)

澤村 伊智 著
KADOKAWA

オカルト雑誌の編集部で働く藤間は、後輩の岩田から、不審死したライターが遺した謎の原稿を託され、作中の都市伝説「ずうのめ人形」に心惹かれていく。そんな中、岩田が変死体となって発見され…。比嘉姉妹シリーズ第2弾。

2018:7./ 455p
978-4-04-106768-0
本体 ¥760+税



読売新聞 2020/08/23



ガラスの動物園(劇書房ベストプレイ・シリーズ 35)

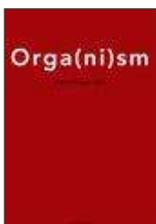
テネシー・ウィリアムズ、松岡和子 著
構想社

外とのつながりを見つけれない自閉症の姉ローラ、過去の華やかな思い出の世界に生きている母アマダ、そしてローラが想いを寄せる青年ジム…。南果歩らの出演による「ガラスの動物園」のアクティング・ヴァージョンを訳出。

1993:8./ 122p
978-4-87574-557-0
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/08/30



オーガニズム

阿部 和重 著
文藝春秋

阿部和重邸に、アメリカから瀕死の諜報部員が転がり込んだ。アメリカ大統領に迫る核テロの危機。CIA ケースオフィサーと阿部は、世界を破滅させる陰謀を阻止できるのか…。神町シリーズ最終章。『文学界』連載を書籍化。

2019:9./ 861p
978-4-16-391097-0
本体 ¥2,400+税



読売新聞 2020/08/30



ニッポン脱力神さま図鑑～仁王、道祖神、狛犬などが大集合！～

宮田 珠己 著
廣済堂出版

鬼コ、国東仁王さま、鹿児島仁王どん、人形道祖神、肥前狛犬…。予定調和をふきとばす圧倒的なユルさ。こんな姿の神仏もありなのか！著者が旅で見つけた、路傍の“ゆるカワ”323体を写真とともに紹介。

2020:5./ 160p
978-4-331-52288-2
本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/08/30



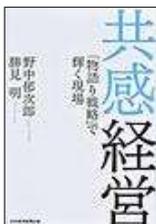
高峰秀子の反骨

高峰 秀子 著
河出書房新社

反骨の人生を語った貴重な講演、東京五輪記録映画を非難され、孤立無援だった市川崑監督を擁護、映画愚劣化を危惧する国会答弁の全記録など、高峰秀子の義?心と正義感をあらためて読む。単行本未収録エッセイ集。

読売新聞 2020/08/30

2020:4./ 198p
978-4-309-02880-4
本体 ¥1,800+税



共感経営～「物語り戦略」で輝く現場～

野中 郁次郎／勝見 明 著
日本経済新聞出版社

成功の共通項は「共感」。企業経営や事業におけるイノベーションや大きな成功は、論理や分析ではなく、「共感→本質直感→跳ぶ仮説」というプロセスにより実現されることを、9つのケースと3つの参考事例で解説する。

読売新聞 2020/08/30

2020:5./ 284p
978-4-532-32337-0
本体 ¥1,800+税



たん・たんか・たん～美村里江歌集～

美村 里江 著
青土社

好きなもの呪文のように書き続け私にだけ効くマントラとする エッセイスト・女優の美村里江、初の歌集。236首と書き下ろしエッセイ10篇を収録し、3年間で製作した700首一覧も付す。『ユリイカ』掲載等をまとめる。

読売新聞 2020/08/30

2020:4./ 181p
978-4-7917-7264-3
本体 ¥1,800+税



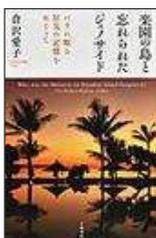
専門知を再考する

H・コリンズ／R・エヴァンズ 著
名古屋大学出版会

科学技術の浸透した世界で物事を決めるとき、専門家を無視することも、絶対的に信頼することもできない。会話や「農民の知」から、査読や科学プロジェクト運営まで、専門知の多様なあり方を初めてトータルに位置づける。

読売新聞 2020/08/30

2020:4./ 7p,179p,30p
978-4-8158-0986-7
本体 ¥4,500+税



楽園の島と忘れられたジェノサイド～バリに眠る狂気の記憶をめぐって～

倉沢 愛子 著
千倉書房

1965年のある事件をきっかけに、バリ島のごく普通の住民たちが隣人を、狂気に駆られたかのように一方的に殺害していった。なぜ、かくも恐ろしい惨劇が起こったのか。惨劇の発端とその後の展開を実証的に分析する。

読売新聞 2020/08/30

2020:7./ 23p,258p
978-4-8051-1205-2
本体 ¥3,200+税



なぜ人はカルトに惹かれるのか～脱会支援の現場から～

瓜生 崇 著
法蔵館

いわゆる「カルト」と言われる教団に入っていく人に、どう向き合っていくべきか。自らも入信脱会を経験した著者が、カルトとはそもそも何か、どうして人はカルトに入るのかを考察し、脱会支援に関わる中で考えたことを記す。

読売新聞 2020/08/30

2020:5./ 214p
978-4-8318-8779-5
本体 ¥1,600+税





マンガでわかる! 今日からドヤれる科学リテラシー講座～教えて! 夜子先生～

くられ／くがほたる 著
化学同人

天然無添加は安心安全? 水素水で健康になれる? 血液型で性格がわかるって本当? あやしいウワサや気になる現象を、科学の視点でぶった斬る、科学リテラシー入門マンガ。『TOCANA』連載を加筆・修正。

2020:7./ 135p
978-4-7598-2039-3
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2020/08/30



拾われた男

松尾 諭 著
文藝春秋

自販機の下で航空券を拾ったら、昭和顔の男がなぜかモデル事務所に所属することに。借金地獄、落ち続けるオーディション…。個性派俳優・松尾諭による波瀾万丈「自伝風」エッセイ。『文春オンライン』連載に加筆し単行本化。

2020:6./ 285p
978-4-16-391151-9
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/08/30



現代哲学の最前線(NHK 出版新書 627)

仲正 昌樹 著
NHK出版

哲学は今何を問うているか? 正義論、承認論、自然主義、心の哲学、新しい実在論という5つのテーマの議論を整理し、そのエッセンスを解説。変貌する哲学の見取り図を示す、本格的哲学入門。

2020:7./ 286p
978-4-14-088627-4
本体 ¥900+税



読売新聞 2020/08/30



コロナ後の世界(文春新書 1271)

ジャレド・ダイヤモンド／ポール・クルーグマン／リンダ・グラットン／マックス・テグマーク／スティーブン・ピンカー／スコット・ギャロウェイ／大野 和基 著

文藝春秋

国境を超えて蔓延する新型コロナウイルス。このパンデミックは人類の歴史にどんな影響を及ぼすのか。これから我々はどんな未来に立ち向かうのか。世界の知性6人にインタビューし、世界と日本の行く末を問う。

2020:7./ 202p
978-4-16-661271-0
本体 ¥800+税



読売新聞 2020/08/30



ぼくの映画人生(実業之日本社文庫 お 10-1)

大林 宣彦 著
実業之日本社

「じゃ、ぼく、映画をつくるよ」少年時代から映画と共に生き、「映画作家」として道なき道を切り拓いてきた大林監督が、その半生と映画論を縦横に語る。大林宣彦「フィルモグラフィ」付き。

2020:7./ 345p
978-4-408-55603-1
本体 ¥950+税



読売新聞 2020/08/30



ピストルズ<下>(講談社文庫 あ 86-9)

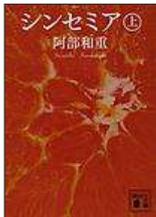
阿部 和重 著
講談社

一子相伝の継承者に選ばれた菖蒲家の末娘は、凄惨な修行の末、類い稀な秘術の能力を開花させてしまう。その果てに起きた「血の日曜日」事件。次女によって語られる、一族の壮大な罪と償いの歴史とは…。

2013:6./ 458p
978-4-06-277563-2
本体 ¥762+税



読売新聞 2020/08/30

**シンセミア<上>(講談社文庫 あ86-6)**阿部 和重 著
講談社

戦後日本。米軍の占領政策の一端を担ったパン屋とヤクザ、田宮家と麻生家は神町で絶大な勢力となり、息子の代になっても両家の固い結びつきは続いていた。あの事件が起きた炎熱の夏までは…。神町トリロジー第1部。

2013:5./ 487p
978-4-06-277548-9
本体 ¥980+税

読売新聞 2020/08/30

**シンセミア<下>(講談社文庫 あ86-7)**阿部 和重 著
講談社

未曾有の洪水に襲われ水没した神町。二つの死体と共に、終戦直後にこの町で起きた忌まわしい惨劇が浮かび上がる。不穏な噂が町を覆い尽くし、やがてそれは町を二分する勢力の全面抗争へ…。神町トリロジー第1部。

2013:5./ 511p
978-4-06-277549-6
本体 ¥1,000+税

読売新聞 2020/08/30

**風立ちぬ/菜穂子(小学館文庫 ほ7-1)**堀 辰雄 著
小学館

重病に冒され、高原のサナトリウムで療養を続ける節子。婚約者である「私」は、美しい自然の中で、生と死に向き合いながら、献身的に節子を支える…。不朽の恋愛小説。「菜穂子」も収録。

2013:11./ 293p
978-4-09-408877-9
本体 ¥514+税

読売新聞 2020/08/30

**ピストルズ<上>(講談社文庫 あ86-8)**阿部 和重 著
講談社

甘い香りと美しい歌声に満ちた夢の花園、菖蒲家。だがその実態は、秘術を用いる魔術師一家が1200年前から住まうディストピアだった。自分の代で忌まわしい伝承を断つつもりだった父は、一族の遠大な呪縛に絡め取られ…。

2013:6./ 361p
978-4-06-277562-5
本体 ¥648+税

読売新聞 2020/08/30

**君が夏を走らせる(新潮文庫 せ12-4)**瀬尾 まいこ 著
新潮社

金髪にピアスでふらふらしている俺が、先輩の子どもの面倒をみる羽目に。読み聞かせにオムツ替え。非日常が突然やってきて…。16歳の不良少年・大田の、ひと夏の奮闘記。

2020:7./ 363p
978-4-10-129774-3
本体 ¥670+税

読売新聞 2020/08/30

**わたしの渡世日記<上>(新潮文庫 た-98-1)**高峰 秀子 著
新潮社

読売新聞 2020/08/30

2012:1./ 367p
978-4-10-136981-5
本体 ¥630+税



ステイホームの密室殺人～コロナ時代のミステリー小説アンソロジー～ <1>(星海社 FICTIONS ス 1-01)

織守 きょうや／北山 猛邦／斜線堂 有紀／津田 彷徨／渡辺 浩式 著
星海社

「ステイホーム」のかけ声とともに、一瞬で変わってしまった日常を描いた、オール書き下ろしミステリー小説アンソロジー。1 は、織守きょうや、北山猛邦、斜線堂有紀、津田彷徨、渡辺浩式の作品を収録する。

2020:8./ 235p
978-4-06-520652-2
本体 ¥1,300+税



読売新聞 2020/08/30



禁煙セラピー+

アレン・カー 著
ロングセラーズ

タバコの害を知っていながらやめられない本当の理由を理解すれば、禁煙は成功する。75～80 パーセントという脅威の成功率を誇る、アレン・カーの禁煙セラピーを紹介します。

2010:11./ 235p
978-4-8454-2187-9
本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2020/08/01



名画の言い分(ちくま文庫 き 33-1)

木村 泰司 著
筑摩書房

日本経済新聞 2020/08/01

2011:6./ 303p
978-4-480-42828-8
本体 ¥950+税



昭和アイドル映画の時代(光文社知恵の森文庫 t て 2-2)

寺脇 研 著
光文社

1960 年代から 80 年代の約 30 年間に盛んに制作された「アイドル青春映画」。橋幸夫、西郷輝彦、加山雄三、内藤洋子、薬師丸ひろ子、原田知世、後藤久美子…。昭和アイドル映画の歴史を紹介する。

2020:4./ 575p
978-4-334-78786-8
本体 ¥1,260+税



日本経済新聞 2020/08/01



パトリックと本を読む～絶望から立ち上がるための読書会～

ミシェル・クオ 著
白水社

もっとも才能のあった教え子が罪を犯した。教え子パトリックとの面会のため拘置所に通う教師で法学生のミシェル。ともに本を読むことで、貧困からくる悪循環にあえぐ青年の心に寄り添おうとする。自己発見と他者理解の記録。

2020:5./ 393p
978-4-560-09731-1
本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2020/08/01



なぜ中間層は没落したのか～アメリカ二重経済のジレンマ～

栗林 寛幸 編
ピーター・テミン 著
慶應義塾大学出版会

所得格差が拡大し、中間層が消えつつあるアメリカ。二極化した階層を固定化する政策、低賃金、大量投獄、人種差別…。世界でもっとも裕福な国であるアメリカの現状を、「二重経済モデル」によって描き出す。

2020:5./ 23p,325p
978-4-7664-2674-8
本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2020/08/01



Spotify～新しいコンテンツ王国の誕生～

スベン・カールソン／ヨナス・レイヨンフーフブッド 著
ダイヤモンド社

スウェーデン発のIT企業「Spotify」は、なぜジョブズが築き上げた帝国を打ち破ることができたのか？ 世界最大の音楽ストリーミングサービスを構築したダニエル・エクの素顔を明かすノンフィクション。

2020/6./ 422p
978-4-478-10875-8
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/08/01



ワイルドサイドをほっつき歩け～ハマータウンのおっさんたち～

ブレイディ みかこ 著
筑摩書房

恋と離婚、失業と抵抗。絶望している暇はない。英国ブライトン在住の著者が、EU 離脱、競争激化社会などの大問題に立ち上がる中高年について綴る。PR 誌『ちくま』掲載に、現代英国の世代、階級、酒事情の解説を加える。

2020/6./ 251p
978-4-480-81550-7
本体 ¥1,350+税



日本経済新聞 2020/08/01



彼らを書く

片岡 義男 著
光文社

ザ・ビートルズ、ボブ・ディラン、エルヴィス・プレスリー。DVD31 作品のなかに、いまも「彼ら」はいる…。彼らの音楽映画にまつわるエッセイ 31 篇と、貴重写真 87 枚が絡み合うオール・カラーBOOK。

2020/4./ 254p
978-4-334-95164-1
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2020/08/01



日本の道路政策～経済学と政治学からの分析～

太田 和博 著
東京大学出版会

日本の道路政策の全体像を経済学と政治学(公共選択論)の視点から論じた書。国民の生活と経済活動に不可欠ゆえ、激論が交わされ続けた重要課題の核心に迫り、制度の詳細と今後の展望を提示する。

2020/6./ 11p,415p
978-4-13-040288-0
本体 ¥5,500+税



日本経済新聞 2020/08/01



科学の人種主義とたたかう～人種概念の起源から最新のゲノム科学まで～

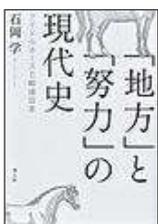
アンジェラ・サイニー 著
作品社

「白人は非白人より優れている」「黒人は高血圧になりやすい」...人種科学の?を暴く! 人種概念の起源、優生学の歴史をたどり、最新のゲノム科学とそれを巧みに利用する人種主義者の現状までも論じる科学ルポルタージュ。

2020/6./ 351p,39p
978-4-86182-810-2
本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2020/08/01



「地方」と「努力」の現代史～アイドルホースと戦後日本～

石岡 学 著
青土社

「努力」と「立身出世」の神話は、どのように構築され、作用してきたのか？ 戦後、アイドルに祭り上げられた3頭のユニークな競走馬をめぐる言説の変容を追い、日本社会に潜む「集合意識」の謎に迫る。

2020/6./ 307p
978-4-7917-7289-6
本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2020/08/01



ローマ帝国の衰退(文庫クセジュ 1037)

ジョエル・シュミット 著
白水社

紀元 3 世紀以降、様々な危機によってローマ帝国は衰退した。だが文明が消滅したわけではない。文明は「歴史の苦難や破局を乗り越えて存続するもの」という見地から、いまでもヨーロッパに刻印を残し続ける「ローマ」を描き出す。

日本経済新聞 2020/08/01

2020/7./ 167p,3p
978-4-560-51037-7
本体 ¥1,200+税



哲学の誤配(ゲンロン叢書 007)

東浩紀 著
ゲンロン

正しい宛先に向けて正しく言葉を伝えることは、政治的でも公共的でもないのだ。韓国の読者に向けて語った 2 つのインタビューと、2019 年 11 月に中国・杭州で行なった講演を収録する。日韓並行出版。

日本経済新聞 2020/08/01

2020/4./ 206p
978-4-907188-37-5
本体 ¥1,800+税



ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー〜The Real British Secondary School Days〜

ブレイディみかこ 著
新潮社

優等生の「ぼく」が通い始めたのは、人種も貧富もごちゃまぜの「元・底辺中学校」。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只中の「ぼく」と著者である母は、ともに考え悩み乗り越え…。傑作エッセイ。『波』連載を書籍化。

日本経済新聞 2020/08/01

2019/6./ 252p
978-4-10-352681-0
本体 ¥1,350+税



ウエハースの椅子(新潮文庫)

江國 香織 著
新潮社

日本経済新聞 2020/08/01

2009/10./ 216p
978-4-10-133925-2
本体 ¥520+税



梅原猛著作集<13> 現代を生きる

梅原 猛 著
小学館

危機の時代に日本人はいかに生きるべきか。清新で力強い指針を示す。第一線で活躍するビジネスマンにとって格好の栄養剤。

日本経済新聞 2020/08/01

2001/9./ 557p
978-4-09-677113-6
本体 ¥4,300+税



KGBの男〜冷戦史上最大の二重スパイ〜

ベン・マッキンタイアー 著
中央公論新社

核戦争を回避させた老スパイは現在、英国で 24 時間警護を受けながら、名前も身分も偽り、孤独な生活を送っている。本人のインタビューと MI6 で工作に関わった面々の証言から、大胆にして危険極まりない諜報半生を辿る。

日本経済新聞 2020/08/01、朝日新聞 2020/08/08

2020/6./ 492p
978-4-12-005310-8
本体 ¥2,900+税





贈与の系譜学(講談社選書メチエ 726)

湯浅 博雄 著
講談社

なぜ人は自分のものを犠牲にしたり譲ったりするのか。贈与的ふるまいを純粋な贈与として貫徹することは不可能なのだろうか。贈ること、譲ること、犠牲にすること。アリストテレスからデリダまで、その倫理を読み解く。

2020/6./ 230p
978-4-06-519439-3
本体 ¥1,650+税



日本経済新聞 2020/08/01、東京・中日新聞 2020/08/09



歴史の教訓～「失敗の本質」と国家戦略～(新潮新書 862)

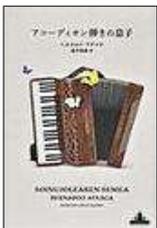
兼原 信克 著
新潮社

政治と軍事が国家最高レベルで統合されていない限り、日本は同じ過ちを繰り返すかもしれない。「官邸外交」の理論的主柱として知られた元外交官が、近代日本の来歴を独自の視点で振り返り、これからの国家戦略の全貌を示す。

2020/5./ 223p
978-4-10-610862-4
本体 ¥760+税



日本経済新聞 2020/08/01、読売新聞 2020/08/02



アコーディオン弾きの息子(CREST BOOKS)

ベルナルド・アチャガ 著
新潮社

懐かしく長閑な子ども時代、やがて訪れた政治と暴力の日々。歴史のうねりに飲み込まれ、故郷を失い記憶を封じた男は…。現代バスク語文学の「黄金時代」を明示する長篇小説。

2020/5./ 573p
978-4-10-590166-0
本体 ¥3,000+税



日本経済新聞 2020/08/01、読売新聞 2020/08/15



ノーホエア・マン

アレクサンダル・ヘモン、岩本 正恵 著
白水社

紛争から逃れ、祖国を離れた「ヨーゼフ・プローネク」。サラエヴォ、キエフ、シカゴ、上海…流浪の果て、魂を震わす終着とは？ ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ出身作家の処女長編。全米批評家協会賞最終候補作品。

2004/3./ 264p
978-4-560-04781-1
本体 ¥2,300+税



日本経済新聞 2020/08/08



貸本マンガ RETURNS

貸本マンガ史研究会 著
ポプラ社

かつて、子どもたちの生活に寄り添うように、貸本屋があった。そこでは、時代劇やミステリ、怪奇もの、少女マンガなど、さまざまな作品が生まれ、愛され、消えていった…。戦後と共に歩んだ貸本マンガの知られざる世界。

2006/3./ 335p
978-4-591-09191-3
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/08/08



全国貸本新聞 復刻版 全2巻 昭和32年9月〈第1号〉～昭和48年1月〈第64号〉

不二出版

全国貸本組合連合会により発行された『全国貸本新聞』の第1号から第123号までを復刻。解説や回想、年表ほか「新貸本開業の手引」も収録。「貸本」を取り巻く諸相、当時の読書状況の一面を伝える稀観資料。

2010/7.
978-4-8350-6460-4
本体 ¥20,000+税



日本経済新聞 2020/08/08

**戦後マンガ史ノート(精選復刻紀伊国屋新書)**

石子順造 著
紀伊国屋書店

カストリ雑誌、劇画、少年・少女マンガ等に表現された庶民像を昭和 20 年代、30 年代、40 年代に分けて、それぞれの時代の状況から考察する。巻末に戦後マンガ史年表付き。

1993:1./ 202p
978-4-314-00645-3
本体 ¥1,748+税



日本経済新聞 2020/08/08

**戦後マンガ 50 年史(ちくまライブラリー)**

竹内オサム 著
筑摩書房

大衆文化として今日隆盛を極めるマンガとは何か。ストーリーマンガが引き起こした事件を手がかりに、社会を通り過ぎたマンガの痕跡をもとに、その猥雑なバイタリティの秘密を探る。

1995:3./ 238p
978-4-480-05201-8
本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2020/08/08

**日本における新聞連載子ども漫画の戦前史**

徐 園 著
日本僑報社

著者が 3 年間にわたって調査・収集してきた日本の新聞連載子ども漫画についての研究成果。新聞連載子ども漫画の各時期ごとの社会背景と作品の特徴を分析するほか、様々な角度から新聞連載子ども漫画のあり方を立体的に捉える。

2013:3./ 10p,369p
978-4-86185-126-1
本体 ¥7,000+税



日本経済新聞 2020/08/08

**ジュリアとバズーカ**

アンナ・カヴァン、千葉 薫 著
文遊社

カヴァンが夢見る世界は、自分自身も含めた人間すべての消えた、清潔な世界だ。人間のいない世界-。表題作ほか「山の上新高」「失われたものの中で」などを収録した、アンナ・カヴァンの珠玉の短編集。

2013:5./ 289p
978-4-89257-083-4
本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2020/08/08

**氷(ちくま文庫 か 67-1)**

アンナ・カヴァン 著
筑摩書房

地球規模の気象変動により、氷が全世界を覆いつくそうとしていた。少女を追って某独裁国家に潜入した私は、絶対的な力で少女を支配する「長官」と対峙するが…。冷たい熱狂を引き起こした伝説的名作。

2015:3./ 274p
978-4-480-43250-6
本体 ¥900+税



日本経済新聞 2020/08/08

**21 世紀の長期停滞論～日本の「実感なき景気回復」を探る～(平凡社新書 863)**

福田 慎一 著
平凡社

アベノミクス以降、株価は高騰を続け、労働市場では人手不足が起きているが、賃金は伸び悩み、将来に対する不安は増す一方である。なぜ、不安は解消されないのか。その原因を探る。

2018:1./ 222p
978-4-582-85863-1
本体 ¥800+税



日本経済新聞 2020/08/08



平成の経済

小峰 隆夫 著

日本経済新聞出版社

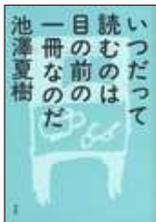
政策混迷が招いた熱狂・転落・苦闘…。経済白書でバブル崩壊を分析し、未曾有の事態に向き合い続けたエコノミストが、約 30 年にわたる平成の経済を振り返り、次代への教訓を論じる。

日本経済新聞 2020/08/08

2019:4./ 5p,312p

978-4-532-35801-3

本体 ¥1,800+税



いつだって読むのは一冊なのだ

池澤 夏樹 著

作品社

辣腕の書評家にして口達者な本のセールスマン・池澤夏樹が広大な読書の世界へ分け入り、2003年?2019年という時代の大きな変化の中で選び抜いた444冊を紹介。『週刊文春』掲載「私の読書日記」を単行本化。

日本経済新聞 2020/08/08

2019:12./ 697p

978-4-86182-787-7

本体 ¥3,200+税



グルーヴ!〜「心地よい」演奏の秘密〜

山田 陽一 編

堀米 ゆず子／鈴木 学／上野 真／池松 宏／岡田 全弘／池上 亘／吉田 将／矢部 達哉／下野 竜也／小曾根 真 著

春秋社

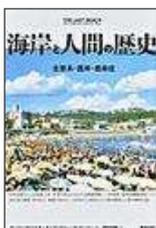
クラシック音楽に「グルーヴ」は存在するのか? 感動や快感を生み出す「心地よさ」の正体とは? 演奏の第一線で活躍する10人が、それぞれの言葉で自らの演奏や聴取体験の「グルーヴ/心地よさ」を語る。

日本経済新聞 2020/08/08

2020:5./ 4p,398p

978-4-393-93500-2

本体 ¥2,700+税



海岸と人間の歴史〜生態系・護岸・感染症〜

オーリン・H・ピルキー／J・アンドリュウ・G・クーパー 著

築地書館

砂採掘、海岸防護構造物、漂着ごみ、細菌汚染…。海岸地質学者である著者らが、世界の砂浜に見られる様々な環境問題を、背景や原因を含めてわかりやすく説明。このまま何もしなければ必ず訪れる厳しい浜の未来に警鐘を鳴らす。

日本経済新聞 2020/08/08

2020:6./ 322p

978-4-8067-1602-0

本体 ¥2,900+税



日本マンガ全史〜「鳥獣戯画」から「鬼滅の刃」まで〜 (平凡社新書 944)

澤村 修治 著

平凡社

草創期から現在に至る日本マンガの主要作家と、「のらくろ」「鉄腕アトム」から「進撃の巨人」「鬼滅の刃」まで、500点以上の作品を一挙紹介。日本マンガの歴史を「物語」として描き出す。

日本経済新聞 2020/08/08

2020:6./ 495p

978-4-582-85944-7

本体 ¥1,100+税





オリンピア～遺跡・祭典・競技～(ちくま学芸文庫 ム 10-1)

村川 堅太郎 著
筑摩書房

ゼウス神へ献ずる宗教儀礼=オリンピア祭はいかにして始まり、そこでの競技とはどのようなものであったのか。オリンピアの発掘史と遺跡の概要を述べ、興味深い逸話を交えつつ競技祭典の実像に迫る。

日本経済新聞 2020/08/08

2020/6./ 247p
978-4-480-09988-4
本体 ¥1,000+税



ポップス大作戦

武田 花 著
文藝春秋

この世に氾濫する色という色が、目に飛び込んでくる。モノクロ写真ばかり撮っていた私にとっては一大事。大作戦が始まったのだ。ポップな色彩はじけるフォト&エッセイ集。『別冊文藝春秋』連載を単行本化。

日本経済新聞 2020/08/08

2020/6./ 109p
978-4-16-391220-2
本体 ¥1,600+税



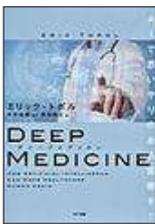
すべて名もなき未来

樋口 恭介 著
晶文社

今、単線的に仮構され選びとられた、唯一無二の確定的な時間構造の間にこぼれ落ちた、亡霊のように不可視の領域を漂う、別様のあり方を伴う、無数の失われた未来を求めて…。先鋭的 SF 作家・批評家による評論集。

日本経済新聞 2020/08/08

2020/5./ 312p
978-4-7949-7177-7
本体 ¥2,000+税



ディープメディスン～AIで思いやりのある医療を！～

エリック・トボル 著
NTT出版

AI を本格的に活用すれば、医療現場は深い思いやりに満ちた患者治療への情熱を再び共有できる。医療崩壊に立ち向かうために、人工知能の進歩と人工知能がもたらす医療の未来を紹介する。

日本経済新聞 2020/08/08

2020/5./ 12p,454p
978-4-7571-8302-5
本体 ¥3,600+税



歴史家と少女殺人事件～レティシアの物語～

イヴァン・ジャブロンカ 著
名古屋大学出版会

18歳の女性が誘拐・殺害された。大規模な捜査と政治の介入により、それはスキャンダラスな国家的事件となった。歴史家である作者は自ら調査を進め、被害者の生の物語を語り始める。そこから明らかになる「真実」とは…。

日本経済新聞 2020/08/08

2020/7./ 4p,388p,6p
978-4-8158-0993-5
本体 ¥3,600+税



トーキング・トゥ・ストレンジャーズ～「よく知らない人」について私たちが知っておくべきこと～

マルコム・グラッドウェル 著
光文社

「目は口ほどに…」 「話せばわかる」 「見た目が9割」は危険！ 多様な事例と鋭い洞察力によって、人間の性質に関する定説の誤りを暴き、「他者といかにつきあうか」という人間の根源的な営みに新しい光を当てる。

日本経済新聞 2020/08/08

2020/6./ 451p
978-4-334-96242-5
本体 ¥1,800+税





仮想通貨 vs.中央銀行～アフター・ビットコイン 2～

中島 真志 著
新潮社

デジタル通貨を巡る動きは、民間企業、民間銀行、中央銀行の3者が覇権を争ってしごを削る状態となった。どの主体が覇権を握っていくのか、それが経済活動や社会生活にどのような変化をもたらすのかを考察する。

日本経済新聞 2020/08/08

2020:6./ 282p
978-4-10-351282-0
本体 ¥1,600+税



* 9 7 8 4 1 0 3 5 1 2 8 2 0 *



漫画の歴史(岩波新書 新赤版 172)

清水 勲 著
岩波書店

本書は、1830年代にパリで創刊された新聞「カリカチュール」と、同時期に江戸で大評判となった『北斎漫画』から説き起こし、今日の隆盛に至る漫画文化の軌跡をたどる。諷刺画・戯画から劇画・コミックまで、豊富な図版も楽しめる一冊。

日本経済新聞 2020/08/08

1991:5./ 250p
978-4-00-430172-1
本体 ¥780+税



* 9 7 8 4 0 0 4 3 0 1 7 2 1 *



贖罪(新潮文庫 マ-28-5)

イアン・マキューアン 著
新潮社

まだ戦争が始まる前、地方の旧家で暮らしていた私にとって、世界は無限に開けていた。あの暑い夏の日が来るまでは。いくつかの誤解、取り返しつかぬ事件、戦争と欺瞞。無垢な少女が狂わせてしまった生を描く大河小説。

日本経済新聞 2020/08/08

2019:1./ 637p
978-4-10-215725-1
本体 ¥840+税



* 9 7 8 4 1 0 2 1 5 7 2 5 1 *



狂うひと～「死の棘」の妻・島尾ミホ～(新潮文庫 か-50-2)

梯 久美子 著
新潮社

島尾敏雄の私小説「死の棘」の愛人の正体は？ 本当に狂っていたのは妻か夫か？ 島尾夫妻それぞれの日記や手紙など膨大な資料によって、妻・ミホの生涯を辿り、戦後文学史に残る伝説的夫婦の真実に迫る。

日本経済新聞 2020/08/08

2019:9./ 905p
978-4-10-135282-4
本体 ¥1,100+税



* 9 7 8 4 1 0 1 3 5 2 8 2 4 *



長くつ下のピッピ～世界一強い女の子が、町にやってきた!～(10歳までに読みたい世界名作 27)

那須田 淳 編
リンドグレーン 著
学研プラス

小さな町のはずれにある“ごたごた荘”に、元気で、自由で、魅力がいっぱいの女の子ピッピが引っこしてきて…。スウェーデンの作家リンドグレーンが1945年に発表した物語。折り込みのお話図解「物語ナビ」付き。

日本経済新聞 2020/08/08

2020:7./ 153p
978-4-05-205179-1
本体 ¥880+税



* 9 7 8 4 0 5 2 0 5 1 7 9 1 *



文字世界で読む文明論～比較人類史七つの視点～(講談社現代新書 2578)

鈴木 董 著

講談社

科挙はなぜ中国内部の凝集力を高めたのか? 古代ローマと現代アメリカに共通する境界とは? 洋装はいかに非西欧世界に受容されたか? 古今東西の出来事を題材に、碩学が描く新しい文明史。

日本経済新聞 2020/08/08

2020/7./ 252p

978-4-06-520147-3

本体 ¥940+税



平成の経済政策はどう決められたか～アベノミクスの源流をさぐる～(中公選書 107)

土居 丈朗 著

中央公論新社

伊藤隆敏、岩田一政、大田弘子、竹中平蔵、吉川洋。小泉内閣以降、経済政策の立案に加わった5人の経済学者との対談を通じて得た現場での議論を踏まえ、第2次以降の安倍内閣の経済政策の核心に迫り、今後の課題をあぶり出す。

日本経済新聞 2020/08/08、朝日新聞 2020/08/16

2020/5./ 7p,352p

978-4-12-110107-5

本体 ¥1,800+税



日本のテレビ・ドキュメンタリー

丹羽 美之 著

東京大学出版会

ドキュメンタリー番組の制作者たちはどのように時代と格闘し、戦後日本を記録してきたか。テレビ史に残る数々の番組と、それを作り出してきた制作者たちの言葉を通して、日本のテレビ・ドキュメンタリーの大きな流れをたどる。

日本経済新聞 2020/08/08、朝日新聞 2020/08/29

2020/6./

12p,257p,10p

978-4-13-050201-6

本体 ¥3,000+税



目に見えない傷～ドメスティック・バイオレンスを知り、解決するために～

レイチェル・ルイーゼ・スナイダー 著

みすず書房

「なぜ逃げないのか」ではなく、どう支援するか。異なる価値観に基づく組織の連携をどうとるか。外からは見えにくいDVの実態を、被害者、加害者、支援組織、警察への取材から明らかにし、解決への道を探る。

日本経済新聞 2020/08/08、読売新聞 2020/08/15

2020/6./ 439p,15p

978-4-622-08896-7

本体 ¥4,500+税



インドネシア大虐殺～二つのクーデターと史上最大級の惨劇～(中公新書 2596)

倉沢 愛子 著

中央公論新社

1960年代後半、インドネシアで起こった2度のクーデター「九・三〇事件」「三・一一政変」。この一連の事件の裏で市民が巻き添えとなり、残虐な手口で殺戮された。謎多き大量殺戮の真相に、現地調査と最新資料から迫る。

日本経済新聞 2020/08/08、読売新聞 2020/08/30

2020/6./ 4p,222p

978-4-12-102596-8

本体 ¥820+税



百年と一日

柴崎 友香 著

筑摩書房

地下街にはたいい噴水が数多くあり、その地下の噴水広場は待ち合わせ場所で、何十年前も、数年後も、誰かが誰かを待っていた。人生と時間を描く新感覚物語集。『ちくま』連載に書き下ろしを加え書籍化。

日本経済新聞 2020/08/08、読売新聞 2020/08/30

2020/7./ 185p

978-4-480-81556-9

本体 ¥1,400+税





物語の役割(ちくまプリマー新書)

小川 洋子 著
筑摩書房

私たちは日々受け入れられない現実を、自分の心の形に合うように転換している。誰もが作り出し、必要としている「物語」の秘密を解き明かし、それを言葉で表現していくことの喜びを伝える。

日本経済新聞 2020/08/22

2007:2./ 126p
978-4-480-68753-1
本体 ¥760+税



格差の連鎖と若者<2> 出会いと結婚

石田 浩、石田 浩 編
石田 浩 著
勁草書房

未婚の男女は如何に出会い、どのように結婚へと至るのか。出会いや結婚を促進したり、阻害したりする要因はどのようなものなのか。こうした課題を主にパネル調査を利用して、実証的に分析する。

日本経済新聞 2020/08/22

2019:4./ 7p,236p
978-4-326-64883-2
本体 ¥2,800+税



夫婦幻想～子あり、子なし、子の成長後～(ちくま新書 1419)

奥田 祥子 著
筑摩書房

かつての理想の夫婦像はすでに「幻想」なのか。戦後家族モデル崩壊後の混沌状況における夫婦のあり方を、子どもを作るかどうかの選択、子の成長による変化などにも注目し、長期にわたる取材をベースにその実態に迫る。

日本経済新聞 2020/08/22

2019:7./ 282p
978-4-480-07238-2
本体 ¥880+税



貧困専業主婦(新潮選書)

周 燕飛 著
新潮社

月 100 円の PTA 会費も渋る…。勝ち組の象徴と思われていた専業主婦の 8 人に 1 人が貧困に直面している。なぜ彼女らは、自ら働かない道を選択をしているのか? 克明な調査をもとに研究者が分析した衝撃のレポート。

日本経済新聞 2020/08/22

2019:7./ 202p
978-4-10-603844-0
本体 ¥1,200+税



目に見えぬ侵略～中国のオーストラリア支配計画～

クライブ・ハミルトン 著
飛鳥新社

オーストラリアで中国という一党独裁国家の影響が拡大しつつある。オーストラリアにおける中国共産党の組織的な内政干渉工作と、海外プロパガンダ活動を実名告発し、中国が狙うコロナ後の世界制覇の手口を暴露する禁断の書。

日本経済新聞 2020/08/22

2020:6./ 426p
978-4-86410-747-1
本体 ¥1,900+税



あえて数字からおりにる働き方～個人がつながる時代の生存戦略～

尾原 和啓 著
SBクリエイティブ

名刺や肩書なしで食べていく変化の時代に、ゆるがない武器を手に入れるには。「ギブを仕事の基本にする」「オンラインで自然につながりをつくる」など、どんな場所でも自分を活かす方法を伝授する。前田裕二との対談も収録。

日本経済新聞 2020/08/22

2020:7./ 287p
978-4-8156-0537-7
本体 ¥1,500+税





カール・シュミット～ナチスと例外状況の政治学～(中公新書 2597)

蔭山 宏 著
中央公論新社

稀代の思想家か、批判すべきナチのイデオログか。毀誉褒貶相半ばするドイツの政治学者カール・シュミット。「政治神学」から「大地のノモス」まで主要著作を読み解きつつ、70年に及ぶ思索の変遷を辿る。

2020/6./ 4p,270p
978-4-12-102597-5
本体 ¥860+税



日本経済新聞 2020/08/22



令和の巨人軍(新潮新書 865)

中溝 康隆 著
新潮社

61歳で“悪役”として戻ってきた原辰徳、史上最高の遊撃手・坂本勇人、待望の生え抜き4番・岡本和真...今も役者は揃っている! 当代一のウォッチャーが、アップデートされた巨人軍の魅力を徹底解説する。

2020/6./ 206p
978-4-10-610865-5
本体 ¥740+税



日本経済新聞 2020/08/22



グローバル経済統合と地域集積～循環、成長、格差のメカニズム～

高阪 章 著
日本経済新聞出版社

何が一国の成長と発展をもたらすのか。金融統合と景気循環、貿易統合下の生産性成長と発展戦略、地域集積と格差を分析し、主流派経済政策論の通説を覆し、グローバル化の真実を解き明かす。

2020/6./ 334p
978-4-532-13504-1
本体 ¥4,800+税



日本経済新聞 2020/08/22



雪国を江戸で読む～近世出版文化と『北越雪譜』～

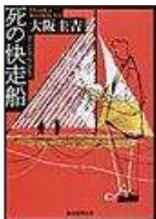
森山 武 著
東京堂出版

越後塩沢からの持ち込み企画が、江戸で全7巻の本になるまでの一部始終を再現! 雪深い越後の生活を記録した「北越雪譜」の刊行を巡って、江戸の有名作家たちとの交流や当時の出版文化が垣間見える秀作。

2020/6./ 399p
978-4-490-21032-3
本体 ¥3,600+税



日本経済新聞 2020/08/22



死の快走船(創元推理文庫 M お 2-3)

大阪 圭吉 著
東京創元社

美しい光景を乱すように、海上を漂うヨットからは無惨な死体が発見され...。本格推理の表題作をはじめ、「水族館異変」「ちくてん奇談」など、多彩な作風が窺える15の作品を収録した傑作選。

2020/8./ 433p
978-4-488-43703-9
本体 ¥960+税



日本経済新聞 2020/08/22



邪悪に堕ちたGAFA～ビッグテックは素晴らしい理念と私たちに裏切った～

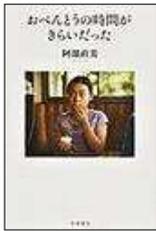
ラナ・フォルーハー 著
日経BP社

グーグル、フェイスブック、アマゾン、アップルは、いかにして巨大化し、膨大な力を得たのか。その弊害は、「ビッグテックの闇」から次世代のイノベーターたちが活躍できる「明るい未来」を取り戻すための解決策を解き明かす。

2020/7./ 496p
978-4-8222-8878-5
本体 ¥2,100+税



日本経済新聞 2020/08/22



おべんとうの時間がきらいだった

阿部 直美 著
岩波書店

家族なんてくそくらえ、湿っぽいお弁当なんて開けたくない…。お弁当ハンター・阿部了との夫婦コンビで、文を担当する著者が ANA 機内誌『翼の王国』の人気連載「おべんとうの時間」が誕生するまでの家族の軌跡をたどる。

2020/6/ 6p,230p
978-4-00-061408-5
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2020/08/22



離婚の経済学～愛と別れの論理～(講談社現代新書 2570)

橋木 俊詔／迫田 さやか 著
講談社

年間 21 万件、離婚率 1.68%。離婚がなぜこれほどまでに増加したかを明らかにし、かつ離婚したことで生じる生活の変化、母子家庭の貧困、離婚と所得の関係、心の問題について論じる。

2020/4/ 235p
978-4-06-519151-4
本体 ¥900+税



日本経済新聞 2020/08/22



イスラームからヨーロッパをみる～社会の深層で何が起きているのか～(岩波新書 新赤版 1839)

内藤 正典 著
岩波書店

ヨーロッパとイスラームの共生は、なぜうまくいかないのか? シリア戦争と難民、トルコの存在、女性の被り物論争など、過去 20 年間に起きたことを、著者 40 年のフィールドワークをもとに、イスラームの視座から読み解く。

2020/7/ 9p,266p,4p
978-4-00-431839-2
本体 ¥900+税



日本経済新聞 2020/08/22



道行きや～Hey, you bastards! I'm still here!～

伊藤 比呂美 著
新潮社

父母を見送り、夫を看取り、娘と離れて日本へ。故郷熊本と学生の待つ早稲田を行ったりきたり…。人生いろいろ不可解不思議な日常を書き綴る。『波』『群像』掲載を加筆改稿し、書下ろしを加えて書籍化。

2020/4/ 221p
978-4-10-432403-3
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/08/22



俳優と戦争と活字と(ちくま文庫 は 49-2)

濱田 研吾 著
筑摩書房

昭和の映画・舞台・テレビで活躍したスター、名優たち。その華やかな姿の裏に隠された戦争体験とは? 中国大陸での戦闘、特攻隊、慰問団、疎開、引揚げ、シベリア抑留などを、活字で残された資料をもとに描き出す。

2020/7/ 468p,11p
978-4-480-43683-2
本体 ¥1,100+税



日本経済新聞 2020/08/22、産経新聞 2020/08/23



「世界文学」はつくられる～1827-2020～

秋草 俊一郎 著
東京大学出版会

数千万の読者をほこった「世界文学全集」はなぜ消滅したのか。出版・翻訳・冷戦・教育といったキーワードを軸に、日本・アメリカ・ソヴィエトの「世界文学」の創造と終焉、そして再生を論じる。

2020/7/ 7p,383p,21p
978-4-13-080108-9
本体 ¥4,900+税



日本経済新聞 2020/08/22、読売新聞 2020/08/30



国際関係から学ぶゲーム理論～国際協力を実現するために～

岡田 章 著
有斐閣

国際紛争や国際協力の多くの題材を用いてゲーム理論を学習するための入門書。初学者向けに基本概念と例の説明を多くする。国際協力に関わるさまざまな人間・国家の行動と社会現象のメカニズムを、ゲーム理論から解き明かす。

2020/4./ 6p,224p
978-4-641-16564-9
本体 ¥2,300+税



日本経済新聞 2020/08/29



文明が不幸をもたらす～病んだ社会の起源～

クリストファー・ライアン 著
河出書房新社

「進歩」は、有史以前にはない暴力や病理に満ちた不健全な世界を生み出した。農耕と定住の開始から現代にいたるまでの社会の歪みを、人類学・心理学・社会学・医学などの最新成果で分析し、未来に進むべき道を提示する。

2020/6./ 291p
978-4-309-22807-5
本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2020/08/29



金融不安定化原理～イノベーションの震と深化の構造分析～

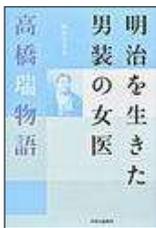
大村 敬一 著
日本経済新聞出版社

金融システムが孕む不安定性とモラルハザードを歴史・理論・実態を踏まえて解き明かした書。金融イノベーションを軸に金融機能の歩みを解説し、ペイルイン債や毎月分配型投信等の歪んだ設計を解明。ファイナンスの未来を問う。

2020/6./ 11p,442p
978-4-532-13503-4
本体 ¥4,500+税



日本経済新聞 2020/08/29



明治を生きた男装の女医～高橋瑞物語～

田中 ひかる 著
中央公論新社

女性が医師免許の試験を受けられなかった明治時代。その門戸をこじ開け、無償で妊産婦の命を救った女医がいた。苦難を乗り越えて、ドイツ留学も果たした高橋瑞の生涯を描く。

2020/7./ 230p
978-4-12-005320-7
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/08/29



お酒の経済学～日本酒のグローバル化からサワーの躍進まで～(中公新書 2599)

都留 康 著
中央公論新社

国内消費が減少する日本の酒類。一方、高級日本酒やウイスキーが製品差別化により国内需要を回復させており、海外からも高く評価され輸出も急増している。その課題と可能性を、経済学と経営学の最新の研究成果から解き明かす。

2020/7./ 5p,198p
978-4-12-102599-9
本体 ¥820+税



日本経済新聞 2020/08/29



戦後日本、記憶の力学～「継承という断絶」と無難さの政治学～

福間 良明 著
作品社

私たちが向きあうべき戦争の記憶とは何か。霊園・戦跡・モニュメント・新聞・映画・小説・手記など、さまざまなメディアをとおして、戦争記憶の「継承という断絶」が生み出される社会背景やメカニズムを解明する。

2020/7./ 333p,7p
978-4-86182-814-0
本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2020/08/29



英国レシピと暮らしの文化史～家庭医学、科学、日常生活の知恵～

エレイン・レオン 著
原書房

17世紀、英国の上流家庭の紳士淑女はレシピ作りに熱狂した。料理にとどまらず、その範囲は醸造法から食料貯蔵、園芸、家庭薬の開発、医術や科学実験にまで及ぶ。膨大な量の手稿と書籍のレシピから、人々の暮らしを読み解く。

2020/7./ 264p,46p
978-4-562-05778-8
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2020/08/29



特攻の思想～大西瀧治郎伝～(文春学芸ライブラリー 思想 22)

草柳 大蔵 著
文藝春秋

特攻の創始者という汚名を一身に引受け、一言の弁明なしに自刃した大西瀧治郎海軍中將。彼は「統率の外道」と自ら呼んだ特攻作戦を、なぜ、どのように決定したのか。特攻を「送った側の論理」に肉迫する。

2020/8./ 313p
978-4-16-813088-5
本体 ¥1,300+税



日本経済新聞 2020/08/29



ヒロシマ～グローバルな記憶文化の形成～

ラン・ツヴァイゲンバーグ 著
名古屋大学出版会

どのようにして、「75年は草木も生えない」と言われた都市は復興し、平和記念公園は「穏やかな」聖地と化したのか。追悼・記念や観光をめぐる記憶の政治、犠牲者言説などに注目し、世界のなかのヒロシマの位置を問い直す。

2020/7./ 6p,333p,83p
978-4-8158-0994-2
本体 ¥4,800+税



日本経済新聞 2020/08/29



性からよむ江戸時代～生活の現場から～(岩波新書 新赤版 1844)

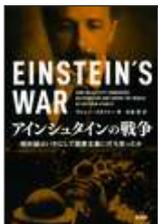
沢山 美果子 著
岩波書店

生まれた子は自分の子ではないと言い張る夫と妻の争い、難産に立ち合った医者 of 診療記録にみる妊婦の声…。史料の丹念な読み込みから、江戸時代に生きた女と男の性の日常と、その背後にある「家」意識、藩や幕府の政策に迫る。

2020/8./ 8p,190p
978-4-00-431844-6
本体 ¥820+税



日本経済新聞 2020/08/29



アインシュタインの戦争～相対論はいかにして国家主義に打ち克ったか～

マシュー・スタンレー 著
新潮社

第一次大戦下、相対論完成を目指すアインシュタインに立ちはだかった試練-平和主義者の弾圧、妻との確執、食糧難、そして協力者たちとの分断。憎しみあう大国のはざままで揺れ動いた科学者たちの群像。

2020/7./ 463p,9p
978-4-10-507161-5
本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2020/08/29



焼きそばうだ(集英社文庫 さ 24-20)

さくら ももこ 著
集英社

ひよんなことから植田さんのために、バリでヤキソバ屋を始めることに!? バリへ向かった著者を始めとする「男子の会」のメンバーが、焼きそばの研究や物件交渉など数々の難題に立ち向かい…。ジョーダンみたいな本当の話。

2019/6./ 214p
978-4-08-745892-3
本体 ¥520+税



日本経済新聞 2020/08/29



サルデーニャの蜜蜂

内田 洋子 著
小学館

古代ローマから続く養蜂家一族を描く表題作、ルネサンス時代から続く港町でペストの時代の感染との戦いに思いを馳せる「リヴォルノの幻」など、イタリアの日常に潜む美しいものを描く15編。『本の窓』連載を単行本化。

日本経済新聞 2020/08/29

2020.6./ 253p
978-4-09-388774-8
本体 ¥1,700+税



絵本まるコジ<3> ちびまる子ちゃんとコジコジのおさんぽ

さくら ももこ 著
集英社

ちびまる子ちゃんとコジコジの絵本。「あおむしさんのゆめのまき」「手紙を読んで大ぼうけんのまき」など、さくらももこが美しい色彩でえがいた、心あたたまる6つのおはなしを収録する。まるコジまめちしきも掲載。

日本経済新聞 2020/08/29

2020.3./ 63p
978-4-08-299025-1
本体 ¥1,600+税



生き抜くための12のルール〜人生というカオスのための解毒剤〜

ジョーダン・ピーターソン 著
朝日新聞出版

「助けるべき他者」として自分自身を扱う、自分の最善を願う人と友達になる、世界を批判する前に家のなかの秩序を正す…。残酷なこの世界をタフに生き抜くために知っておくべき人生のルールを伝える。

日本経済新聞 2020/08/29

2020.7./ 467p,15p
978-4-02-251692-3
本体 ¥2,700+税



もう一つ上の日本史〜『日本国紀』読書ノート〜<古代?近世篇>

浮世 博史 著
幻戯書房

「社会科学としての歴史学」とは何か。教科書の記述はなぜ変わるのか。現在の書籍やウェブ上に蔓延する日本史俗説を豊富な資料で徹底解説。著者のブログ全227回分を加筆し書籍化。古代?近世篇は第1?102回を収録。

毎日新聞 2020/08/01

2020.2./ 432p
978-4-86488-191-3
本体 ¥2,400+税



もう一つ上の日本史〜『日本国紀』読書ノート〜<近代?現代篇>

浮世 博史 著
幻戯書房

「社会科学としての歴史学」とは何か。教科書の記述はなぜ変わるのか。現在の書籍やウェブ上に蔓延する日本史俗説を豊富な資料で徹底解説。著者のブログ全227回分を加筆し書籍化。近代?現代篇は第103?227回を収録。

毎日新聞 2020/08/01

2020.3./ 505p
978-4-86488-192-0
本体 ¥2,400+税



100文字SF(ハヤカワ文庫 JA 1431)

北野 勇作 著
早川書房

火星を目印にすれば複雑な路地を抜けて簡単に帰宅できると聞いてずっとそうしてきたのに、火星だとばかり思っていたあの赤い星が火星ではなく…。ほぼ100文字のSF小説200篇を収録。ツイッターで発表した作品を文庫化。

毎日新聞 2020/08/01

2020.6./ 204p
978-4-15-031431-6
本体 ¥580+税





佐藤鬼房俳句集成<第1巻> 全句集

高野 ムツオ 編
佐藤 鬼房 著
朔出版

辺境にありながら、辺境を超える普通の詩を生涯求め続けた俳人、佐藤鬼房の俳句を集成。第1巻は、第1句集「名もなき日夜」から第14句集「幻夢」までの既刊句集全14冊、5230句を完全収録する。

2020/3./ 665p
978-4-908978-34-0
本体 ¥13,000+税



毎日新聞 2020/08/01



心を病んだらいけないの? ~うつ病社会の処方箋~ (新潮選書)

斎藤 環、與那覇 潤 著
新潮社

友達っていないといけないの? 家族ってそんなに大事なの? 夢をあきらめたら負け組なの? 「ひきこもり」を専門とする精神科医と、重度の「うつ」をくり抜けた歴史学者が語り合い、「生きづらさ」を解きほぐす。

2020/5./ 297p
978-4-10-603855-6
本体 ¥1,450+税



毎日新聞 2020/08/01



さよなら、俺たち

清田 隆之 著
スタンド・ブックス

失恋、恋バナ収集の現場で見聞きしたエピソード、友人知人との語らい、ニュースや社会問題、コロナ離婚…。様々なテーマに根づく男性問題を掘り下げる、本格的ジェンダー・エッセイ集。『すばる』ほか掲載を書籍化。

2020/7./ 301p
978-4-909048-08-0
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/08/01



精神保健医療のゆくえ~制度とその周辺~

岡崎伸郎 著
日本評論社

過剰診断の誘惑と際限なき医療化に歯止めをかけられるのか? 精神保健福祉法から医療観察法、入院形態と身体拘束、さらには精神科の薬まで歴史的経緯や構造的な問題に触れながら、鋭く論じる。

2020/7./ 3p,234p
978-4-535-98495-0
本体 ¥3,800+税



毎日新聞 2020/08/01



白い瑞鳥記

大田慎也 著
弦書房

半世紀以上におよぶバードウォッチングで出会った白変した野鳥たち。白鳥、白雀、白燕、白鴨など、白化・白変した有色の鳥たちの知られざるサバイバルの生態に迫る。写真も豊富に掲載。

2020/7./ 151p
978-4-86329-209-3
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2020/08/01



はなのすきなうし(岩波の子どもの本)

マンロー・リーフ 著
岩波書店

毎日新聞 2020/08/01

1980/1.
978-4-00-115111-4
本体 ¥800+税





相模原障害者殺傷事件(朝日新書 あ 60-4)

朝日新聞取材班 著
朝日新聞出版

神奈川県相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件をめぐる、2020年1?3月に行われた裁判員裁判について『朝日新聞』掲載記事をもとに書籍化。事件が投げかける“差別の深層”に迫る。「妄信」の続編。

2020:7./ 373p
978-4-02-262011-8
本体 ¥760+税



毎日新聞 2020/08/01



ラグビー日本代表 ONE TEAM の軌跡～あの感動と勇気が甦ってくる～

藤井 雄一郎／藪木 宏之／伊藤 芳明 著
講談社

史上初のベスト8入りを果たした、ラグビー日本代表チームはいかにして作られたか。ラグビーワールドカップ 2019 における日本代表の活躍とその舞台裏を紹介する。いまだから明かせる汗と涙のインサイドストーリー。

2020:7./ 237p
978-4-06-520827-4
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/08/01



女だてら

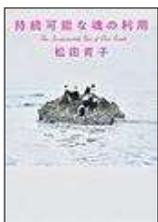
諸田 玲子 著
KADOKAWA

漢詩人・原古処の娘、みちは、亡き父と病身の兄から託された密命のため、若侍に姿を変え、江戸へと向かう…。実在した漢詩人・原采蘋の数奇な半生と秋月黒田家お家騒動の内幕を描く。『小説野性時代』連載を加筆修正。

2020:7./ 418p
978-4-04-109422-8
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2020/08/01、東京・中日新聞 2020/08/23



持続可能な魂の利用

松田 青子 著
中央公論新社

無職になった30代の敬子は、男社会の闇を味わうも、心は裏腹に男が演出する女性アイドルにはまってしまう。敬子は思いがけずこの国の“地獄”を変える“賭け”に挑むことに。『アンデル 小さな文芸誌』他連載を単行本化。

2020:5./ 240p
978-4-12-005306-1
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/08/01、読売新聞 2020/08/15



日本の戦争映画(文春新書 1272)

春日 太一 著
文藝春秋

戦後、日本映画はいかに戦争を見つめてきたか。元特攻隊の脚本家、学徒兵だったプロデューサー、戦地から生還した映画監督…。彼らが映画に込めた想いを追いつつ、喜劇、特撮、青春など多種多様な戦争映画の魅力を語り尽くす。

2020:7./ 278p
978-4-16-661272-7
本体 ¥880+税



毎日新聞 2020/08/01、読売新聞 2020/08/15



翻訳の授業～東京大学最終講義～(朝日新書 768)

山本史郎 著
朝日新聞出版

「翻訳の常識」を破壊し、「英語とは?翻訳とは?」という疑問を論理的に掘り下げた、東京大学名誉教授・山本史郎の翻訳研究 40年の集大成。ディケンズから村上春樹まで、AIにはけっして真似できない深い思索の冒険に誘う。

2020:6./ 203p
978-4-02-295068-0
本体 ¥790+税



毎日新聞 2020/08/01、毎日新聞 2020/08/15



スパイはいまも謀略の地に(Hayakawa Novels)

ジョン・ル・カレ 著
早川書房

イギリス秘密情報部のベテラン情報部員ナットは、引退の時期が迫るも、対ロシア活動部署の再建を任される。そこでロシアの大物スパイの活動をつかみ…。EU 離脱に揺れるイギリスを舞台に、練達のスパイの信念と誇りを描く。

2020/7./ 350p
978-4-15-209953-2
本体 ¥2,300+税



毎日新聞 2020/08/02



二重拘束のアリア～賞金稼ぎスリーサム!～

川瀬 七緒 著
小学館

国際指名手配のテロリストを追い詰め、ルワンダ政府から1億円の報奨金を手に入れた藪下、淳太郎、一花は、日本初の刑事事件専門調査会社を立ち上げた。早速扉を叩いたのは、3年半前に起きた「夫婦相討ち事件」の遺族で…。

2020/8./ 347p
978-4-09-386585-2
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/08/02



ぜんぶ本の話

池澤夏樹／池澤春菜 著
毎日新聞出版

E・ケストナー「エーミールと探偵たち」、サンテグジュペリ「星の王子さま」、福永武彦「死の島」…。ページをめくれば溢れだす、しあわせな時間と家族の思い出。文学者の父と声優の娘が「読書のよここび」を語りつくす。

2020/6./ 223p
978-4-620-32634-4
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/08/03、毎日新聞 2020/08/08



16世紀後半から19世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における<朱子学>遷移の諸相

片岡 龍 著
春風社

16世紀後半から19世紀はじめまでの朝鮮半島・日本列島・琉球諸島における<朱子学>の遷移過程と、李退溪・伊藤仁斎ら個々の学者たちの多様な思想的営みを考察する。

2020/3./ 309p
978-4-86110-681-1
本体 ¥5,400+税



毎日新聞 2020/08/08



未来のプルドン～資本主義もマルクス主義も超えて～

的場 昭弘 著
亜紀書房

社会と市民に不平等を招く「垂直的権力構造」の解体を掲げたプルドン主義。資本主義の行き詰まりを打破する思想として、大いなる実践家でもあったプルドンの柔軟な思考と取り組みに光をあてる。

2020/5./ 239p
978-4-7505-1644-8
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2020/08/08



日本小説批評の起源

渡部 直己 著
河出書房新社

小説批評の源流を求めて馬琴から「水滸伝」の注釈者・金聖嘆の「漢文」へと遡行しつつ、「源氏物語」「古事記」の宣長より逍遙、小林秀雄へといたる「和声」の系譜を切り崩し、日本の批評/文学史を根底から解体・再構成する。

2020/6./ 288p
978-4-309-02888-0
本体 ¥3,400+税



毎日新聞 2020/08/08



不条理を生きるチカラ～コロナ禍が気づかせた幻想の社会～

佐藤優／香山リカ 著
ビジネス社

「コロナ禍」という不条理をのりこえるために、自分でできることは。なぜ不条理が不条理のままに放置されるのか。メディアと社会、カルト、スピリチュアル、言語と身体などの「不条理」を、闘う思想家と精神科医が読み解く。

2020/6./ 317p
978-4-8284-1976-3
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/08/08



異聞風土記～1975-2017～

尹 雄大 著
晶文社

神戸・京都・大阪、東京を経由して、福岡・鹿児島、そして宮古島へ。インタビュアー＆ライターの尹雄大が、高度成長からバブル崩壊、2つの震災を経た流転の日々を、土地と人々の記憶から紡ぎ出す。

2020/6./ 212p
978-4-7949-7182-1
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/08/08



教師の悩み(ワニブックス|PLUS|新書 296)

諸富 祥彦 著
ワニブックス

保護者との関係、心の保ち方、先生同士の人間関係、学級の荒れ…。長年「教師の悩み相談」を専門とするカウンセラーとして活動してきた著者が、多くの先生たちが抱える悩みとその解決策を紹介する。

2020/6./ 246p
978-4-8470-6641-2
本体 ¥850+税



毎日新聞 2020/08/08



歴史学の慰め～アンナ・コムネナの生涯と作品～

井上 浩一 著
白水社

歴史学はなんのためにあるのか。歴史が男の学問とされていた時代に、ビザンツ帝国中興の祖である父アレクシオス一世の治世を記した皇女アンナ・コムネナの生涯をたどり、その著作を分析する。

2020/7./ 322p,7p
978-4-560-09776-2
本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2020/08/08



京大的文化事典～自由とカオスの生態系～

杉本 恭子 著
フィルムアート社

折田先生像、西部講堂、吉田寮…。京都大学の面白い空間や一風変わった風習を「京大的文化」と呼び、きまじめに探求した結果を事典風にまとめる。森見登美彦インタビュー、尾池和夫(元京都大学総長)特別寄稿も掲載。

2020/6./ 318p
978-4-8459-1823-2
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/08/08



早寝早起き(俳句とエッセー)

坪内 稔典 著
創風社出版

寒晴れが捻ったみたいあの入り江 おぼろおぼろ七十代が連れだって ゆであげるカリフラワーの鬱憤を 俳句関係の雑誌や『日本経済新聞』などに掲載された俳句とエッセー、書き下ろしの「わたしの十句」を収録する。

2020/7./ 169p
978-4-86037-292-7
本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2020/08/08



ツバメ号とアマゾン号〜ランサム・サーガ 1〜<上>(岩波少年文庫 170)

アーサー・ランサム 著

岩波書店

湖の探検、アマゾン海賊との対決…。ウォーカー家の4人きょうだいは、小さな帆船ツバメ号に乗って、無人島で過ごす。夏休みの楽しい冒険物語。ランサム・サーガ・シリーズ。

2010:7./ 340p

978-4-00-114170-2

本体 ¥760+税



毎日新聞 2020/08/08



動物会議(大型絵本)

エーリヒ・ケストナー、イエラ・レープマン、ヴァルター・トリアー 著

岩波書店

戦争や食糧危機などで、真っ先に犠牲になるのが子どもたち。不幸な子どもたちを出さないために、世界中の動物たちが国際会議を開催し…。地球からあらゆる紛争をなくそうという願いをこめた絵本。再刊。

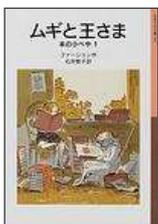
1999:11./ 87p

978-4-00-110854-5

本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2020/08/08



ムギと王さま(岩波少年文庫 82)

ファージョン 著

岩波書店

幼い日々、古い小部屋で読みふけた本の思い出?。それは作者に幻想豊かな現代のおとぎ話を生みださせる母胎となった。表題作ほか「レモン色の子犬」「小さな仕立屋さん」「七ばんめの王女」など14編を収める。

2001:5./ 283p

978-4-00-114082-8

本体 ¥720+税



毎日新聞 2020/08/08



クオリアと人工意識(講談社現代新書 2576)

茂木 健一郎 著

講談社

「意識」はコピーできるか? 人工知能に「意識」は生まれるか? 茂木健一郎が、自身のメインテーマである「意識」と「クオリア」について論じる。人工知能の研究に関連して、押さえておくべき流れ、重要な考え方にも触れる。

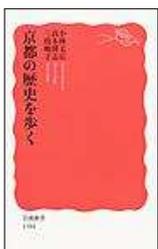
2020:7./ 381p

978-4-06-520066-7

本体 ¥1,200+税



毎日新聞 2020/08/08



京都の歴史を歩く(岩波新書 新赤版 1584)

小林 丈広、高木 博志、三枝 暁子 著

岩波書店

町家の風景がひっそりと姿を消す一方、雅な「古都」のイメージが流布する。これが、京都なのだろうか…。15の「道」と「場」をめぐる、本当の京都に出会う小さな旅へ。かつて都に生きた人びとの暮らしと営みに思いをはせる。

2016:1./ 6p,313p,10p

978-4-00-431584-1

本体 ¥940+税



毎日新聞 2020/08/08



夜は短し歩けよ乙女(角川文庫)

森見 登美彦 著

角川書店

「黒髪の乙女」にひそかに想いを寄せる「先輩」は、京都のいたるところで彼女の姿を追い求めた。二人を待ち受ける珍事件の数々、そして運命の大転回とは?山本周五郎賞受賞、本屋大賞2位の傑作、待望の文庫化!

2008:12./ 320p

978-4-04-387802-4

本体 ¥560+税



毎日新聞 2020/08/08



あれから～ルワンダ ジェノサイドから生まれて～

ジョナサン・トーゴヴニク、竹内 万里子 著

赤々舎

ジェノサイド(集団殺害)で性的暴力にあった女性たちと、そこから生まれた子どもたちを描いた「ルワンダ ジェノサイドから生まれて」の続編。再び彼らのもとを訪れた著者が、インタビューと写真で親子が生きる現実を伝える。

2020/6./ 179p

978-4-86541-115-7

本体 ¥3,500+税



毎日新聞 2020/08/08、東京・中日新聞 2020/08/30



史記<7> 思想の命運(徳間文庫)

司馬 遷 著

徳間書店

毎日新聞 2020/08/15

2006/4./ 451p

978-4-19-892411-9

本体 ¥1,143+税



趙紫陽極秘回想録～天安門事件「大弾圧」の舞台裏!～

趙 紫陽、バオ プー、ルネー・チアン、アディ・イグナシアス、河野 純治 著

光文社

民主化運動を支持し、権力闘争に敗れて追放された趙紫陽は、その渦中で何を見、何を考え、どう行動したのか?軟禁状態のままこの世を去った“国家の囚人”の、幽閉16年の肉声。

2010/1./ 477p

978-4-334-96210-4

本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2020/08/15



実存主義とは何か 増補新装版

ジャン・ポール・サルトル 著

人文書院

実存主義への非難に応えた講演と、これに関する討論からなる本書は、実存主義の本質を伝え、その思想がヒューマニズムに直結することを明快に説く。初期作品を増補した、サルトル哲学理解への新たなアプローチとなる書。

1996/1./ 178p

978-4-409-03042-4

本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2020/08/15



すれちがうとき聴いた歌

柘野 浩一、會本 久美子 著

リトル・モア

じゃあまたいつかと言ったままのあの、道でよく見かけるけど知りあうこともないあの人…。「ネット短歌ブーム」の立役者が自らの短歌を題材にして生み出した、大人のためのショートストーリー集。『本とも』連載を単行本化。

2011/10./ 150p

978-4-89815-320-8

本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2020/08/15



毛沢東大躍進秘録

楊 継縄、伊藤 正、田口 佐紀子、多田 麻美 著

文藝春秋

生産から消費・生活までの公有化をめざした、「大躍進」と呼ばれる壮大なる実験は3600万人の餓死者を出した。毛沢東はなぜ大失政を犯したのか。新華社元記者が中国各省の秘密公文書館を渉猟し、共産中国最大の悲劇を描く。

2012/3./ 591p

978-4-16-374860-3

本体 ¥2,950+税



毎日新聞 2020/08/15



文明の海洋史観(中公文庫 か 58-2)

川勝 平太 著
中央公論新社

近代はアジアの海から誕生した。農業社会から工業社会への移行という「陸地史観」の常識に挑戦し、海洋アジアを近代の発生源とする「海洋史観」を提唱。太平洋文明の時代に日本の進むべき道を提示する。

2016.11./ 356p
978-4-12-206321-1
本体 ¥920+税



毎日新聞 2020/08/15



こころの相続(SB新書 510)

五木 寛之 著
SBクリエイティブ

親や社会から何を相続してきたか。子ども世代に何を相続させられるか。人との挨拶の仕方、お礼の言い方、口癖など、お金や土地ではない、無形の「こころの相続」について語る。2019年に行ったインタビューをもとに書籍化。

2020.7./ 204p
978-4-8156-0401-1
本体 ¥860+税



毎日新聞 2020/08/15



イスラエル諜報機関暗殺作戦全史<上>

ロネン・バーグマン 著
早川書房

技術大国の軍事能力がゲリラ戦という異質な手段と融合して生まれた暗殺機構。イスラエルの情報機関の工作員、指導者、活動手段、作戦審議、成功、失敗、および倫理的代償について、その実情を描き出す。

2020.6./ 542p
978-4-15-209943-3
本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2020/08/15



イスラエル諜報機関暗殺作戦全史<下>

ロネン・バーグマン 著
早川書房

ほぼすべての暗殺作戦には、その時々イスラエル首相による政治決定がある。イスラエルの情報機関の工作員、指導者、活動手段、作戦審議、成功、失敗、および倫理的代償について、その実情を描き出す。

2020.6./ 478p
978-4-15-209944-0
本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2020/08/15



アジア経済はどう変わったか~アジア開発銀行総裁日記~

中尾 武彦 著
中央公論新社

21世紀は本当に「アジアの世紀」となるか。元アジア開発銀行(ADB)総裁が、円高、円安に揺れた財務官時代から、革新的な資金拡充策等に取り組んだADB総裁時代を振り返り、世界経済のなかのアジアを見据える。

2020.6./ 7p,389p
978-4-12-005318-4
本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2020/08/15



シリア獄中獄外

ヤシーン・ハージュ・サーレハ 著
みすず書房

半世紀にわたって存続する「アサドのシリア」。国際的に支えられた独裁国家にあって監獄は「国民的経験」と化している。シリアの代表的知識人が自らの監獄経験、出獄後の元政治囚の生活、獄外情勢をめぐって綴った政治的省察。

2020.6./ 261p
978-4-622-08911-7
本体 ¥3,600+税



毎日新聞 2020/08/15



日本蒙昧前史

磯崎 憲一郎 著
文藝春秋

大阪万博、三島由紀夫の自決、五つ子ちゃん誕生、ロッキード事件、グリコ・森永事件...。語り手を自在に換えつつ狂騒と蒙昧の戦後を彩った様々な事件とその陰にある無数の生を描き出す長篇。『文學界』掲載を単行本化。

2020/6./ 245p
978-4-16-391227-1
本体 ¥2,100+税



毎日新聞 2020/08/15



大阪弁おもしろ草子(中公文庫 た 28-20)

田辺 聖子 著
中央公論新社

大阪弁の精神には不変の表情がある。「そこそこやな」「ぼつぼついこか」...。キャリアを積んだオトナの口からこんな言葉がこぼれるとき、大阪弁はより生彩を帯び、迫力を増す。味わい深い大阪弁を通して、上方文化を考察する。

2020/7./ 249p
978-4-12-206907-7
本体 ¥800+税



毎日新聞 2020/08/15



コロナ危機の経済学～提言と分析～

小林 慶一郎／森川 正之 著
日本経済新聞出版社

大恐慌以来ともいわれる経済ショック「コロナ危機」。どうすれば感染拡大を抑制しつつ、経済活動を維持できるのか？ 最適な政策とは？ 気鋭の経済学者たちがコロナ禍の実態を解明し、ポスト・コロナの経済・社会を展望する。

2020/7./ 379p
978-4-532-35861-7
本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2020/08/15



歴史とは何か(岩波新書 青版 D-1)

エドワード・ハレット・カー 著
岩波書店

歴史とは現在と過去との対話である。現在に生きる私たちは、過去を主体的にとらえることなしに未来への展望をたてることはできない。歴史的事実とは、法則とは、個人の役割は、など歴史における主要な問題を明快に論じる。

1962/3./ 252p
978-4-00-413001-7
本体 ¥860+税



毎日新聞 2020/08/15



戦国大名の経済学(講談社現代新書 2575)

川戸 貴史 著
講談社

兵士の装備一式 70 万円、鉄炮 1 挺 50 万?60 万円、1 回の合戦の費用、縮めて 1 億円! 戦争の収支、戦国大名の収入、鉱山開発や城下町、税制改革など、経済という視点から戦国時代の日本を読み解く。

2020/6./ 286p
978-4-06-520015-5
本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2020/08/15



テレビの荒野を歩いた人たち

ペリー 萩野 著
新潮社

1953 年、本放送スタート。その瞬間から正解のない挑戦が始まった! 未知のニューメディア「テレビ」と格闘し、ドラマ、スポーツ、バラエティ、CM の道を切り拓いた 12 人のインタビューで伝説の裏側を明かす。

2020/6./ 270p
978-4-10-339422-8
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/08/15



四季の創造～日本文化と自然観の系譜～(角川選書 638)

ハルオ・シラネ 著
KADOKAWA

日本では、なぜ調和的な自然観が人びとの感性に根付いたのか。貴族たちは、いかにして絵や調度、衣装のなかに再現された「二次的自然」を愛でたのか。都市と里山の関係において育まれてきた自然観の系譜を描き出す。

毎日新聞 2020/08/15

2020:5./ 277p
978-4-04-703677-2
本体 ¥2,000+税



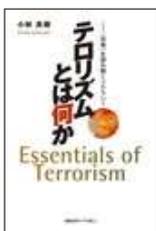
悪党・ヤクザ・ナショナリスト～近代日本の暴力政治～(朝日選書 997)

エイコ・マルコ・シナワ 著
朝日新聞出版

博徒、ヤクザ、暴力団…。彼らはなぜ政治と密接に結びつくことになったのか。その暴力はどのように制度化されていったのか。アメリカの気鋭の歴史学者が、暴力と民主主義が絡み合いながら共存してきた日本の近代史を描く。

毎日新聞 2020/08/15、朝日新聞 2020/08/22

2020:6./ 294p,79p
978-4-02-263097-1
本体 ¥1,700+税



テロリズムとは何か～<恐怖>を読み解くリテラシー～

小林 良樹 著
慶應義塾大学出版会

終わることのないテロの問題。「テロ」とは果たして何なのか。テロの歴史や特徴、テロ発生のメカニズム、未然防止するための諸施策、近年のテロの情勢など、理論と実際の両面からテロ問題の全体像の本質を鋭く描く。

毎日新聞 2020/08/15、読売新聞 2020/08/23

2020:6./ 19p,325p
978-4-7664-2680-9
本体 ¥2,700+税



「育ちがいい人」だけが知っていること～今からでも「育ち」は良くなる!～

諏内 えみ 著
ダイヤモンド社

「育ちの良さ」は、美人を超える一生の武器。「美しいお辞儀の仕方」「雨の日のすれ違い方」「常に新札を準備しておく」など、「育ちがいい人」が身につけている、ふるまいと心遣いを伝授する。

毎日新聞 2020/08/22

2020:2./ 254p
978-4-478-11013-3
本体 ¥1,400+税



世界を歩く、手工芸の旅

青幻舎編集部 編
青幻舎編集部 著
青幻舎

チン族の刺?と伝統布、インドのブロックプリント、リトアニアのリネン、ナイジェリアの藍染布…。文化や暮らし、出会いに魅了され、各地に残る手工芸を求めて世界へ繰り出す 18 人の女性たちの小さなエピソードを紹介する。

毎日新聞 2020/08/22

2020:6./ 167p
978-4-86152-783-8
本体 ¥2,300+税



白人ナショナリズム～アメリカを揺るがす「文化的反動」～(中公新書 2591)

渡辺 靖 著
中央公論新社

トランプ政権の誕生以降、白人至上主義と自国第一主義が結び付いた「白人ナショナリズム」が広がるアメリカ。社会の分断が深まるなか、自由主義の盟主はどこへ行くのか。草の根のリアルな動向を現地から報告する。

毎日新聞 2020/08/22

2020:5./ 212p
978-4-12-102591-3
本体 ¥800+税





マックス・ウェーバー～近代と格闘した思想家～(中公新書 2594)

野口 雅弘 著

中央公論新社

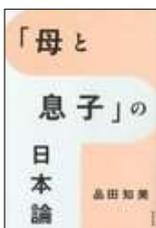
合理性や官僚制というキーワードを元に、資本主義の発展や近代社会の特質を研究し、政治・経済学をはじめ幅広い学問分野に多大な影響を及ぼしたマックス・ウェーバー。彼の56年の生涯を辿りつつ、思想のエッセンスを解説。

毎日新聞 2020/08/22

2020.5./ 8p,276p

978-4-12-102594-4

本体 ¥860+税



「母と息子」の日本論

品田 知美 著

亜紀書房

成績がよいことですべてが免罪される男たち。それを支える母と息子の濃密な関係が日本社会の基層を作っている。教育ママ、ひきこもりなど、母と息子の関係性をものさしとして、日本社会のいまを考える。

毎日新聞 2020/08/22

2020.7./ 250p

978-4-7505-1649-3

本体 ¥1,700+税



西田幾多郎生成する論理～生死をめぐる哲学～

氣多 雅子 著

慶應義塾大学出版会

西田幾多郎は、実在の論理を徹底的に追究することで、「人生の問題」を究極まで突き詰めようとした。「善の研究」から「哲学論文集」まで代表作を順に読み解くことで、その思索の軌跡をたどり、西田哲学の核心に迫る。

毎日新聞 2020/08/22

2020.7./ 260p,6p

978-4-7664-2690-8

本体 ¥3,200+税



談話集 勘三郎の死～劇場群像と舞台回想～

中村 哲郎 著

中央公論新社

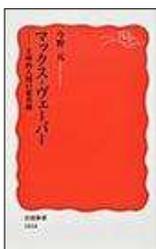
何と言っても、いい役者。面白い、楽しい役者。ある時代の、人の世の花だった。躍動する戦後歌舞伎の展開を背に、39年間の交流と葛藤を綴った迫真の名エッセイ集。雑誌、雑誌掲載記事に書き下ろしを加えて書籍化。

毎日新聞 2020/08/22

2020.7./ 404p

978-4-12-005321-4

本体 ¥3,000+税



マックス・ヴェーバー～主体的人間の悲喜劇～(岩波新書 新赤版 1834)

今野 元 著

岩波書店

今も読み継がれる名著を数多く残した知の巨人マックス・ヴェーバーの「人格形成物語」を描く試み。個別作品の鑑賞ではなく、それを生み出した文脈、つまりヴェーバーの生涯およびそれを取り巻く歴史的な文脈を解明する。

毎日新聞 2020/08/22

2020.5./ 9p,242p,8p

978-4-00-431834-7

本体 ¥860+税



アフリカ出身サコ学長、日本を語る

ウスビ・サコ 著

朝日新聞出版

マリ共和国から中国を経て日本へ。京都精華大学長ウスビ・サコが、波瀾万丈な人生をコミカルにふり返るとともに、日本のあり方、日本人の生き方を鋭く問う。内田樹の解説付き。

毎日新聞 2020/08/22

2020.7./ 223p

978-4-02-331880-9

本体 ¥1,500+税





中国の歴史<5> 「中国」の形成 現代への展望(岩波新書 新赤版 1808)

岡本 隆司 著
岩波書店

様々な勢力が角逐する 17 世紀から、東アジアに君臨した清朝が潰え、混迷の中から「中国」が姿を現す 20 世紀、そして現代まで。多元と一体の狭間で「一つの中国」を夢みるに至った 400 年を描く。シリーズ中国の歴史、完結。

2020:7./
17p,199p,19p
978-4-00-431808-8

本体 ¥820+税



毎日新聞 2020/08/22



シカゴ詩集(岩波文庫)

カール・オーガスト・サンドバーグ 著
岩波書店

サンドバーグは、アメリカ機械文明の象徴ともいべきシカゴが生んだ詩人。この詩集は黒人や労働者に対する深い愛情を現わし、大胆な詩風によってアメリカ詩壇に清気を送った。ホイットマンの流れをくむ若々しい気迫にみちている詩集。

1957:6./ 234p
978-4-00-323181-4

本体 ¥560+税



毎日新聞 2020/08/22



エゴ・ドキュメントの歴史学

長谷川 貴彦 編
岩波書店

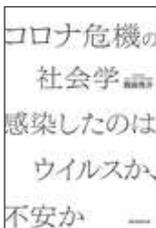
一人称で綴られた史料への関心やその扱い方は、フェミニズム、文学理論等の影響を受けながら大きく変容を遂げてきた。魔女裁判の告白書、遊女の日記、前線兵士の手紙など、多彩なエゴ・ドキュメントを新たな文脈で読み解く。

2020:3./ 9p,273p
978-4-00-022303-4

本体 ¥3,000+税



毎日新聞 2020/08/22



コロナ危機の社会学感染したのはウイルスか、不安か

西田亮介 著
朝日新聞出版

2020 年前半における新型コロナの感染拡大と対策の経緯を時系列で整理。コロナ危機と社会意識の連関を論じ、「感染の不安/不安の感染」をめぐる、繰り返される忘却、反復、脊髄反射的反應の構図を明らかにする。

2020:7./ 214p,16p
978-4-02-251695-4

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/08/22、産経新聞 2020/08/30



16 歳からはじめてのゲーム理論～“世の中の意思決定”を解き明かす 6.5 個の物語～

鎌田 雄一郎 著
ダイヤモンド社

経済学の中で最も重要である「ゲーム理論」の思考法を、ネズミ親子のストーリーで身につけることができる本。身近で分かりやすい「小さな社会」を舞台にした 6.5 個の物語と、詳しい解説を収録する。

2020:7./ 157p
978-4-478-11071-3

本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/08/22、日本経済新聞 2020/08/29



古今琉球風物歌集

湊 禎佳 著
七月堂

突き抜ける天の底方に落ちるがにわがまなざしは紺藍の向かふに 軍營の車道をうじゃうじゃ這ひまはるアフリカマヒマヒ角突き踊れ 短歌をメインに、八八八六の音数律の琉歌を随所に置いた歌集。

2020:7./ 157p
978-4-87944-402-8

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/08/24



百轉～大石悦子句集～(鶴叢書 令和俳句叢書 第355篇 1)

大石悦子 著
ふらんす堂

天地を束ねし結柳かな 画眉鳥を加へ百轉ととのひぬ「有情」につづく第6句集。平成24年から平成の代の終わる平成31年4月までの357句を収める。初句・季語索引つき。

2020/7./ 230p
978-4-7814-1259-7
本体 ¥2,800+税



毎日新聞 2020/08/24



十七音の可能性(角川俳句ライブラリー)

岸本 尚毅 著
KADOKAWA

五七五の十七音。極小の詩形だからこそできる、表現の可能性。近現代俳句とは、俳句の発想を広げ、深く掘り下げていく創意の歴史である。時代を代表する俳人たちの多彩な表現や工夫を読み解き、作句の極意を探る。

2020/8./ 179p
978-4-04-400574-0
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/08/24



贖罪～ナチス副総統ルドルフ・ヘスの戦争～

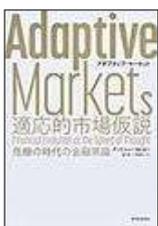
吉田 喜重 著
文藝春秋

ソ連侵攻を抑えた1941年5月10日、ヒトラーの代理人ヘスは、イギリスとの講和工作のためスコットランドへ。しかしそれを知ったヒトラーは激怒し、チャーチルはとりあわず…。ナチス副総統ヘスの生涯を描く歴史大作小説。

2020/4./ 349p
978-4-16-391099-4
本体 ¥3,000+税



毎日新聞 2020/08/29



ADAPTIVE MARKETS 適応的市場仮説～危機の時代の金融常識～

アンドリュー・W・ロー 著
東洋経済新報社

金融市場は経済法則では動かない。金融市場は人間の進化の産物であり、むしろ生物学の法則で動く。気鋭の経済学者が、社会生物学、進化心理学などを応用した金融の新理論「適応的市場仮説」を提唱する。

2020/5./
11p,618p,71p
978-4-492-65489-7
本体 ¥4,500+税



毎日新聞 2020/08/29



沖縄米軍基地全史(歴史文化ライブラリー 501)

野添 文彬 著
吉川弘文館

沖縄に米軍基地が集中しているのはなぜか？ 沖縄戦から現在に至るまでの通史を描き、米国・日本・沖縄社会が基地をいかに位置付けてきたのかを検討。普天間基地移設など課題を多く残す問題の淵源に迫る。

2020/6./ 6p,221p
978-4-642-05901-5
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/08/29



中年の本棚

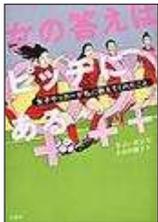
荻原 魚雷 著
紀伊國屋書店出版部

気力・体力の衰え、老いの徴候、残り時間…。人は誰でも初めて中年になる。この先、いったい何ができるのか。“中年の大先輩”と“新中年”に教えを乞う読書エッセイ。『scripta』連載に書き下ろしを加え書籍化。

2020/7./ 268p
978-4-314-01175-4
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/08/29



女の答えはピッチにある～女子サッカーが私に教えてくれたこと～

キム・ホンビ 著
白水社

女たちは今日も、仕事や家族、そして人生と折り合いをつけながら、サッカー場へ集まる。サッカー初心者の著者が地元の女子チームに入団し、男女の偏見を乗り越え、連帯する大切さを学んで成長していく、抱腹絶倒の体験記。

2020.8./ 266p
978-4-560-09777-9
本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2020/08/29



ウイルスの世紀～なぜ繰り返し出現するのか～

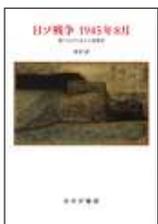
山内 一也 著
みすず書房

20世紀後半以降、人間社会に次々と出現した新ウイルスを「エマージングウイルス」という。新型コロナウイルス(COVID-19)をはじめ、数々のエマージングウイルス事例を通じてウイルスと人間社会の関係を俯瞰する。

2020.8./ 237p,14p
978-4-622-08926-1
本体 ¥2,700+税



毎日新聞 2020/08/29



日ソ戦争 1945年8月～棄てられた兵士と居留民～

富田武 著
みすず書房

「触れたくない敗戦史」ゆえに放置されてきた日ソ戦争の戦闘の詳細と全体像はいかなるものであったか。軍事的側面を中心に、これまで断片的にしかわかっていなかった戦争の真実を明らかにする。

2020.7./ 23p,367p
978-4-622-08928-5
本体 ¥3,800+税



毎日新聞 2020/08/29



信長徹底解説～ここまでわかった本当の姿～

堀 新/井上 泰至 編
文学通信

織田信長はいかに記録され、どのようにフィクションで描かれてきたか。歴史学と文学の両分野からアプローチし、それぞれ最新の研究動向をふまえて論じ尽くす。信長関連の作品目録、演劇作品初演年表も収録。

2020.8./ 397p
978-4-909658-31-9
本体 ¥2,700+税



毎日新聞 2020/08/29



笑いの哲学(講談社選書メチエ 729)

木村 覚 著
講談社

「笑いとは平穏な日常の破裂である」という視点から、「優越」「不一致」「ユーモア」の笑いを分析。日本社会の笑いの状況を見渡しつつ、秩序・掟への揺さぶりとして笑いの可能性を考える。

2020.7./ 244p
978-4-06-520293-7
本体 ¥1,750+税



毎日新聞 2020/08/29



醜い日本人～日本の沖縄意識～ 新版(岩波現代文庫 社会 14)

大田 昌秀 著
岩波書店

沖縄に関して、日本人は醜い。沖縄返還交渉の進むなか著者はあえてこう断言し、憤りを冷徹な筆致に置きかえて、明治期から沖縄戦、アメリカ統治下にいたる沖縄と日本の関係を説き起こした。沖縄問題の原点を示した旧著に、沖縄県知事としての経験をふまえて加筆した新版。

2000.5./ 330p
978-4-00-603014-8
本体 ¥1,360+税



毎日新聞 2020/08/29



永続敗戦論～戦後日本の核心～(講談社+α文庫 G294-1)

白井 聡 著

講談社

1945 年以來、われわれはずっと「敗戦」状態にある。政治哲学や社会思想が専門の著者が、一種の義務感や切迫感に駆られて綴った時事的政論。戦争責任をきわめて不十分にしか問うていない戦後日本の問題を改めて指摘する。

2016:11./ 295p

978-4-06-281651-9

本体 ¥780+税



毎日新聞 2020/08/29



まんがでわかる日米地位協定～高校生が日米地位協定を調べてみた!～

平良 隆久 著

小学館

名前は知っていても実態が分からない「日米地位協定」。その正体や成り立ち、運用などについて、日米地位協定を調べる高校生たちのストーリーマンガを交えて詳しく解説する。

2020:8./ 285p

978-4-09-388781-6

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/08/29